

基督伝道隊 戸畑教会

新年聖会記録

(1987年1月4日—7日)

標語

右◆わたしは義なる神、救い主であって、
わたしのほかに神はない。

(イザヤ45:21)

中◆地の果なるもろもろの人よ、わたしを
仰ぎのぞめ、そうすれば救われる。

(イザヤ45:22)

左◆あなたこそ生ける神の子キリストです。

(マタイ16:16)

講師 伊規須 太郎

(戸畑教会牧師)

録音不備のため省略
した部分があります

出席者各位

頌主 皆様のお祈りに支えられて、新年
聖会も、恵みの中に終わりました。集会記
録を作成致しましたので、感謝を込めて
お送り申し上げます。祝福を祈りつつ

1987.3.4

戸畑教会 伊規須 太郎

目次

ページ

第1章 主権者を認める ————— 5

始めた方は全うされる／天の拡がりはどれ程か／微小な世界も果がない／動物に見る造化の妙／地を徒に創造されず／祖先崇拜の風土の中で／偶然に命が誕生する確率／姿勢をはっきりすると／健康とは特別の状態／最高の愛の関係

第2章 私を尋ね求めよ ————— 17

私を求めて欲しい／心に向けるなら／隠れた所で語らない／何とか自分を現そうと／御霊は聖言を当てはめて／問いながら聞く／神様は孤独？／どういう事をして下さるか／心を頑なにしないよう／受け入れたら責任を持つ／必ず報いがある

第3章 祈れば答える ————— 31

私に呼び求めよ／目がくらんで迷う／私の所に持って来なさい／身分を変えて下さる／隠されている事を示したい

第4章 義なる神、救い主 ————— 39

言葉が足りない／神様は完全無欠／義なる神、救い主／恐るべき知的作業／私のほかに神は無い／あなたは私のものだ／一つにならねばやまない／一つの事実、一つの命令／人を一変させる救／時計が回り始める

第5章 地の果を顧みる主——53

慈しみのまなざし／罪のどん底から／泣きながら打ち
叩く／火の蛇を竿の上に／定められた通り動き出す／
明らかにされたものは光となる／はいと従うだけで／
どんな事でも出来る神様

第6章 仰ぎ望め救われる——61

何を仰ぎ望むか／十字架そのものを仰げ／十字架の現
場／あなたはどこにいるか／誰が信じ得たか／説明は
無用／新しく造られる／見なさいと言われたら／誰が
事実を曲げたか／この道筋以外に無い／神の保証に間
違いはない／先に神様が保証された／道筋ははっきり
／自ら答える／無理はされない

第7章 自分を指して誓う——77

1—6回のまとめ／何度も誓われる訳／それでも誓う
と言うことは／冷たい態度をとったら／謙譲は美德ど
ころか／神様の真実は大盾／業に従ってむくいられる
／パイプが通じると／必ず当たる賭／神様の公平／最
初の一步が肝腎／すべてのものが始まる／主によって
勝ち誇る

第8章 主に向かって怒る——95

主に向かって怒るとは／そうでなくてもいいでしょう
／パウロの涙／栄光の体と同じ形に／神様が決定され
たら／聖霊に逆らう者／今の歩みが永遠の決定に／最
も危険なもの

第 9 章 幸いな告白——107

私を誰と言うか／ものの見方は人の生き方／義と愛の神／自分が答えなければ／無責任は出来ない／世の事は調べれば分かるが／聖霊もまた証人／従うと分かる／受け入れた者と同じ待遇を／イエス様の受けた万物を／弟子の足を洗われたイエス／人の為は何が出来るか／ああ心豊か！

第 10 章 この岩の上に——123

自分が答えねばならない／教会とは何か？／黄泉の力も勝てない／小さな教会／それぞれの材料で建てる／土台は一つだが／天国の鍵を預かる／死にさえ勝つ／活ける神の完璧／自覚すれば迷わない／答えられる祈りをせよ／質問の重さ！

第 11 章 私について来た——141**いと思うなら**

誉められたペテロ／サタンよ引き下がれ／自分の十字架を負う／御言葉に対する驚き／動き出せば楽／パラドックス／望みつつ信ずる／タバコをやめたい／生ける者の願いを飽かす／本心は分かる／放蕩息子の本心／足が浸ると同時に／実行が問題／命を見いだす

第 12 章 約束のものを受——157**けるには**

時間は約束されていない／失望せずに祈り続けよ／鏡の前で姿勢を正して／確信を最後まで／祈りつつ歩む／感謝あかし会



第 1 章 (4 日午前 1 0 時)

主権者を認める

	ページ
始めた方は全うされる	6
天の拡がりはどれ程か	7
微小な世界も果がない	7
動物に見る造化の妙	8
地を徒に創造されず	10
祖先崇拜の風土の中で	11
偶然に命が誕生する確率	12
姿勢をはっきりすると	13
健康とは特別の状態	14
最高の愛の関係	15

「天を創造された主、すなわち神であってまた地をも造り成し、これを堅くし、いたずらにこれを創造されず、これを人のすみかに造られた主はこう言われる、『わたしは主である、わたしのほかに神はない』」（イザヤ45:18）

【始めた方は全うされる】

◆ここに「天を創造された主」と書いてあります。私はここを読む時に創世記の始めを読むような気持ちがいたします。「神は始めに天と地とを創造された」という書き出しで聖書が始まっています。神様が何も無い、真暗な所してもやもやした淵の上に、「光あれ」と言われた時に光が出て来ました。そこから天地創造が始まってまいりました。

「天を創造された主、すなわち神である」神様がこうしてご自分を宣言される事によって、すべてのものが開けて参ります。今日から戸畑教会の新年聖会を持たして戴きたいと願ってまいりました。今日は日曜礼拝であると共に、新年聖会の第1回になる訳です。こうして神様がすべての物を始めて下さる――という事は、全うして下さるという事でもあります。

人間でも少し真実な人は、物事を始めたら途中で投げ出す事はありません。必ずやり遂げ、何らかの結末を付けます。ですから今年の新年聖会も今の時点でどうなるのか分かりません。会期も6日まで3日間という一応の予定になっていますが、7日まで延長され、4日間になるかも知れない。そうすると12回の連続集会になりますが、私はその全部を今見通す事は出来ません。神様がこの方向に始められるという事ははっきりしていますが、終りについては分らない。遠くの漠然としたものは見えますが、一回一回の集会についてどういう事をお語りになって、どのお言葉でどういうふうに、という事までは分らないのです。

12枚のカードを作っておりまして、遠くの方はまだ漠然とした事しか分らない。近いところのカードには教えられた事がぎっしりと書いてあります。先に行くに従ってだんだん薄くなって、遠い所はもやがかかっているように、良く見えません。しかし私に良く分らないから、不確かかと言う

と、そうではない。神様は中途半端でいい加減な事をなさる方ではありませんから、必ず大丈夫。格別に私達の魂を愛し、神様の前に喜ばれるように、清い者とされるように、神様の前に恐れなく立つ事が出来るようにという、非常な熱心を持って、働いて下さっているのですから、私は確信をもって、感謝している訳であります。

◆天地創造について、昨日から今朝にかけて色々な事を学びました。先ず天の広がりという事について。「天を創造された主」この一言の中にどれ程広いものが含まれているだろうかと思えます。人間は宇宙の広さをあれこれ考えますが、その果を知る事が出来ません。人間が果と言っているのは、そこまで分ったという訳ではない。およそ考えられる果が200億光年（光が200億年かかって到達する距離）と言うのですから気が遠くなるような話であります。そこから先は無いのではなくて分らないのです。私達が住んでいる地球のような天体が何千億何千兆あるか分かりません。

太陽系の惑星は九つあります。微少なものまで含めますともっと沢山あります。又、私達の所属する銀河の中には太陽よりも大きな恒星が2千億個位あると言われます。ですから地球クラスのは、いくらあるか分かりません。そういう銀河がまた宇宙に何千億あるか分らない。人間が知り得る範囲でもそうですから、全体については想像も出来ません。

コップに水を入れて、縁がここにあるというように人間の頭で宇宙の果を思い、「無限という事はないだろう」と考える。しかし神様はそれを遥かに超えた方です。「天を創造された主」とおっしゃるのは、人間の考えている果のその先まで、全部お造りになった方であります。

◆「また地をも造り成し」とあります。私達は地球に住んでいます。小さい方に目を注ぎますと、これまた際限がありません。今朝も、朝日賞（朝日新聞社が各界の業績のあった人に賞を贈る）の受賞者が出ておりました。その中の2、3の表題だけ見ましたが、ある学者が人間の遺伝子について研究をしている。遺伝子というのはDNAという、二重螺旋構造を

【天の広がりは何れ程か】

【微小な世界も果がない】

もった生体高分子で約30年前に発見されたものです。それが色々な組合せによって、蛋白質を作っている。同じ蛋白質でも髪の毛があれば、爪のようなものもあるし、皮膚があれば内臓もありますから、そういう物を遺伝情報に従って作り出していく。人間の暗号にも換字暗号と言うのがあります――一字を一つずつずらして書いたり読んだりする――丁度そのように遺伝子の信号の組合せを、こっちにずらして一つ、ここで一つ、こっちにずらしてもう一つという訳です。そういう三つの情報を作るように働いている、そのきっかけになるものが、こう言うものと、こう言うものであろう、というような事を調べた――その業績に対して賞が贈られたという事であります。

他にも色々な業績がありました。神様が地をお造りになって、堅くするとおっしゃるのは、ただ土地を造ったと言うだけではない。その地の中には、私達も生きていれば動物も生きている、植物もあります、様々な自然現象が起っています。物の中には更に細かいものがきれいに詰まれています。人間の観察手段が進歩すると、次々にそういうものが分ってくる、すると色々と考えて理屈を付ける、なる程というようなものが出て来る。しかし次の段階になると、いやいやそんなに簡単なものではなかった、もっと細かいこういう事があったと、どんどん新しいものが出てまいります。しかし神様は人間の行き付くところの一番先のその先まで、すでに完成しておられる訳であります。

◆私は動物の生態に興味があります、ただ面白いからではなく、その中に神様の創造の知恵を見るからです。先日も「かっこう」という鳥について見ました。かっこう、かっこうと鳴くので私達はなんとなく愛らしい鳥のように思いますが、大変おかしな生き方をする鳥であります。托卵と言って他の鳥の巣に卵を産む、その際、その巣の卵を一つ飲込んだり、下に落としたりする。自分の卵はその鳥の卵と色柄も大きさも非常に良く似ています。かっこうがさっと逃げたあと、その鳥が来て暖めてかえす。不思

識な事に「かっこう」の卵は他の卵より一日早く孵化して、目も見えない声も出ないうちに、背中で他の卵を皆、押し出して割ってしまう。自分の体に触れる物は全部押し出す。その背中は卵を押しやすいように窪んでいるというのです。こうしてよその鳥の巣で、よその母鳥から養ってもらって成長する。

狙われる側の鳥「おおよしきり」はインドネシアあたりから渡って来る訳ですが、その前にちゃんと「かっこう」が渡ってきて、雄がなわばりを作って、1週間ぐらいして雌が飛んで来て、雄のなわばりに入ります。そして結婚して卵を産むのですが、丁度その頃に、卵を入れられる方のおおよしきりが渡って来て巣を作り、自分達の卵を産む。「かっこう」の雌は卵を持っていて、産む時が来ているのですが、近くの枝に縦に止まってじっと隠れている。何時間でも相手の鳥の巣を観察して、ちょっと食事に出た際にさっと入って、何秒かの間にその巣の卵を一つ飲んで、自分の卵を産んで逃げる。帰って来たおおよしきりが盛んに攻撃を仕掛けて来ますが、つつかれながら、ぱっと逃げてしまう。そういう事をしている。

嫌らしい生き方をすると思いますが、そうしなければ彼等としては生きられないのでしょう。神様がそういう不思議な知恵を与えて下さっている。彼等がどうしてそういう事を身につけるのだろうか。最近はおおよしきりの反撃が強硬になり、卵を産み難くなったので、標的を「尾なが」という別の鳥に変えつつある。「尾なが」はまだ警戒していないので、のんびりと巣を空けて餌を食べに行っている間に、卵を産み込まれる。あまりのんびりしていますから、「かっこう」の雌が何匹も狙って、一つの尾ながの巣に四つぐらい卵を産み込んでしまう。すると最も早く孵化した雛が、皆押し出す。「かっこう」の卵も、押し出してしまっ、一つだけ残った雛が成長する、実に驚いた事です。

のんびりしていた「尾なが」も次第に警戒を始めたので、「かっこう」は更に新しい鳥に狙いを付けていこうとやることでした。そういう事

を何代にも亙ってやっているのです。一羽の鳥がこっちに行って攻撃されたから、こっちに行こうというのではない。

そういう知恵をどのようにして神様が与えておられるのだろうか、神様の創造の妙と言いますか、「地を造り成して、これを堅くした」とおっしゃる方は、小さな鳥の脳の中に、その遺伝子の中に、そういう変化に対応出来るものを置かれている——神様の創造は固定したものでなくて、変化に対応出来るようなプログラム迄、組込まれていると考えますと、実に素晴らしいものだと思います。

そんな驚いた事を為し遂げる方が、私達の責任者となり、「私は神である、私の他に神はない」とおっしゃる。これは私にとって本当に感謝であります。この神様が教会の頭であり、聖会の頭であり、私達の信仰の頭であり、基本であられるので恐れる事はない、ですから私は感謝している訳であります。

【地を徒に創造されず】

◆「いたずらにこれを創造されず」(18節半ば)と言うのですが、人間は無駄な事をよくします。無駄のように見える中から新しいものが出て来るという事もあります。神様は私達の住む所をいたずらに創造しなかったのです。たまたまこういうふうに出て来たから、「それではこれをどうしようか」と言うのではなくて、私達の為に、人のすみかとして造られたと書いてあります。

最近になって人間は天文学の知識が進み、探査衛星を飛ばして他の惑星を調べたりします。それらの表面状況が分ってきました。太陽に近いほうから水星、金星、地球、火星、木星、土星ですが、水星の大気は非常に薄いヘリウムであって、しかも太陽に照らされている側は摂氏440度、照らされない側は零下170度ですから、大変なものです。私達は生きておられません。

又、すぐ外側にあります金星の大気は炭酸ガスが90気圧。雲は濃硫酸です。更に外側の火星の大気は炭酸ガスで、100分の1気圧、地球の100分

の1しか大気がない状況であります。

地球だけが丁度こういう環境で、人が住んでいる。最近になって、「地球は丁度良い所にあった、こういう条件でH₂Oが液体として存在する事が出来る。酸素が出来、大気が出来、こういう表面の状況で私達が生きられる。我々はうまい事を行った」と言っていますが、神様は最初から地球を私達の為に、「人のすみかとしていたずらにこれを創造されなかった」のです。

そういう方が私達の神様となって、「私は主である、私の他に神はない」とおっしゃっている。そうであるならば決して心配する事も、恐れる事もあります。この方が責任者となって今年は、「恵みをもって、年の冠とする」とおっしゃったのです。

◆ですから私は先ず神様を認める、「そうです。その方がいらっしゃいます。私はその方によって造られ、知恵をもって保たれています」と告白するのです。人間の知識は進みますが、真相には程遠い、しかしその全部の根底から神様が造って支えておられる。しかもその方はただ偉大というだけではでなく、私達を愛して、私達の為にご自分の一人子を十字架に付けて惜しまない方であると思うと、もはや何も申し上げる事が無い訳であります。

2,3日前にある本屋さんが、「仏教とキリスト教」という本を持って来ました。インド哲学の研究者が仏教の立場に偏らないで、公正に研究をしたという本です。日本人の宗教観、日本人が宗教とか魂というものをどう考えているかという事が書いてありました。日本で一番根底にあるものは、「祖先を祭らないでおくと、必ず子孫にたたる」と言うことであると言います。

私達も先祖を大切にいたしますが、それは信仰とは次元の違うものであります。神様はそういう一切を超えた方、天を創造し地を創造された方で、私達に対して、「私は神であるぞ」とおっしゃる、考え違いをしてはなら

ないのです。先祖は私達を生み出してくれた人には違いありませんが、あくまでも神様によって造られたものであって、決して神でも何でも無い。拜むものでもないし、たたるものでも無い。「私は主である。私の事を先ず知りなさい。私に向かってまず姿勢を整えなさい。それがすべての基本である」とおっしゃっておられるのです。

ですから聖書の始め、創世記1章1節を信じる事が出来るならば、聖書は全部信じる事が出来ると言われる。今日、聖会の第1回に、神様が、「天を創造された主、すなわち神であってまた地をも造り成す」とご自分を宣言して下さった事は、ここに私達の信仰の土台がある、そうでなければならぬと言う事であります。

◆この神様の他に神は無いのですが、こんにちの学校では進化論を教えています。人間は神様が造ったのではなく、猿から進化したのだと教えますが、それは人間の一つの考え方に過ぎません。

数日前に、創造科学研究会からある資料を送ってきました。私は購読会員になっていますので時々資料を送って来ます。その中にアメリカのある生化学の研究者の文章がありました。(その人は、科学的にも聖書は間違いではない、進化論は間違いであるという事を証明しようとする立場の人です) 宇宙始まって以来、色々な原素が存在している、その中から生命が偶然誕生する確率を計算すると0を4万個つけるほど大きな数の中でたった1回起る、そのくらいの確率である、つまり0であると言っていました。

別の表現によりますと、屑鉄置場にハリケーンが襲ってきて、ばらばらに散乱した中からボーイング747 ジャンボジェット機が出て来る、そんな確率だと言うのです。だから神様の偉大な(遺伝子の)設計図が無くて、私達の絶妙な命が誕生して、神様を恐れ敬う者として造られるということは、絶対に有り得ないとその人は言っている訳であります。

神様は、「私は主である、私の他に神は無い」と宣言しておられる。人間がどんなに理屈をこねても、どんなに想像をたくましくしても、論議を

尽くしても、その中から命一つ造る事は出来ない。あくまでも、「私は主であって、私の他に神は無い」と神様が繰返しておられる通りであります。

◆イザヤ書のこの前後の章を読みますと、神様はご自分が主人公である事を強い調子で繰返し述べておられます。基礎がありませんと、その上にどんなにお話しても、神様は私達に届く事が出来ません。人間同士の話でも、「なんだそんな事、なんだあの人の言う事、そんな事は気にかけない」という事でしたら、どんな話をしても相手に入りませんから、神様は聖書に記された素晴らしい恵みを、私達に注ぐ為に、ご自分が主人公であり、他に神が無いという事を、徹底して語っておられます。今日から3日間、4日間、聖会が持たれますが、神様がどういう事を語って下さるか分かりませんが、先ずここで姿勢をきちっと整えて、神様の恵みを注いで戴きたいと思います。

実はこのすぐ裏の雨樋が壊れました。隣から物が落ち掛かって壊れたのですが、雨のひどい晩に私が外に出ましたら、大きい屋根から水がどつと流れ落ちて大変なはねがあがっていました。それで夜遅かったのですが電話をかけて、「こういう事で大変だ、お宅は直してくれるとおっしゃったけれど、お宅の屋根屋さんは忙しいのでしょうか」と言いますと、「明日します」と修理してくれました。水の道が出来ますと、今度はこぼれません。激しい雨が降っても、全部流れて溝に落ちますから、排水口のごみ屑もきれいになりました。

神様の前に私の姿勢がはっきりしません時には、丁度ごみ屑が詰まったような、あるいは破れた樋のような状態でした。私のうちに神様の事がどうしても入って来ませんでした。自分の事が先ず出てくるのです。「そんな事があるだろうか」「そんな事はとても考えられない」「私は今これでどうなっているだろうか」と、神様から聞くよりも、自分の考えを持ち出す。自分の事を先ず見るものですから、神様の恵みが入って来ませんでした。しかしきちっと姿勢を整えて戴いて、この方はすべての主人公でいら

っしゃる、私があればこれ考える、その頭すらも造って、保っていらっしゃる方——その方に対して先ず耳を傾けなければならないという姿勢をとりました時に、神様のみ言葉は私のうちに入ってきて、実に驚いた事をして下さいました。

◆「私は義なる神、救主である」と言われる絶対正義の方がご自分を開いていらっしゃる。大きな組織体を運営するのに、いい加減な事をしていたら、混乱が起りますから、必ずきちっとした筋道を立てます。神様は義なる神であり、同時に救主である——とご自分を開いて下さいました。聖会に当たって、神様の前に先ず姿勢を整えて、奥義を悟らせて戴きたいし、それによって私達の生涯が変えられるのであります。

自分の事を振り返ってもそう思います。神様の事を知らなかった時は、私は傍観者でした。神様のおっしゃる事を横の方から聞いているのです。あんな事をおっしゃっている、こんな事を書いてある、そうかなと言うぐらい。しかし、「私はお前の神である。義なる神、救主、私の他に神は無い」とおっしゃる方を真直ぐに受け止めますと、確かに私の生涯が変えられました。

それからこんにちに至る迄、こういう生涯を送らせて戴いています。肉体的にも絶えず支えられました。実は年末の30日ごろに咳が出て、喉の具合が悪くなりました。体温を計れば微熱があっただろうと思います。ふと、「新年には集会が続くので、風邪をひいたら大変」と思いましたが、自分が用心して良くなるだろうと言うのではないのです。勿論節制はしますが、私を生かして肉体を支えて下さっている方は、この天を創造された主、地をも造り成して下さい、この方ですから、私はその方に対して祈りました。「神様、あなたの業が行われようとしています。私はあなたにお従いさせて戴きとうございますから、どうかその為に肉体を保って戴きたい」そして今朝、このように保たれております。

昨晚も風邪がどうかなと思いつつ風呂に入って早く休みました。早い

と言ってもふだん、夜更かしが多いので、そう早くはないのですが、途中で目が覚め、少し腰が痛くなりました。人間はなかなか丁度良いという事は出来ないもので、寝不足をすると眠かたりきつかたりしますが、少し余分に寝ますと、早く目が覚めたとか、腰が痛いとか言って、まことに勝手なものであります。

ですから神様が私達を健やかに守って下さるという事は只事ではないと思うのです。何も無いという事は、本当に無いのではなくて、惣ち倒れてしまうべきところを支えられて、今ここに有ると思うのです。

何か物を作る時に丁度良いようにと言うのは難しいものです。歌を歌っても丁度良いのは難しい。2.3年前ですがハレルヤ・コーラスを歌いました。女声三部の楽譜を使ったので、私共男性はアルトを歌う訳ですが、他のパートを聞いていて、ぱっと出る所がなかなか難しい、半拍休んだり、1拍半歌ってみたり、ピタリと合せるには多くの練習が必要でした。しかし神様は今、私の健康を丁度良いように保って、支えていらっしゃる。「私はお前を造って、堅くして、命を支えている主である、私の他に神はない」とおっしゃっておられます。

ですから今日、精神的にも、肉体的にも、靈的にも、全部の肩の荷を神様の前に下ろして、「はい、教会の頭はあなたでいらっしゃいます。私の信仰の主人公もあなたでいらっしゃいます。肉体を支えて下さるのもあなたでいらっしゃいます。丁度良いように保って下さっているのもあなたでいらっしゃいます。聖会の主人公もあなたでいらっしゃいます。どうぞあなたがすべての事を行って全うして戴きたい」と私は今、願っています。

◆どうかこのお方の前に先ず姿勢を整えて、お言葉に従う者でありたいと思います。そうするならば喜んでご自分のみ心を行って下さいます。人間でも、従う人に対しては喜んでしますが、従わない人に対して喜んでする事は出来ないでしょう。私達が神様に対して姿勢を整えてまいりますならば、喜んで私達のうちにご自分の業を行って下さり、私達もまた喜ぶので

す。やりたい事が出来た、美味しい物を食べられた、楽しい所に行けた、これも楽しいかも知れませんが、一番幸いな事は、（人からでもそうですが）愛されて愛する、これは最高であります。人間は恋愛すると美しくなると言われますが、神様から愛されて神様を愛すると、身も心も美しく素晴らしくなります。神様から喜ばれて、輝くような栄光の業をこの身に行って戴くならば、今年一年はどんなに素晴らしいものでしょうか、この方の前に姿勢を整えたいと思います。

「天を創造された主、すなわち神であって、また地をも造り成し、これを堅くし、いたずらにこれを創造されず、これを人のすみかに造られた主はこう言われる、『わたしは主である、わたしのほかに神はない』」このお方が恵むと約束しておられる。「恵みをもって年の冠とした」とおっしゃっていますから、素直に恵みをお受けする者になりたいと思います。お祈り。

(1987.1.4 戸畑教会礼拝=戸畑教会新年聖会.1)



第 2 章 (4 日午後 2 時)

私を尋ね求めよ

	ページ
私を求めて欲しい	18
心を向けるなら	19
隠れた所で語らない	20
何とか自分を現そうと	21
御霊は聖言を当てはめて	22
問いながら聞く	23
神様は孤独?	24
どういう事をして下さるか	25
心を頑なにしないよう	26
受け入れたら責任を持つ	28
必ず報いがある	29

「アサおよびユダとベニヤミンの人々よ、わたしに聞きなさい。あなたがたが主と共にいる間は、主もあなたがたと共におられます。あなたがたが、もし彼を求めるならば、彼に会うでしょう。しかし、彼を捨てるならば、彼もあなたがたを捨てられるでしょう」(歴代下15:2)

【私を求めて欲しい】

◆ユダの王アサの時に、エチオピアとゼラの百万の軍隊、三百の戦車が攻めて来ました。アサは神様に祈って勝利を得ました。それは、「力のある者を助けることも、力のない者を助けることも、あなたにおいては異なることはありません」――神様はどんな事でもお出来になる。沢山だから大変だとはおっしゃらない。アサはそういう信仰をもって神様に寄り頼みました。神様は連合軍をことごとく打ち破って下さったので、一人も生き残った者がなかったと書いてあります。その時に預言者が神様のもとからつかわされて、アサを迎え、こう言った訳であります。

彼等は勝利に酔っていました。その時に神様は、「もし彼を求めるならば、彼に会うでしょう」と言われました。人間は一度、勝利を得ますと気が緩みます。これで良いという訳です。信仰でもそうだと思います、大変恵まれたからこれで良いと思うのですが、神様は、「少し安心していなさい」とはおっしゃいません。小さい子供に、這えば立て、立てば歩めと言います。低い所で止まって欲しいと思う親はありません。必ずもう一つ、と導きますが、神様は、「あなた方が、もし彼を求めるならば、彼に会うでしょう」とおっしゃいました。ここで更に求めて欲しいと言う訳なのです。神様はもっと注ぐ事がある訳です。彼等は大勝利と思ったのですが、神様の標準はもっと高かった訳であります。

人間はいかに狭い所、低い所で止まるかという事であります。神様から恵まれて振り返りますと、「あの時に自分は何と目が見えなかったのだろうか」と思います。一寸したものが出来ると安心してしまう。神様の方はもっともっと高い所まで引上げようとしていらっしゃる、その標準はどれ程のものか分かりません。高さが違うのです。10を20に、あるいは100に――

—そんな程度ではないのです。

今朝も私は、「天を造り、地を造られた」という方がどれ程偉大であるかという事を学んだのですが、宇宙の果まで200億光年と言いますが、それは宇宙の果ではなく、人間の知恵でそこまでは考えられる、その先は分からないという所です。

私達の体は1メートルか2メートルですが、これと宇宙の果とを比べてみますと、0の数にして20いくつか違います。しかし神様はもっともっと違う。ある人が宇宙の始めに存在した色々な原素から偶然に生命が誕生する確立を計算したそうですが、分母に0が4万付いたそうです。0一つが10倍ですから凄いもので、全くゼロと言うことです。DNAの遺伝情報が組み合わされて各種の蛋白質が作られて行く様を見ていると、偉大な設計者の緻密な計画の下に、我々が造られたと言うことを疑う事が出来ない。神様という方はそれ程偉大な方でいらっしゃる。私達と少々の違いではないのです。この神様が私達に期待していらっしゃるのですから、低い所でこれによろしい等とは言えません。

◆渴かない馬に水を飲ませる事は出来ません。神様はご自分に少しでも心を向けて求めるならば、それに注がれる訳であります。しかし私達がノーと言うならば、神様もノーと言われる。彼を捨てるならば彼も捨てられると書いてあります。ですから、「私は教会にいくら行っても、恵まれないから駄目」とか、「あの教会は恵まれない、この教会はどうある」とか考える事は出来ないと思います。こちらが神様に対してどういう姿勢をとるかにかかっているからです。求めるなら会って下さる、決して、「あなたは駄目です」とはおっしゃいません。

ここにも新しい方が見えていますが、どんな方が見えても決して、「あなたはこれこれの理由で駄目です」とは言いません。ある所に、「いささかでも気持があるならば」と書いてあります。少しでも姿勢があるならば、どんなにでもしてあげようと思います。ところがそれ程求められませんと、

【心を向けるなら】

がっかりであります。求めない者に与える訳にはいかない。神様はそれ以上の方であります。私達が僅かなものを備えて待つ以上に、神様は沢山の素晴らしいものを備えて、私達に注ごうと待っていらっしやるのに、反対を向いてしまうならば、どんなに落胆されるか分らないと思います。

◆イザヤ45:18/19、神様はどこでそんなに語っておられるか、私達には一向に聞えないと思いますが、神様は語っているとされます。「隠れたところで語らない」どこか陰の方でこそこそと話して、「聞えたか？」と言う訳ではないのです。地の暗い所で語られても分かりませんが、神様は明らかに語っていらっしやる。人間がこの耳で物の音を聞く、そういう感覚で聞いていると聞えない。心の耳を開いていますと聞こえるのであります。

2,3 日前に本屋さんが本を届けて来ました。それは「仏教とキリスト教」という本です。仏教の経典は色々あるが、書き出しはみんな、「如是我聞」（によぜがもん）という言葉で始まっているそうです。「是の如く我聞く」つまり、「お釈迦さんがこのように語ったと、私は聞きました」という事だそうです。高弟が12人とかあったと言われますが、その人達が直接間接に聞いた事がお経に書いてある。大乘経典とか般若経とか般若新経とかあります、法華とか観音とか華嚴など色々あります。その書出しがみな、「如是我聞」だそうです。

お釈迦さん自身がどう言ったかは別なのです。聞いた人が、「私はこう聞きました」という事ですから、それを又聞く人はどう聞いたら良いか分からない。本当は何だろうかという事になります。

しかし神様は、「私はヤコブの子孫に『私を尋ねるのは無駄だ』とは言わない。私は隠れた所で語らない」またイザヤ1:18/19 に、「――これは主がそのみ口で語られた事である」とあります。神様はご自分で直接に語って下さる。神様は練りに練って思いを込めて、いらぬ物は省いて、必要にして十分な事を私達に語っていらっしやる。一言が大変重い訳であります。

国会の答弁で総理大臣が、「そのように検討します」と言ったら大変重い。ちょっと1%を越えただけ、ちょっと顔を出しただけと言うのは困りますが、もし総理の一言が重いとすれば、神様が、「私はこうである。私がこの口から語ったのである」とおっしゃるお言葉はどれ程重いものでしょうか。

◆ちょっと口がすべったのではないのです。神様は何とかして自分を現わそう、自分の事を話そう、聞いて欲しいと思っていらっしゃるのですから、聞く事はやさしいと思います。隠そうとしているのを聞き出すのは、難しいと思います。警察官が調書をとるのは難しい、黙秘権を使って名前も言わない、なるべく聞かれない事は答えないでおこうと思っている。それを一生懸命に他の方から話しを持って行って、「辻つまが合わん、ここはどうしたのだ」という訳で突いてまいります。

最近日本人がアメリカの有名ビルを買う例が多いそうですが、ユダヤ人の商社が中に入って、なかなか交渉が難しい。聞かれない事は言わなくて良い事になっているそうで、的確に質問しないと重大な事でも聞き出せない。ですから真剣勝負だということです。

神様がもし自分の事を隠そう話すまいと、ガードが堅かったら、大変ですが、神様は逆に何とかして現わそうとしていらっしゃる、これは嬉しい事です。

人間でもその気があれば目で合図をしたり、足のつま先を動かしてモールス符号で合図をしたり、野球の監督のサインのように、ちょっとしたしぐさで相手に重要なサインを送る。神様はそういうお気持ちであります。尋ねて欲しい、何とか知って欲しい。ここまで開いているのにどうして気が付いてくれないのかと、やきもきしていらっしゃる訳であります。

イザヤ65章には、神様は背く民に対してひねもす手を伸べた――呼んでも呼んでも向こうを向いて知らん顔をしている人に対して、「さあ、こっちを向いて下さい、こっちを向いて私の事を知って欲しい。この手に触

って御覧なさい」と手を伸べていらっしやる。神様は実に素晴らしい方だと思いました。

この隣の部屋でテレホン聖書のテープを回していますが、これは終日回るようにセットされています。1月1日の午前0時に、テープを代えました。12時2,3分前に代えて、確認のボタンを押して聞いてみて、良しと言う訳で、着信のボタンを押しました。殆ど同時にかちっとかかりました。待っていた人があったのだらうと思います。それから動力線のスイッチを入れに行こうと立ち上がると又すぐかかりました。そんなふうにして朝までいくつかがかかりました。どなたがかけたか分かりませんが、テレホン聖書はどなたでも聞けるように、一日中しかけてあります。

神様は私達に対してひねもす手をのべて下さる。一日中、背く民にさえも手を伸べ続けて下さる。戸畑教会は集会が沢山あります。週に12回あります。しかし出席する方が少ないと言われます。しかし少なくとも開きます。最終バスは一人しか乗ってなくても走るように、集会は人が出た出ないではない、定期集会がきちんとあって、出られる方は出るし、出られない方は出られない。機会が沢山あるから自分の都合の出来る時に出席する事が出来る訳です。神様は私達がどれ程背中を向け、世界中の人がどんなに背いても、なお呼び続けていらっしやる訳であります。

◆神様はご自分のみ思いを、真直ぐ語っていらっしやる。人間はそれとなく話しておいて、大概分りそうなものだ、というような事を言いますが、神様は真正面から真直ぐな事を告げて下さる。しかもそれは私達が理解出来るように、み旨を正しく開いて下さるのです。

聖霊の働きについて、1コリント2章に、「御霊は神の深みまでもきわめるからである」とあります。聖霊は私達に対してご自分のみ心を正しく伝え、神様と私達の仲立ちをして下さる。丁度私達の体に水分が60%か70%かあって、あらゆる営みの仲立ちをしているようなものです。そのように聖霊は語られた神様のお言葉を私達のうちに当てはめて下さるのです。

その時に正しくみ旨が分ります。

人間は自分の心の思いを知る事が出来ません。そんな事はないと思いますが、「心は万物より偽るもので、はなはだ悪いものである」と書いてあります。自分は本当の事を言っていると思うが、もう一つ奥に自分を偽るものがある。

ネブカデネザル王が自分の夢を学者達に解かせた話があります。「王様、それはどういう夢ですか。言って下さったら私達はその意味を解き明かしましょう」と言ったのですが、王様は言わない。「夢から当てよ」と言うのです。王様だから無理難題をふっかけたと思うのですが、私は彼が自分の夢を、自分で言う事が出来なかったと思うのです。しかしダニエルは祈って、それを神様に開いて戴きました。人間というものは自分の心を正しく知る事も、表現する事も出来ません。

御霊はすべてのものをきわめ、神の深みまでもきわめ、私達にそれを正しく当てはめて下さる方です。その事を知りますと私達は神様の前にどうしたらいいか、求めると言っても、神様の方がすでに開いていらっしやるのです。

◆ハバククという預言者がおりますが、彼は神様と問答をしました。問いながら聞いた訳です。私は新年聖会の前に大きな図解をした訳です。カードを整理して、並べ変えて大きな図面を作る、畳一枚ぐらいあります。カードの数にして200枚ぐらいでしょうか、そういうことをしてみたのですが、その時に教えられた事の一つは、「おのが救いを全うせよ」という事です。その内容は、①聞きなさい、②見なさい、そして③問いながら聞きなさい。④訓練を避けないで受け止めなさいというものです。そこで特に教えられたのは、問いながら聞くという事です。神様に対して求めるのですが、神様の方も問われる。ですからこちらは聞きながら問い、問いながら聞く。

色々な人達の対談が本になります。対談はただ話合うのではなく、問い

【問いながら聞く】

て話して、話して聞いているのです。どちらが質問者か分からないようになって来る。その間に色々新しい事が出て来る訳であります。いつですかノーベル賞受賞者Y先生と京都大学のU先生の対談、「人間にとって科学とか何か」という本を見ました時に、対談とは素晴らしいものだと思いました。両者が持っているものを合せてだけではない。その中から違った物が出て来る、それが又、聞く者、読む者にとって大変な益になるものだとなりました。

ハバククが神様と対話している中から、有名な「義人は信仰によりて生くべし」という事が出て来ます。ハバククは物見櫓に立って、神様に何とお答えしようかと言って、神様のみ心を引き出しています。

【神様は孤独？】

◆モーセは神様の前に執り成して、神様の隠れたご性質を引出しました。それは最初に十戒を与えられた時、アロンが山の下で金の子牛を作って叱られました。モーセは執り成しました。真剣な執り成しの中で、出エジプト記34章にある、「主、主、憐みあり恵みあり」というみ旨を開かれました。モーセがあれだけ執り成しをしなかったら、神様の内に隠れたままで、外に出なかったかも知れません。モーセはそれを引き出したと私は思います。神様はモーセに対して、「私の隠れた事まで引き出して困る」とおっしゃらない。むしろ子供が乳を吸い出すように、引き出してくれた事を喜ばれたと思います。神様が私達に手を伸べて下さっている、それに対して聞きつつ問い、問いつつ聞く、そういう姿勢で神様を求めてまいりますならば、どんなにでもご自分を開いて下さるのであります。

「燔祭よりもむしろ神を知ることを喜ぶ」(ホセア6:6)、燔祭とは神様の前に、牛や羊を殺して壇上で火に焼いて捧げる祭であります。一番大きな祭であって神様が喜ばれるものですが、神様の真意は、「むしろ神を知る事を喜ぶ」――神様に対してどんなに良い行いをし、大きな業をして奉仕するよりも、神様を知る事を喜ぶ。何故かというと、自分を知って欲しいと第一に願っていらっしゃるからです。神様が願っていらっしゃる事

に対して、お答えするならば、喜んでご自分を開いて下さる。それは、「あしたの光が現れるように、春の雨が地を潤すように」必ず現して下さいなのです。

神様は孤独の神でいらっしゃると思ったのです。どうしても自分の事を知って貰えない。人から誤解されますと、非常に寂しいものです。日曜学校の時間前に公園に行って、子供達に呼び掛けます。顔を知っている人はいいのですが、知らない人は、「何だこのおちさん」というような顔をしてじろっと見る。そうすると非常に気持が悪いです。人さらいでも何でもない、むしろ良いおとずれを伝えに来たのですが、残念でたまらない。

その時に思ったのは、私が神様に対してこんな目付をしているのではなからうか、ということです。じろっと見て、「神様は私に何をさせようと言うのか」「私は一生懸命に働んでいるのに、これ以上、何とかと言われても知りません」という訳です。これでは神様は寂しいし、非常に気分が悪いです。神様は今日、「あなた方がもし、求めるならば、会う」とおっしゃる。神様は何とか求めて欲しい、そして会いたい——会うと言っても、やあやあと顔を合わせるようなことではなくて、思いを込めて会おうとおっしゃる——大変な事です。

◆アメリカのレーガン大統領とソ連のゴルバチョフ書記長が会うとなれば、ただ「こんにちは」と言う事はありません。非常に重大な議題について意見を闘わす、ひょっとすると世界の命運に拘るような事を話しますから、会うと言っても大変です。神様はレーガンやゴルバチョフではありません。宇宙とその中のすべてのものをお造りになった方でありながら、私達に会って下さるのは、どういう事をなさる為でしょうか。

「もし最初の確信を、最後までしっかりと持ち続けるならば、私達はキリストにあずかる者となるのである」(ヘブル3:14)「私達が望みの確信と誇とを最後までしっかりと持ち続けるなら、私達は神の家なのである」(ヘブル3:6)とあります。預かる——私達が御馳走に預かるというと、

【どういふ事をして下さるか】

食べて、楽しむ、体に取り込みますとそれが自分の栄養になり力が出来
ます。

そのようにキリストに預かるとは、神様のものになる、神様が私達の食
物になる（と言うのは少し申し訳ない言い方ですが、イエス様が、「私の
肉は真の食物、私を食べなさい」とおっしゃっているのですから、言っ
てもいいと思います）神様自身が私達の中に入って下さって、私達が神様と
一つになる、食物が私達の体になるように、一つになって下さる。

また、逆に神様が私達を嗣業として下さると書いてあります。嗣業とは
先祖から受け継ぐ財産です。私達が神様を嗣業とするのではなく、神様が
私達を嗣業とするとおっしゃる、これはどういう事でしょうか。神様が私
達を生きがいとして下さるのです。「お前がすべてだ」とおっしゃって下
さる。私達が神様をすべてとするのは当然ですが、逆に神様がそうおっし
ゃって下さる。それがキリストに預かることです。

◆その為には心をかたくなにする事がないようにとおっしゃる。神様に
対して一筋に求め、お声に従って行く。決心はしますが、人間の心はすつ
とにぶれます。そして、「そんなに神様、神様と言ったって神様は食べら
れる訳ではない。やっぱり仕事第一、自分で働いて、お金を儲けなければ
いけない」とそういうふうを考える。あるいは、「自分の体は自分で気を
付けなければ（勿論不節制をする訳ではありませんが）神様神様と言っ
てもどうなるか」と言っているうちにだんだんと心が堅くなってきます。
そうすると神様が私達と一つになろうとしておられるのに、私達がそれを
拒絶する訳です。丁度何か密着すべきものの中にビニールシートを一枚挟
んだようになります。

昨日焼き物の話を聞きましたが、非常に高級な焼き物を焼く時には、じ
かに物が触れないように、一旦素焼きの筒の中に入れて、しかもその底に
何か敷いて、焼き付かないようにするそうです。お菓子を作るのもそう
でしょうが、一寸何か敷いておくか、挟んでおくかすると、くっつかない

【心を頑なにしないよう】

——神様が私達に対してくつつくどころか、私達と一体になる事を期待しておられるのに、こちらがちょっと何かを挟む、するとくつついたようでも、すぐ離れます。

こういう事をしているのではないのでしょうか。意識的に自分で、「駄目です」と反対する人もありますが、善意であっても、「何とか従いたいのですが、私は駄目でございますから」と言って、何かを一枚敷いている、駄目と言っても挟んだ方が悪いのですから、それでは神様は困ってしまいます。

「不信仰な悪い心をいだいて離れ去る者がないように、あなた方は罪の惑しに陥らないように日々互いに励まし合いなさい」外科医が傷の処置をする時にガーゼ交換をします。痛くても、古いガーゼを剥がして薬を付けていく。私は失敗した事があります。戦後、草刈り中に鎌で指先を切ったのですが、自分で手当てをしていましたら、ガーゼが肉にくい込んで長い間苦勞しました。

医者はずうしません。古いものを引き剥がして処置をします。丁度それと同じように、人間の心は堅くなって、皮が出来ていくので、日々古皮を剥がして、新しく神様の前に信仰を持ち続けなければなりません。そうするとキリストに預かる者となるとおっしゃるのです。

神様は何としてもご自分を開こうとして熱い心を持っておられるのですから、こちらも熱い心を持って、何もかも脱ぎ捨てる。今まで駄目だったとか、私は分りませんとか、年限が浅いとかは全部捨てて、神様がこの私をお望みなのですから、ぶつかって行ったらよろしい。古皮が出来ていたら、神様が取り除けて下さいます。よそを向いている人に、「あなたは駄目です」と言ったら、いらん事を言うと怒られるでしょう。しかし何とかして下さい、お願いしますと言って来る人が、間違っていればちゃんと教えて取り除いて下さる。受入れた人については、神様があくまでも責任を持って下さる。

◆週報に報告してありますように、1月10日午後3時半からここで結婚式が行われます。ここの教会にあまり来た事の無い人ですが、ある人から頼まれました。最初はお断りしました。「結婚式場の代りに式をする事は出来ません。教会は生ける神様に仕える所ですから、神様を知らないで誓っても意味が無い、そんな事をしたら私は神様の前に罪を犯します。どんなに譲っても、今後神様を求めるといふ姿勢だけははっきりして戴きたい。断ろうと言っているのではない。もしそれを表明されるなら、してあげようと言っているのだから」と言いましたら、すぐその晩にお二人とお父さんが来られて、「是非、そういうふうにしますから宜しくお願いします」と言われました。

そこで今度は私の方が色々準備をします。赤い絨毯を用意しました。プログラムを特別に作らないとの事ですから、それなら教会の記録をプログラムに使うように準備しましょう。それから個人伝道をしなければならぬ。神様はこういう方で、その方の前に誓約をするのだから、それを誠実に守るならば、こういう祝福がありますと話をしなければならぬ。個人伝道の為にもプリントを準備する。7日までは聖会だからリハーサルは8日の夕方にして、9日は3回の集会がありますので、式は10日の午後に行なうと言う事になりました。

私は準備をしながら、思いました。最初はやかましい事を言った、しかし一旦受入れたからには、あくまでも責任を持って準備をする。式辞もこういう点を是非、お話ししなければならぬと、お祈りをしています。

神様も同じだと思うのです。私達にとって最初は難しいように感じられるかも知れない。毎日新しく引き剥がして、神様に姿勢を整えて、最後までしっかり持ち続ける――そんな事は大変と思いますが、今、呼ばれて、今、裸で飛び込みますという姿勢がありさえすれば、あとは神様が責任を持って下さる。ですから結婚式について相談が来れば責任を持って、きちんと、お答えをいたします。

私達が神様に対してきちっと姿勢を整えさえすれば、あとは責任を持って教えて下さるのです。間違っていれば正して下さいし、分らなければ教えて下さる。力が無ければ力を与えて下さるのです。そうしなければやまない気持ちを持って、心がたぎっていらっしやるのです。私の小さな経験でも、いつもそうでありました。神様のお言葉に従うと神様の方が素晴らしい事をして下さる。

◆イザヤ45:19、神様は決してこそこそとおっしゃらない。あくまでも明らかに、直接に御口から正しい事を語って、「求めなさい、答える、無駄な事は無い、必ず報いる」という事を今日も語って下さっています。

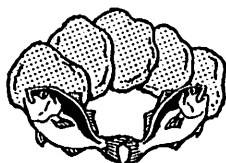
この聖会がどういう形になって行くのか、それは分かりません。一応、3日間の予定ですが、4日目に延長されるかも知れない。というのは4日目（1月7日水曜日）は定期集会在が3回ありますから、時間を一部変更して聖会の第4日目として戴けるように準備をしている訳です。

歴代下15:2、「彼は、出て行ってアサを迎え、これに言った、『アサおよびユダとベニヤミンの人々よ、わたしに聞きなさい。あなたがたが主と共にいる間は、主もあなたがたと共におられます。あなたがたが、もし彼を求めるならば、彼に会うでしょう。しかし彼を捨てるならば、彼もあなたがたを捨てられるでしょう』私達が特別に飛上がって何かを求めるのではなくて、神様の方がまず呼び掛けていらっしやる。「ああ、そうですか」と神様に向かって心を開きますならば、神様を求める事になります。神様が求めて下さっていると言う事を認めるならば神様が必ず会って下さる。

「あなた方のわざには報いがある」（7節）必ず報いがあるとおっしゃる。人間はそう言っていたが出来なかったという事がありますが、神様が「ある」と言われたら、必ず報いがあります。後になってみれば分ります。私はこの聖会を持たせて戴いて、ここまでまいりましたのは本当に感謝であります。年末に少し、咳が出て何か熱っぽい、これはどうだろうかと考えたのですが、神様は憐れんで支えて下さいました。魂も支えて下さって

いる。集会の主であり、「私の他に神は無い」とおっしゃる方がどうい
事をして下さるか、全く神様のお働きであります。この方を待ち望んで今
日も神様に向かって心を開きたいと思います。お祈り。

(1987.1.4. 戸畑教会新年聖会.2)



第3章(4日午後7時)

祈れば答える

	ページ
私に呼び求めよ	32
目がくらんで迷う	33
私の所に持って来なさい	35
身分を変えて下さる	36
隠されている事を示したい	37

「地を造られた主、それを形造って堅く立たせられた主、その名を主と名のっておられる者がこう仰せられる、わたしに呼び求めよ、そうすれば、わたしはあなたに答える」(エレミヤ33:2)

◆エレミヤがエルサレムの将来について、「カルデヤに捕えられるのが神様のみ旨である」と預言いたします。ところがエルサレムの民は、「そんな事はない、そんな事を言うから士気が衰える」という訳で、彼はとうとう軟禁されてしまいました。しかし神様はその中でエレミヤにご自分を現して下さいました。全能者としてご自分を現された訳であります。「事を行う主、事を成してこれを遂ぐる主、その名を主と名乗る者、かく言う」と文語訳にありました。

ローマ書11章の終りに、「万物は神より出で、神によって成り、神に帰す」とありますように、事を始めこれを成し遂げる、すべての主である方としてエレミヤにご自分を現されました。「私に呼び求めるなら、私はあなたに答える」と。それは対話というよりも、むしろ命の交わりを求められた訳であります。

人間がお互いを知るには、話す事が一番です。近付いて、一言ふたことでも話してみると、相手の人が分りますから、交わりが出来ます。あるいは相手に対する尊敬が出来ます。人は他人を一刀両断で、あの人は駄目とか、この人は良いとか、決めてしまいますが、なかなかそうは言えません。良い所もあれば違った面もありますし、自分と違った面から学ぶ所が非常に多かったり、教えられたりします。とにかく接近して交わらなければどうにもなりません。

神様は造り主であって自分から交わりを求めなくてもよい方です。人間が神様から造られたのですから、神様に近付いて、「どうぞ近付けて下さい。こんな汚れた者、本当は神様の前に近付く事は出来ない者で、どんなに拒まれても、蹴とばされても仕方の無い者ですが、どうぞ憐れんで下さい」と行くのが当然でしょう。それを神様の方が近付いて下さる。し

かも監視の庭に閉込められている者にです。

人間だったらどうでしょうか。有力者に頼めば何とかなるかも知れないが、刑務所の中にいる人に頼んでも始まらない、と思うでしょう。ところが神様は、監視の庭に閉込められているエレミヤに対して、ご自分を開かれ、「あなたが私に呼び求めるならば、私はあなたに答える、あなたに大きな事を示そう」とおっしゃいました。

ここに新約の（十字架の）恵みが隠されていると思います。それは神様の方から進んで手を伸べて下さっているからです。

ノアの洪水の時に神様は、「人間の考える事は皆肉であって、私に従わない。生れた時から悪い事ばかり考えている、だからこれを拭ってしまおう」と丁度お皿を洗って、きれいに拭いて伏せてしまうように、大洪水をもって地上を滅ぼされました。神様は一人の魂も顧みられる方ですが、人ではありませんから、惜しむ事をなさいません。何十万何百万であっても滅ぼしてしまう訳です。しかし神様は、こんな者を顧みて、神の子イエス様を地上に送って十字架を立て、私達に対する交わりの道を開いて下さいました。

そんなにおっしゃっておられるのに、私共が間違えるのです。ここを良く読んでみますと、「私に呼び求めよ、そうすれば私はあなたに答える」と書いてあります。これは随分念入りな言い方ですが、「私に呼び求めなさい」と言われても人間は間違えて神様を誤解します。沢山の宗教が現れ、神様とはこんな方だろうか、あんな方だろうかと考えます。しかし、真の神様、「事を行い、事を成してこれを遂ぐる主」はただお一人、神々の神、主の主、王の王であって、「私だよ、私の所に呼び求めてきなさい」と呼びかけていらっしやいます。

◆イザヤ45:20/21、神様は、「私の他に神はない」と何故繰返し言われているかと言うと、どんなに言われても人間は目がくらんで迷っていくからであります。20節に、「木像をにない、救う事の出来ない神に祈る者は

【目がくらんで迷う】

無知である」とあります。それは木像をになう人が多いからです。木像をになうとは、神様を自分で造る、あるいは鉄で造ったり、石で造ったり、木で造ったりしますが、木であれば一部分を燃やして食事を作ったり、パンを焼いたりして、残りで木像を造る。それを安置していても、いざ、火事となったら持って逃げなければならない。

震災か何かの時に、ある人が自分の家に祭っていた石像を担いで一生懸命に逃げたそうです。火の中をくぐったり、何かにぶつかったりしながら、少し安全な所まで逃げて、下ろして見たところ頭がもげていたそうです。かついで回らなければならないような、首がもげてしまうようなものを拜んでいる人は、それと同じであると言われています。

木や石の神様だけではありません。私達はこの世の常識に頼ったり、人の力に頼ったり、お金に頼ってみたり、健康に頼ってみたり、色々しますが、それらは皆救う事の出来ない神です。一時はよろしい、これがあれば大丈夫と思える。あるいはこれだけ元気になったから当分大丈夫――しかしそれは私達を救う事は出来ません。いよいよとなればたちまちひっくり返ってしまいます。

私は昨晩もお腹が少し痛みました。盲腸炎にでもなって入院したら、聖会に出る事は出来ません。しかしその時に直ぐ、「あなたは救う事が出来る方でいらっしゃる。どうぞ憐れんで、包んで下さい」と祈りまして、今こうして支えられています。人間の健康はたちまちに無くなってしまいますが、神様が憐れんで支えて下さるとき守られます。

救うことの出来ないものに頼って、暫く安心しても、これは当てになりません。いつまた、来るか分からない不安で恐れます。それは救う事が出来ないのです。

今朝早く目が覚めまして、枕元のラジオをつけましたら、たまたま仏教の話がっており、その例話の中で、ある大学教授が胃の病気の為に10年ほど苦しんで亡くなった。その間に本人も覚悟はしていたが、死ぬ事につ

いて一生懸命に考えたそうです。死んだらどうなるのだろうか、無になってしまうのだろうか、それなら考える事も何も無いのだが、それも思えない。何かあるのだろう、しかしそれが何であるか分らないと、大変悩んで最近亡くなったという話でありました。

どんなに学問をきわめていたとしても、あるいはどんなに健康な人であったとしても、いつか健康はなくなってしまう。果たして自分はどうなるのだろうか。10年悩み抜いても解決はなかったというのです。どんなに思い惑っても、人間の中から救いは出て来ません。

◆しかし、「あなた方の言い分――思い煩う事があるならば、恐れや、不安があるならば、それを私の所に持って来て述べなさい」と言われるのです。「共に相談せよ」を他の訳で見ますと、「お互いに話し合いなさい」という意味のようであります。「お互いに良く話し合っ、何を一体求めていったらよいか、何を神様の所に持って行ったらよいか良く相談して、私の所に持ってきなさい。私はあなた方の神である。他に神は無い。求める者に自分を隠さない、昔から言っているではないか」「あなた方が信じるとか信じないとか言う前に、私が先ず語っているではないか。だからあなた方の言い分をここに持ってきなさいと」おっしゃる。

5つのパンと二つの魚を祝して5千人を養われた時に、イエス様は、「それをここに持ってきなさい」（マタイ14章）とおっしゃいました。そして群衆を50人ずつ組にして座らせ、弟子達にパンを祝福して分け与えられた。弟子達がそれを配って回った時に皆が食べ飽きて、残りが12籠に満ちました。はじめは、「たった5つのパンです、たった2匹の魚です」と言っていたが、「それをここへ持ってきなさい」と言われて、弟子達はそれをイエス様の所へ持ってまいりました。その時にイエス様が祝福して下さって、沢山の人が満ち足りました。

「私の所に持って来るならば、あなた方の呼ばれる声に応じて、答えよう」とおっしゃるのですが、神様は対症療法ではなくて、根本的な、隠れ

【私の所に持って来なさい】

た大きな事を示されます。私がどういう者であり、あなた方にどうしようとしているのか、原則を開こうと、おっしゃるのです。

相手がはっきりしていないと、何事もはっきり出来ません。間違った所に持って行くと、恥をかきます。神様は、「天を創造された主、即ち私である。地をも造り成し、これを堅くして、人の住みかに造った主、私の他に主は無いのである」と言われる。この方の所に真直ぐ持って行きますならば、神様はどんな驚いた事をしてでも私達に答えて下さいます。

「もろもろの国から逃れて来た者」と書いてありますが、私達は色々な戦いの中、問題の中におります。今日もある方が、深刻な顔をして、「先生どうぞお祈りをして下さい。困った事です」と言われる。「お目出とうございます」と言って、どんなに着飾っても、御馳走を食べても、人は拭う事の出来ない様々な痛みを持っています。それは人によって形も程度も違うでしょう。他の人の事は、軽く見えるかも知れませんが、一人一人の中には痛みや悲しみがあります。

「もろもろの国から逃れて来た者」――私達は色々な国から逃れて神様の所へまいります。簡単に自分で勝つ事が出来るなら、お祈りをしないかも知れない。しかし、「しえたげる者の手に力あり」とあります。私達がとても跳ね除ける事が出来ないようなものが、周囲にいっぱいあります。ですからその中から逃れて来た者は、共に近寄り私の所に来なさい。木像ではない、救う事の出来ない神ではない、まさしく私の所に持って来て、私に向かって言い分を述べなさい、と言われるのです。「私によらなければ、誰も父のもとに行く事は出来ない」とありますが、イエス様の名によって、神様の所に言い分を持ってまいりますならば、私達に対して必ず答えて下さるのです。

◆「大きな隠されている事を示す」とありますのは、私達が神様のものとなって、再び恐れない、再び嘆かない生涯に入る事を言われているのです。私達と神様が離れた状態ではなく、一つになってしまっ、私達が神

様の中にあり、神様自身が私達の避け所となって、私達を防護して下さい。
それが神様のご期待であります。

私達は前々から言われていても、長いあいだ気付きませんでした。今晚、神様は、「あなた方の言い分を持ってきなさい」「昔から言っているのだよ。今晚、私の前に耳が開けるならば、今晚あなた方に答えようではないか」とおっしゃっておられます。

古代エジプトの蓮の実が4千年ぶりに発芽して、開花した事があります。4千年の間、蓮の実の中には、命があったのですが、少しも動かなかった。それを日本の蓮の博士が適当な条件に置いたところが、4千年ぶりに花を咲かせたと言うのです。それは私達も同じではないでしょうか。私達が神様のお言葉に従って、「はい」と従順になるならば、その時から命が芽生えるのです。もし従順になりませんなら、例え4千年でも5千年でも、それ以上おいても命は動き出しません。

◆「地を造られた主、それを形造って堅く立たせられた主、その名を主と名のっておられる者がこう仰せられる、わたしに呼び求めよ、そうすれば、わたしはあなたに答える。そしてあなたの知らない大きな隠されている事を、あなたに示す」(エレミヤ33:2/3) 今晚、神様は私達に対して何とかしてご自分の奥義、大きな隠されている事を示したい。そして私達を再び恐れない、嘆かない、再び迷う事がない身分に入れようとして、呼び掛けて下さいました。

もう一度神様の前に姿勢を整えて、「神様はどんな事でもお出来になる方です。その方が私に対してそんなにお考えになっていらっしゃるのです。どうぞみ旨を行って戴きたい。私の所に持ってきなさい、そうしたら答えるとおっしゃる方、どうぞ答えて戴きたい。私の身分をすっかり変えて、神様の物として戴きたい」と祈りたいと思います。そうするならば再び恐れる事も悲しむ事も無い、生涯に入れて下さいます。

もう一度神様に対して、「そうです、他の方ではない、あなたに対して

【隠されている事を示したい】

求めます。どうぞあなたが約束通り答えて下さい。大きな隠されている事を示して下さい。あなたのみ旨、私に対するみ心が何であったのか、神様のご期待は何であるのか」求めたいと思います。

私は今晚色々の個所を思い起すのですが、私に対して成そうとしていらっしゃる、神様の大きなみ思いを遂げて戴いて、再び動く事の無い生涯に入れて戴きたいと思います。そして「義なる神、救主であって、ほかに神はない」とおっしゃる方を知り、いつでもそのお方の内にあって、共に生活する者になりたいと思います。お祈り。

(1987.1.4. 戸畑教会新年聖会.3)



第 4 章 (5 日午前 1 0 時)

義なる神、救い主

	ページ
言葉が足りない	4 0
神様は完全無欠	4 1
義なる神、救い主	4 1
恐るべき知的作業	4 2
私のほかに神は無い	4 4
あなたは私のものだ	4 4
一つにならねばやまない	4 6
一つの事実、一つの命令	4 7
人を一変させる救	4 9
時計が回り始める	5 0

「もろもろの国からのがれてきた者よ、集まってきて、共に近寄れ。木像をにない、救うことのできない神に祈る者は無知である。あなたがたの言い分を持ってきて述べよ。また共に相談せよ。この事をだれがいにしえから示したか。だれが昔から告げたか。わたし、すなわち主ではなかったか。わたしのほかに神はない。わたしは義なる神、救主であって、わたしのほかに神はない」(イザヤ45:20/21)

【言葉が足りない】

◆今年標語としてこの三つを与えられました。右側に、「私は義なる神、救い主であって、私の他に神はない」というお言葉があります。神様はご自分を、「義なる神、救主」と宣言されました。私は辞書で「義」を引いてみました。文字の起りが書いてありまして、上半分は羊という意味、羊は美しいものを象徴している。下半分の音になっている「が」とか「ぎ」という所は、舞の姿である。両者を合せて、神様の前で人が美しく舞う姿を現している。そのことから筋道が通って正しい事を「義」と言うと言っていました。

聖書に記されている「義」という字は、(字として、言葉として)少し足りないと思うのです。神様が、「私は義である」とおっしゃる中に、どれ程のものが込められているかと思えます。

ヨハネ3章には、「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった」とあります。そこを読みましても、愛という字が足りない、日本語の愛という言葉では足りないと思いました。神様も足りませんから、「賜ったほどに」とおっしゃっておられます。その程度を表現する事が出来ない。神様が、「義」とおっしゃるのは、どれほど正しいものであるか、どれほど筋が通ったものであり、どれほど清いものであり、どれほど明らかなものであるかは言葉で表現する事が出来ないと思えます。

聖書にも「神様は光であって、暗い所が無い」(1ヨハネ1)、「回転の影も無い方である」(ヤコブ1)とあります。「私は全能の神」(創世記17)と書いてあります。

◆金属の結晶は原子が整然と並んでいるように思いますが、現実には様々な不完全さがあり、完全なものはありません。地球と言っても完全な球体ではないし、人間の体も左右が同じではありません。

自然界の様々なものを見ても、皆そうした欠陥があります。木の葉一枚を見ても虫食いがあったり不揃いであったりします。

しかし神様は一つも欠陥の無い方でいらっしゃる。完全無欠、これはこの世の中には存在しないもので、あったらおかしい訳であります。

犯罪捜査で共犯者がいますと、別々の部屋に入れて調べ、取調官は互に連絡をとる。容疑者が皆同じ事を言うと、かえっておかしい。これは口裏を合せているのではないかと言う事になります。

人間の世の中で完全はむしろおかしい事なのです。どんなに立派で聖人君子と言われるような人でも、神様の前に完璧という事は出来ません。

「私は義なる神」とおっしゃる方は、完全であって曲がった所もなければ、暗い所も無いのです。

◆ご自分のもう一方のご性質は、「救主であって、私の他に神はない」です。神様は正しい方ですから、間違ったものは皆アウトになります。何か品物を作って検定をします、定規をあててある程度以上曲がっていたら、「駄目だ」と言って捨てられる。私達に神様の真っすぐな物差を当てられたら、規格外で全部落第であります。

神様は一旦はそれを許されませんでした。ノアの洪水の時、神様は心を痛められ、「人のする事は皆曲がっている。生れた時からねじれていて、どうにもならない」「私が創造した人間ではあるが、こういう状態ではどうする事も出来ない。全部拭い去ろう」と義人ノアとその3人の子供と、その妻の合計8人を残して他をことごとく大水で滅ぼされました。その子供たちから新しい民を起されたのです。

しかしその後には神様は、「二度と人の故に地をのろわない」と言われました。人が心に思う事は生れた時から悪い事ばかりで、それ故に滅ぼすな

らば、人間は全部拭い去られて、無に帰してしまう。ですから神様は再び滅ぼさないと、その契約のしるしとして空に虹をかけられました。種蒔き時も、刈入れ時も、暑さ寒さ夏も冬も昼も夜も、地のある限り止む事はない。そしてその時に、人間の食物として先の青草（植物性食品）に加えて動物をお与えになりました。

ここですでに神様は、「義なる神」であり、また、「救主（憐みの方）」である事を現されています。その神様の御心が次第に熟して、燃え上がり、一方で人間はどんどん背いて行く。神様のみ思いは、中にたぎって人が背いて行けば行く程、残念でたまらない。とうとう神様は、「今からのち、このようにして万軍の主の熱心が、一人の救主を生れさせ、あなた方を救いに至らせる」と預言をさせられました。

そして、ここまですりまると、「私は義なる神、救主である」――一つも間違いを許さない義なる神が、私達を救う為に、罪のない神の子イエス（罪を他にすべての事、試みられたと書いてあります。人として生れ、すべての悩みも苦しきも全部体験された方ですが、真直ぐな点の一つも狂わない。神の子であり、神自身であられる）を罪人として処刑する事によって、私達を救うという道を立てられた事がはっきり分ります。

「私は義なる神、救主」――何でも無い一行ですが、これは大変な事だと思えます。句点の所をたやすく飛び越える事が出来ない――深い淵の前まで走って来て、立止まる、そんな感じです。「私は義なる神」――ここまで来ますと、次に「救主である」という事がどんなに偉大な事かと思いました。

◆詩篇85篇1/13節朗読。これは「義なる神、救主」である神様に対する賛美だと思えます。「いつくしみと、まこととは共に会い、義と平和とは互に口づけし」（10）と書いてあります。「慈しみ」というと、愛であります。可愛いくてたまらない、なでさすって、目の中に入れても痛くないような状況でしょう。「まこと」と言うと正義であります。間違いを許さ

ない、きびしい一面です。親が子供に対するのもそうでしょうが、神様の「愛と義」は人間のそれとは違います。どちらもはるかに越えています。

しかしその「慈しみとまこと」が共に会う、また「義と平和」とが互に口づけする。神様は義でありますから、人間は皆捨てられてしまうと思いますが、神様は私達との間に平和を与えて下さる。「まことは地からはえ、義は天から見下ろす」神様が義をもって私達に臨まれる。私達は与えられたその平和をもって、真実に神様にお仕えする――これが「地からまことがはえる」です。

「あなたには許しがあるので、人に恐れかしこまれるでしょう」（詩130）とあります。神様はもともと両立しない事を両立させられた、これは大変な業であります。

昨年の秋頃、ある有名な建築家の話を聞きました。「設計とは何でしょうか」と言う質問に対して、「設計とは本来相反することを両立させる、知的作業です」と言われて、成程と思いました。例えば建築でしたら、ここに土地がある、こういう地形で狭く、しかも傾斜がある。しかしここに家を建てたい。建てるについては、こういう部屋も欲しい、こういう物も欲しい、こういう事も出来るようにしたい。これではなかなか両立しません。こんな所にそんな家が建つものかと思う訳です。

それを両方満足させるように、では、ここにこういうふうにして、高低差をこう利用して、ここの所をこうしてと言う訳です。そうすると立派な家が出来てしまう。これは大変な知的作業であって、それが設計という仕事であると言われました。他の事についても同じと思います。

神様は両立しないどころか、全く違ったこと、「義なる神」が、「救主」となって下さるといふ、全然違った事を一つにして、互に口づけし、お互が会う為に、驚いた事をして下さったのであります。ご自分のひとり子を十字架に付ける――そんな事は誰も考えが及まびせん。聖書に、「待ち望みたる者に、いかなる神ありてかかる事をせしや」とあります。神様が

義と愛の方であると預言されているが、どういう形で行われるか、誰も考えられない。ところが人々の目の前に現されたのは、神の子が十字架の上で処刑されるという、驚くべき事実でありました。こんな事をなさる方は、この神様ただお一人しかない、他には誰も出来ない事であります。

【私のほかに神は無い】

◆最近は多くの新興宗教が現れ、第3次宗教ブームと言われます。それについて先日ある本を読みました。宗教評論家(?)が、この宗教はこれこれこれ、言うところはこれこれ、拜む神様はこんなもの、誰々が教祖でこんな本を発行して、これくらいの信者でこんなふうが発展して――そういう事が書いてありました。それを見ますと要するに何も無いのです。「義なる神、救主」は勿論ありません。死人の中から甦える、そんな救主は一つもありません、言い伝えばかりです。聖書に関連して、モーセがどうかして何千年たったらどうか、そういう事を言い伝えにしているものもあります。

「義なる神、救主」――死人の中から甦えった方が永遠の救主となって、人間を造り変えてしまう。どんなに外から引張っても、叩いても、どうにもならない人間の冷やかな固い心を、中から変えて燃えるものとしてしまう。そういう救いは一つもありません。神様はそういう事をして下さるのです。

「私の他に神はない」と言うお言葉を三つの面から教えられました。

- (1) 絶対者であるから、他に神は無いという事。
- (2) 「義なる神」「救主」これを両立させ得る方は、ただお一人で、他には無い。事実どこを見てもありません。
- (3) 人間にとって親は他に無い。私を救って下さるのは、この方だけ。その三点を教えられ、今朝も感謝した訳であります。

◆神様は私に対して、「何か言い分があったら持ってきなさい」とおっしゃる。「私は昔からあなたに告げていたではないか」「私は義なる神、救主である。唯一の神であり、この事を成した神であり、お前の神である」

【あなたは私のものだ】

と教えられました時に、私は言い分が無くなってしまいました。他の者を捨てても私を救う方でいらっしゃる。

イザヤ43:1/4、神様は個人に対して呼び掛けていらっしゃいます。「私」「あなた」と書いてあります。「私はあなたの神、主である、イスラエルの聖者、あなたの救主である」(3)、救主とおっしゃるのは、たしかに世界中の人々の救主であります。しかし神様が今、呼び掛けていらっしゃるのは、私に対してであります。「私はあなたの神である」そして、「イスラエルの聖者、あなたを守る清き者であり、あなたの救主」――他のものを捨てて私を救って下さるという事です。

物を選ぶとは、多くの中からどれかに決める――つまり、他の物は除外される訳です。神様は私を救うと言われるだけでなく、更に念を入れて、「エジプトをあがないしろとし、エジプトとセバとを、お前の代りに捨てる――あなたの代りに人を与え、民を与えて、お前を救う」とおっしゃいます。

こういう事を聞きますと私達は、「神様は不公平ではないか、私ばかりどうしてだろうか」とすぐに腕組みして考えるような、そんな態度になりやすい。しかし神様のお考えは分かりません。とにかく神様が私に対して、「お前を選んで、お前を救う」とおっしゃったのです。「あの人はどうでしょうか」と言う事は出来ません。

ペテロは叱られました。「あの人はどうですか」「お前とはかかわりがない。お前は私に従ってきなさい」と言われました。ですから私達は個人的に神様から召される、人間は皆そうであります。親から生れた者が、「どうして私を生んだのですか」「どうしてこの家に生れたのですか」そんな事を聞く方がおかしいのです。子供は親を選ぶ事は出来ません。「あそこの親がいいから、あそこの子供になろう」という事は出来ません。自分の親から生れた事は事実であります。まさしく親の遺伝子を受け継いで今ここに、生きているのですから、何も言う事は出来ません。神様が私を

選んで、お前を救うと言われたからには、私が何も言う事は出来ないと思
いました。

「今日、我なんじを生めり」とある所に書いてあります。私の生きているのは事実です。神様によって救われて、神様の物とされて、「お前の名を呼んで知っている、お前は私の物だ」とおっしゃっておられる。私は色々な持物に名前を書きます。コピー店に行くとき、原稿を紙挟みで挟んで行くのですが、文具屋さんですから同じ物が店にあります。そこでテレホン聖書のシールを貼って行く、自分の物には印をはっきり付けておきます。

神様は私に対して、「お前は私の物である、あなたの名を呼んでいる。お前は私の物である」とおっしゃる。もう印を付けた――ある所には額に子羊の印が付いているとあります――神様はちゃんと印を付けて、私の物だとおっしゃっている。

自分の身分というものは自分が考えて、「私はあの人より立派だから、神様から選ばれているだろう」あるいは逆に、「こんな私は駄目だ。あの人には選ばれているけど、私は駄目だ」と決めるものではありません。

ある人達の話ですが――14万4千人が救われるとヨハネの黙示録に書いてある。年代別に分け、更に今の世界の国々に分けると、日本には3人しかいないというような話でしたが、もしそんなことでしたら、どんなに信仰を持っても意味が無い事になります。神様は決してそんな事をおっしゃいません。「お前は私の物である、私が名を呼んだ。あなたは私の物だ、離さない」それだけでなく、再びどこにも行かないように、きちっと印を付けて下さる訳であります。

◆「助け主、即ち父が私の名によってつかわされる聖霊」(ヨハネ14:26)「父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それは真理の御霊である」(ヨハネ14:16/17)、神様は絶対正義の方です。ご愛についても絶対の方です。私達を自分の物とし、救われるのも極端です。あいまいで済ます事がお出来になりませんから、自分

の物として、自分の印を付け、自分から離れないで一つになってしまう為に、神様は助け主である真理の御霊——ご自分の思いと言いますか、自分自身と言ってもよいと思いますが——それを私達に注いで私達を満たしてしまう、そして私達と一つにならなければ止まない方でいらっしゃる。それはイエス様がおいでになったご目的であります。イエス・キリストの名によって神様が聖霊を注いで、私達を神様の物とし、一つにしてしまうという訳です。

ヨハネ17章はイエス様が最後の晩餐のあとでなさったお祈りです。その中に記されている事は、要するに「あなた方と一つになる為である」ということです。神様が、「義なる神、救主」とおっしゃる最終的な目標は、神様がその「愛」と「義」の間から、自分自身を注いで、何としても私達と一つになりたい。再び離れない、ずれない為に私達に対して御霊を注がれることです。それを私達に命じていらっしゃる。

ヨハネ20章にも、「聖霊を受けよ」とおっしゃっている。使徒行伝1章を見ますと、「あなた方はエルサレムを離れないで、父の約束を待っていなさい。ヨハネは水でバプテスマをほどこしたが、あなた方は間もなく聖霊によってバプテスマをほどこされるであろう」と言われました。彼等は祈って待ち望み、聖霊に満たされました。何も難しい事をした訳ではない、彼等に与えられたものは、イエス様が死人の中から甦えられたというたった一つの事実と、約束を待てというたった一つのご命令でありました。

◆使徒行伝1:1/5 朗読。一つの事実、一つの命令をいつも教えられます。「一つの事実」——イエス様が苦難を受けたのち、生きておられる——十字架につけられたのちに甦えて、今も生き給う事を多くの人々に現されました。それとだけ「一つのご命令」——父の約束を待っていなさい。これは約束であり、「聖霊を受けよ」とおっしゃるご命令であります。それだけなのです。

イエス様が昇天される時に見ていた人達は500人以上でしたが、エルサ

【二つの事実、一つの命令】

レムの二階座敷で祈って待っていた人達は120名ばかりと書いてありますから、4分の3ぐらいは居なくなっていた訳です。

どういう事があったか、ある弟子達が、「私の方が偉い」と言っていて光に耐えられなかったのかも知れない。「互いに足を洗いなさい」とイエス様がおっしゃいましたが、「おれはあんな人の足を洗うのは嫌だ」と言ったのかも知れない。そういう事でだんだん人が減ったのでしょうか。イエス様が復活されてから、40日の間、度々彼等に現れて語られ、50日目（ペンテコステの時）に聖霊に満たされたのですから、引算をしますとこの間は10日であります。五旬節を迎えました時に、一同の上に激しい風が吹いて来たような音がして、聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに他国の言葉で語り出しました。

これは別に不思議でも奇跡でもないものであって、父なる神様の約束が成就したのです。イエス様の救いのゴール（実はそれから始まるのですが）は何かと言うと、イエス・キリストの名によって聖霊を満たす（＝神様の物になる）ということです。神様はどうしてもそこまで成し遂げなければ止まないご熱心を持っていらっしゃる。それは何によって与えられるかと言うと、死んで甦えられ、永遠の救主として立てられたイエス様の名によって、神様から与えられる――これは約束であります。それを受けなさいとおっしゃるのです。

事実彼等にあったものはその約束だけでした。何も踊ったり飛んだりした訳ではありません。熱心に修行した訳ではありません。祈って自分の思いを捨て、「私が偉い」「おれの方が偉い」ではない、「自分がこうしたい、ああしたい」ではなくて、神様のご目的がこの身によって行われるようにと求めたのです。そして聖霊に満たされた結果、彼等の中に、「恵まれたのだから自分で何かしよう」「おれが偉くなって、一つ教団を組織して――」と言った人は誰もおりません。それまで彼等は整えられてまいりましたから、その通りにイエス様の足跡に倣い、ある者は殉教し、ある

者は伝道し、こうして使徒行伝が綴られてこんにちに至っております。

「義なる神、救主であって私の他に神はない」とおっしゃる方は、私の中にも御名によってこの事を成し遂げて下さいました。これは終りでなく、始まりであって、これから自分がどうしよう、こうしようと計画するのではないのです。

◆パウロの生涯を見ますと、彼は内から燃えたぎって走っています。しなければおられない、「私は神様の為に狂気する」(2コリント5)と書いてあります。神様の為に気違いになる、人が何と言ってもかまわない、私はこうしなければおられない。何故なら、罪人のかしらであった者を、神様が特別に召して下さい、自分が召されたのですから召されたように行く。他の人については、神様がなさる事ですから、自分が何も言う事は出来ない。「汝は我に従え」とあるようにパウロは従ってまいりました。「そんな熱心はいらない」と言われても、「要るか要らないか知らない、自分はそうしなければおられません」という態度でした。彼は、神様のご愛は何と大きなものであろうか、神様のご愛を知るならば、私はどうする事も出来ないと言って走ってまいりました。彼は何もかも糞土のごとく捨てて、前向きに自分の身を伸ばして、キリストを知ると言う絶大な価値を追い求めました。こんなに愛されたのだから、私もまた愛していく。神様がこの私を目掛けて極端な事をして下さったのだから、私もまた、極端に追い求めると言う訳です。

近頃究極という言葉がはやっているそうですが、神様のなさる事はその通りであって、行き付く所まで行く、止まらない。パウロと同じように、私をも目掛けて愛して下さいているのですから、私もまた、その方に対して生涯を傾けなければおられません。

マルコ14章を読みますと、一人の婦人が値たかい香油をイエス様に注ぎかけた記事が出てまいります。300万円(?)もする香油ですから、どんなものか知りませんが、弟子たちは、「勿体ない。これを売って、そのお金

を貧しい人にやったらいいのに、どうしてそんな無駄な事をするのか。イエス様に感謝をするのはよいが、もう少しやり方があるだろう」と叱ったのですが、その女は聞きませんでした。

彼女はイエス様に香油を注ぎかけ、髪の毛でイエス様の足を拭いた、あるいはイエス様の足に接吻してやまなかったと書いてあります。誰が止めても、誰が叱っても、そうしなければおられなかった、その婦人の姿は、大変麗しいものであると思います。神様が極端から極端に救いを行われた結果、人が内から燃やされるならば、そういう事になります。イエス様は、「それでよろしい、誰も止めてはいけない。むしろこの事は福音が語られる時、いつでもどこでも共に語られなければならない」と言われ、こうして今朝も語られています。

「私は義なる神、救主であって、私の他に神はない」とおっしゃる、神様はそんな思いを持って、今日も私達に臨んでいらっしゃる。これは並大抵の事では無いと思いました。今年の聖会はまだ何回かありますが、来年の聖会はどうか――願ってはおりますが、神様が許されるかどうかわかりません。ですから、またあるからという気持ではとても出られないと思ったのです。

「私は義なる神、救主」とおっしゃる、神様の凝り固まったような熱烈なご愛が、私の内に届きます時に、どうしてもじっとしている事は出来ない、黙っている事は出来ません。また、何を語るべきか、神様が教えて下さった事を、若干カードに書いてありますが、しかしそのまま皆さんにお話をする事は出来ません。神様から突上げられますと、どうしてもこうして申し上げなければおられない訳であります。

◆イザヤ45:21、私がこの地上に命を与えられ、物心ついてからでも、だいぶ時間がたちましたが、私が気が付くよりも、はるか昔から、神様は告げていらっしゃるのです。イザヤの預言は今から2, 千6, 700 年昔であります。その時から語られています。イザヤより更に昔から、神様の心の

内に燃えたぎっているものがありました。ノアの時、いやもっと昔、あのアベルとカインの時から、更に創世記の始め、全ての物をお造りになった時から、神様の心の内にはこの燃えたぎる「義と救い」のみ思いがあったに違いない。それは私共が知り尽くす事は出来ませんが、「ずっと昔から私の内にたぎっていて、昔から告げて来た事ではないか」と、神様は待つておられる訳であります。

時と言うと、カチカチカチと同じ速さで流れているように思いますが、聖書には、ギベオン救援戦で、ヨシュアが祈った時、神様が太陽をおよそ一日、中空に止どめ給うたと記されています。神様は時を止どめられました。

人の中で時が止まるという事があると思うのです。人間の中には生物時計と言うものがあって、目に見える時計がなくても、一日24時間を大体知る事が出来ます。しかしそれとは別に、魂の時計、霊の時計がある。神様が前からカチカチカチと呼び続けて下さったのですが、私の中の時計はそれに伴って動かないで、じっと止まっている。しかしある時、ロックが外れてはっと目が覚め、それから私の時計が動き始めました。そうなんだ神様が私を救って下さる、他のものを捨てても、私を召して下さる。義と愛が私の上で口付けされて、私を神様との平和の道に導いて下さる――こうして私の生涯が変わりました。

私の中の霊の時計は毎日非常に重々しく動きます。遅い訳ではないのですが、非常に重いものであります。毎朝、夜は明けますが、それは私にとって、「また来た」朝ではなく、「今日も来た」と言う、恐れを持って迎える朝であります。お腹がしくっとしますと、「これで倒れてしまっても当然の者であるのに、神様は今、また、祈りに答えて支えて下さった」と感謝します。年末から少し風邪気味で鼻がぐずぐず言って、咳が時々出る、しかし神様に祈って、支えられました。そういう状態でしたので、昨晩は割合に早く休みました。そうすると目覚めが爽やかです。この一日、この

一刻は神様が与えて下さったもので、すべてが支えられている。

もし体の中のどこか一個所に、僅かでも故障が起ったら、動く事が出来ないでしょう。肺の中に炎症が起ると、熱が出てダウンしてしまいます。神様の憐みで、「お前は今日生きなさい、生きて私を誉め称えなさい。私はお前に対してこんな極端な事をしている。それに対してお前は出来る限りの事をして私に答えなさい。その一步の為に、命を与えよう」と言われている。「有難うございました」と言って、経過したこの一時間であります。私にとっての「時」は、そういう厳かなものであります。

「昔から告げているではないか」と語りかけられ、はっと目が覚めて、「ああ今朝も生かされている」と感謝した時に、神様は、「私は義なる神、救主」――「お前を生かす者である、お前に注ぐ者である、お前を私の手に握って、私のものであると印を付けて、再び動かさない」と私に確認して下さいました。

今日があるから明日もある。聖会はあと何回あると言って、私は気安く進む事は出来ない。神様もそうではないでしょうか。永遠から永遠に亙る方ではありますが、実は毎分毎秒働いて、「私はお前に告げている、お前が答えなさい。私が生かして、私が確認する」と言われる。そういう時間ではないかと思えます。

「だれが昔から告げたか。わたし、すなわち主ではなかったか。わたしのほかに神はない。わたしは義なる神、救主であって、わたしのほかに神はない」私は今という時、神様の「義と救い」に入れられ、力一杯神様にお仕えする生涯でありたいと思えます。お祈り。

(1987. 1. 5. 戸畑教会新年聖会. 4)

第 5 章 (5 日午後 2 時)

地の果を顧みる主

	ページ
慈しみのまなざし	5 4
罪のどん底から	5 4
泣きながら打ち叩く	5 5
火の蛇を竿の上に	5 5
定められた通り動き出す	5 6
明らかにされたものは光となる	5 7
はいと従うだけで	5 7
どんな事でも出来る神様	5 8

「地の果てなるもろもろの人よ、私を仰ぎのぞめ、そうすれば救われる。
わたしは神であって、ほかに神はないからだ」(イザヤ45:22)

【慈しみのまなざし】

◆私はこの「地の果てなるもろもろの人よ」と言うお言葉を聞く時、そのうしろにイエス様の慈しみのまなざしを感じます。イエス様が捕えられた時、ペテロは遠く離れて付いてまいりまして、三度イエス様を知らないと言って拒んだ直ぐあと、鶏が鳴きました。イエス様のおっしゃった通りでした。その時にイエス様は振返ってペテロを慈しみの目をもって見つめられた、これはルカ22:61にあります。知り尽くしていらっしゃったが、責められませんでした。

集会の10分前にチャイムを鳴らしますが、あのメロディーは賛美歌243番、「ああ、主のひとみまなざしよ」であります。

【罪のどん底から】

◆イザヤ1:2/9、これはイスラエルの民の罪の状態であります。牛馬は自分の飼主を知り、小屋を知り、まぐさ桶を知っていると言うのに、牛馬以下の民、造り主を知らず(知ろうとしない)、養い主を知らない、そして不義を負い、聖者を侮り、うとんじ遠ざかり、背いて打たれ、病み、打ち傷と腫物と生傷ばかり、国は荒れ廃れ、町は火で焼かれ、収穫は目の前で外国人に食われ、ソドムのように滅ぼされ、包囲された町のようにただ一人残っていると言う状態です。

そんな民に対して神様はどうおっしゃっているか、10/17 節に、「お前達の犠牲は何にもならない。もうそんな脂肪は食べ飽きた。私の庭を踏み荒らすようなものだ。安息日、新月、会衆を呼び集める事、もうそんな事には耐えられない。あなた方の祭は私の憎むものであり、重荷である。負うのに疲れた、あなた方が手を伸べても目をつぶる。あなた方が多くの祈りを捧げて聞かない」――厳しいお言葉ですがこれは当然でしょう。

しかし一転して18節になりますと、「主は言われる、さあ、われわれは互いに論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。もし、

あなたがたが快く従うなら、地の良き物を食べることができる。しかし、あなたがたが拒みそむくならば、つるぎで滅ぼされる。これは主がその口で語られたことである」とおっしゃっておられます。

◆この急激な変化は一体何事でしょうか。しかしここを見ます時に、私は神様のご愛の大きさを悟ります。罪の為に捨てなければならない、見たくもない、聞きたくもない、滅ぼしてしまいたい。しかしそれをなお捨てる事が出来ない。「ああ、良く出来た」と創造の始めに喜ばれたものを、捨てる事が出来ないので、神様は遂に罪の無い神の子を十字架につけて、その汚れ果てた私達を清める事と定められました。「あなた方の罪は緋のようであっても、雪のごとく白く、紅のように赤くても、羊の毛のようになる」とおっしゃった訳です。私はここで、髪を振り乱して泣き叫びながら、子供を打ち叩く親の姿を見るのです。

曖昧で救われたのでしたら、不安であります。「何でもいいからとにかく来なさい」と言って、招かれたのであれば、あとから、「こんな汚い所があったか、それでは駄目だ」と言って捨てられるでしょう。しかし神様は汚い所を全部知り尽くして、なおそれを許して迎えて下さるのですから、これなら安心であります。

「地の果てなるもろもろの人よ、私を仰ぎ望め、そうすれば救われる」とありましたが、私は自分の状態を見て、

①「それでも仰げ」と言うふうに聞きます。神様は知り尽くしてなお救って下さる方ですから、また、

②「それだから仰げ」と聞きます。自分でどうする事も出来ない者だから十字架を立てて下さったのです。

③「その為だ仰げ」と聞きます。他の人ではない、まさしく私の為に十字架にかかって下さった。

◆民数記21:4/9、「主はモーセに言われた、『火のへびを造って、それをさおの上に掛なさい。すべてのかまれた者が仰いで、それを見るならば

生きるであろう』モーセは青銅でひとつのへびを造り、それをさおの上に掛けて置いた。すべてへびにかまれた者はその青銅のへびを仰いで生きた¹」(8/9)、イスラエルの民は荒野で神様に対して不信任を突付けました。神様は責任をもって養っていらっしゃったのですが、むさぼって、「水が無い、食物が無い」「もう少し溜め込んだら安心だ」と神様に対してつぶやいた訳であります。

神様は火の蛇を送って彼等を罰せられました。彼等のうち多くの者が死にました。民は苦しんでモーセに呼ばわりましたので、モーセは民の為に神様に祈って、答えを戴きました。それが、「火のへびを造って、それをさおの上に掛なさい。すべてのかまれた者が仰いで、それを見るならば生きるであろう」(8) です。これは主が言われ、定められた事でありました。ですからモーセがお言葉通りに青銅の蛇を造って、さおの上に掛け、蛇にかまれた者はその青銅の蛇を仰いで見て生きた訳であります。これは神様が定められた事でありました。

◆箴言33:16 に、「人はくじをひく、しかし事を定めるのは全く主のことである」と書いてあります。事を定めるのは主の事であります。「事を行い、事を成してこれを遂ぐる方、その名を主とおおせになる方」この主の主に対してだれも言い逆らう事は出来ません。「あの人、大変わるい人だから、一回御免と言ったぐらいで許さないで下さい。もっとぎゅっと言わせて下さい」と神様に言う事は出来ません。許すと決められたからには、蛇(＝十字架)を仰いだ者を生かされる訳であります。

進水式を見ますと、細い糸で船を繋いだ形になっています。そしてそれを船主が金の斧で、ぷすっと切りますと船が滑り出して、海に入ります。しかしこれは糸が船を支えている訳ではありません。糸は形だけあります。実際にはコロやローラーが沢山敷かれたり、グリースが塗られるかして、糸を切った時に、ロックを外す訳であります。ですから何万噸の船が音もなく動き出します。ある船は起工より早くから進水計画が始まります。

【定められた通り動き出す】

それと同じように神様の救いは完全に整えられていて、糸一筋を切ると、そのすべてが動き出す。それは誰も止める事が出来ないものであります。トンネルの貫通式等も、何かの竣工式、火入式もすべて同じでしょう。ちょっとやれば大きな物が動いて行く、それはすべてがそうなるようになっており、定められ、整えられているからであります。ある種の品物にはブラックボックスという部分がありますが、その中を知る事が出来なくても、手順通りに用いると十分に機能を発揮する事が出来ます。

◆エペソ5:13/14、「光にさらされる時、すべてのものは、明らかになる。明らかにされたものは皆、光となるのである」神様の光に従って、「はい」と受けますと、神様がその人を新しくして下さいます。そして神様の光に照らされたところのものは、みな光となる言うのですから、その光をもって更に他の人を照らす事が出来ます。次から次へと命が流れてまいります。その人自身が何かであるのでなくて、その人と通じている神様の道筋が、次々に受け継がれてまいります。私達も先輩からそれを引き継いでここ迄まいりました。

ですから「信仰より出て、信仰に進ませる」と言うのは、一人の人の生涯における、いくつかの段階を指すばかりではなくて、世代を越え、あるいは時代を越えたものでもあると思います。「アブラハムの受けた祝福がイエス・キリストによって異邦人に及び、かつ私達が信仰によって約束の聖霊を受ける為である」と書いてありますから、私達が神様の聖霊を受け、次々にその道筋を伝えて行く事によって、次々に神様の命が流れてまいります。

◆イザヤ45に返って、「地の果てなるもろもろの人よ、私を仰ぎのぞめ、そうすれば救われる。わたしは神であって、ほかに神はないからだ」神様のお言葉に従うのに、こちらが何かしなければ、と言う事はありません。人間の常識からしますと、そんなに大変な救いに預かるのだったら、ただでは申訳ない、こちらも何かしなければとなります。青の洞門を掘ったあ

【明らかにされたものは光となる】

【はいと従うだけで】

るお坊さんのように、目も見えなくなり、膝も擦切れてしまう程に岩を掘って、罪滅ぼしをしようとしたと言う事ではありますが、あれ程の事は出来なくても、何か身にこたえるような犠牲を払わなければ、どうも貰いにくいと、お考えになるかも知れません。しかし神様の筋を受ける為には何も必要はありません。ただ「はい」と従うだけであります。何かする事は却て有害・危険かも知れません。

どこかの繊維メーカーが新しい繊維を開発したと言う事があります。その細さは月まで38万キロメートル引張ったとしても、重量が4グラムだそうであります。たった4グラムで38万キロ！即ち10万キロの長さで1グラムと言うのですから、大変細いものであります。これでは実体は無いに等しい。しかし糸は糸でありまして、ちゃんとそこには一つの筋があります。

そのように神様の前に私達が従うべき筋は重さも、幅も、厚みも有りません。ちょうど幾何学上の直線の定義のようです。「長さだけあって幅も厚みも無い、重さも無い」と言うのが直線の定義であります。そのように神様の前には私達の働きは何も要りません。何かしたとしても無きに等しい。全く神様が成し遂げて下さることであって、ただ従いさえすれば神様は働いて下さるのです。そしてその最終的な目標は神様が聖霊を満たして私達の内に宿り、ご自分のみ旨を行われるという事です。

◆昨晚私は頭を悩ました事があります。と言うのは隣のカラオケが大きな音を出してがんがんやったものですから、ちょっと困った訳であります。しかしその中から神様を仰ぎ望みました時に、神様は私を救って下さいました。大丈夫、逃がれるべき道を備えて下さる――八幡の教会で、風呂桶屋の騒音（電気鋸の音）で困った事がありました。しかし今は全くこれを取除いて下さいました――私が祈るならば神様はカラオケを取除いてしまう事もお出来るになる、必要ならビルを丸ごと買取って教会を建てるもよし、神様はどんな事でもお出来るになる、と望みを与

【どんな事でも出来る神様】

えられた訳であります。

神様の救いは、こう言う事にも及びます。どんな事でも神様に於いて出来ない事は無い。「私は神である、他に神は無い」とおっしゃいます。また、ある人は、「私の家はこういう宗教だけれども、神様は救わないとおっしゃらないだろうか。あるいはまた、神様が救って下さったら、家の今の神様が邪魔をしないだろうか」と言われますが、そんな心配はいりません。「私は神であって、他に神は無い」と言われる。多くの神々があり、色々な新興宗教があるようですが、彼らの求め目指す所の実体である真の神様はただお一人であります。

それは使徒行伝17章にパウロが説教していますように、「あなた方が神として求めている方の実体はこの方である」と言って伝道しています。ですから神様が救うとおっしゃったら、誰もこれを止どめる事は出来ない、仰ぎ望めば救うとおっしゃった方は必ず救って全うして下さい。この方を仰ぎ望んで、約束の救いに預りたいと思います。お祈り。

(1987.1.5. 戸畑教会新年聖会.5)





第 6 章 (5 日午後 7 時)

仰ぎ望め救われる

	ページ
何を仰ぎ望むか	6 2
十字架そのものを上げ	6 2
十字架の現場	6 3
あなたはどこにいるか	6 4
誰が信じ得たか	6 5
説明は無用	6 6
新しく造られる	6 7
見なさいと言われたら	6 8
誰が事実を曲げたか	6 9
この道筋以外に無い	7 0
神の保証に間違いはない	7 1
先に神様が保証された	7 2
道筋ははっきり	7 4
自ら答える	7 4
無理はされない	7 5

「地の果なるもろもろの人よ、わたしを仰ぎのぞめ、そうすれば救われる。わたしは神であって、ほかに神はないからだ」(イザヤ45:22)

◆神様の手のなかに既に完成されている事を、仰ぎ見さえすれば何の努力も熱心も必要ない。神様の定められたように、成るべくして成る。定められたようにして下さると言う神様の約束を与えられました。今晚もう一度、「私を仰ぎ望め」とおっしゃる方は、具体的に何を望ませて下さるか、と言う事を学びたいのであります。

1 コリント2:1/2、パウロはその当時の一流の知識人であります。また、おきてを正しく守ろうとするパリサイ人であります。聖書知識も豊かであります。しかし彼は神様の救いは知恵によらない、むしろ逆に宣教の愚かさによって、信じる者を救うものであると知りました。ですから彼は福音を宣べ伝える時に、たった一つの事しか言わなかった訳であります。それは「十字架に付けられたイエス・キリストのみ、それ以外の事は何も知るまいと決心した」これは彼にとって大変抵抗があった訳であります。「何だパウロは、少しはましな事を言うかと思ったら、あんな事ばかり言う。馬鹿のひとつ覚えのように、あんな事ばかり言って——言えない人ではなかるうに」という訳であります。「救われた上に律法を行えばなおよいではないか、彼はパリサイ人だったのだから分っている筈ではないか」という訳です。イエス・キリストの十字架以外の事を言えるのに言わないのですから、彼にとって随分大変な事であった訳であります。

◆1 コリント15:1/5朗読。更に6 節以降に書いてあります。甦えられたイエス様は、500 人以上の人達に同時に現れた。また最後には自分のような、月足らずに生れたような者にも、確かに現れて下さった。あのダマスコの途上で天からの光に打ち倒され、イエス様のお声を聞きました。そののちにも彼は主に会って、しばしば主の声を聞いています。彼が大事な事として伝えたのは、イエス様が私達の罪の為に死んで、葬られた事、そして甦えられた事であります。つまりイエス様が十字架に掛かれた事以外

は、彼はどこに行っても、何も言わなかった。それは、それだけで自分が生かされ、それだけですべての事を整えられ、力を与えられて、ここ迄全うされたという、彼の非常に大きな確信があったからです。

2テモテ2章にも書いてありますが、「ダビデの子孫として生れ、死人のうちから甦えたいエス・キリストをいつも思っていないさい」とは、人に言っているのではない、自分に言っている。あのイエス・キリストは私の為に十字架に掛かって、死んで甦えって下さった。今、親しく私と共にあって、私を生かして下さる方であると、彼はいつも仰ぎ望んでおりました。ですから今晚、「私を仰ぎ望め」とおっしゃる方が、私に求めていらっしゃるのには十字架そのものであります。

◆ルカ23:32/43、これは十字架の現場です。ここに沢山の人が登場してまいります。先ず、父よ彼等をお許し下さいと言われた「イエス様」。その次に「人々」が登場します。彼等はイエス様の着物をくじで分け合っていました。それから「民衆」――彼等は立って見ていました。「役人」がいます。あざ笑って、『彼は他人を救った、もし彼が神のキリスト、選ばれた者であるなら自分自身を救うがよい』と言いました。「兵卒」どもはイエス様をののしり、近寄り酸いぶどう酒を差出して、『あなたがユダヤ人の王なら自分を救いなさい』と言いました。十字架に掛けられた「犯罪人の一人」は、『あなたはキリストではないか。それなら、自分を救い、また我々も救ってみよ』これは兵卒あるいは役人達と同じであります。

「もう一人の犯罪人」は、反対側の犯罪人をたしなめて、『お前は同じ刑を受けていながら、神を恐れぬのか。お互は自分のやった事のむくいを受けているのだから、こうなったのは当然だ。しかしこのかたは何も悪いことをしたのではない』そして言いました、『イエス様、あなたが御国の権威をもっておいでになる時には、私を思い出して下さい』と。

沢山の人が登場します。最初に「イエス様」「人々」「民衆」「役人」「兵卒」「犯罪人」そして「もう一人の犯罪人」。

◆私はこの情景を見ている時に、創世記3:9 にありますように、「あなたはどこにいるのか」とイエス様から激しく問われているように思いました。第三者のように、「ああ、今晚は戸畑教会であんな所を読まれている。あれはよく知っている。何回も読んだ事がある」と言っている事が出来ない訳であります。まっすぐ私に問われていますから。お前はどの人と同じなのか。イエス様の着物をくじで分けているのか、じっと立って見ているのか、あざ笑っているのか、ののしっているのか、と問われております。

私はかつては、民衆のようにじっと立って見ていました。あるいはイエス様が救主だったら、そんな所に下がっていないで、ぱっとテレビのスーパーマンのように、変身して皆を救ってくれたらよさそうなものを――そんな事を考えていました。しかしこの中で正解は最後の40/41 節であります。もうひとりの犯罪人です。「私達はお互が自分のやった事の報いを受けているのだから、こうなるのは当然である。しかしこの方は何も悪い事をしたのではない」これであります。

私はこの十字架の場に立たされて、冷ややかに、これを眺めている事は出来ません。私の為にイエス様が十字架に掛かって下さった、あの真中の十字架、イエス様と同じ所に掛けられて、釘で打ち込まれて、頭に茨の冠を被せられて、槍で突かれて血を流して当然であったのです。もう一人の犯罪人の言った、「この方は何も悪い事をしていないのに、十字架に掛けられている。だからどうぞあなたが御国の権威をもっておいでになる時には、私を思い出して下さい――」という事は、救主イエス様どうぞ私を救って戴きたいと言う事です。

イエス様はその人に対して、「よく言っておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」とおっしゃいました。今晚イザヤ書を通して、「地の果なるもろもろの人よ、私を仰ぎ望め」とおっしゃるのですから、この十字架の現場に立って、主を仰ぎ見るべきであります。そして自分が一体どこに立つのかをはっきりしなければなりません。

◆イザヤ53:1/6……以下ずっと「彼」と沢山書いてあります。彼という字を数えてみたら21回ありました。「その」という形——「その墓」「その口」「その塚」と書いてある所を加えますと、もっと多くなります。この彼はイエス様であります。イエス様は、「主の前に若木のように、乾いた土から出る根のように、何の見映もなく、威厳もなく、美しさもなく、人から忘れられ、迎えられない」あの馬小屋で、人々に知られずに生れて、人から捨てられました。しかし私達も彼を尊ばなかった、全然知らなかったのです。十字架の現場を知らなかったのであります。

「しかし彼は我々の病を負い、我々の悲しみを担いました」黙々として「父よ彼等を許し給え」と祈って下さいました。「彼は我々のとがの為に傷つけられ、我々の不義の為に砕かれ」ました。そして自ら私に平安を与え、その打たれた傷によって私を癒して下さいました。我々は皆迷って自分勝手な事をしていましたが、「主はわれわれすべての者の不義を彼の上におかれた」神様は私のすべての不義をイエス様の上において、私の上にあったものがなくなってしまった。あちらに置いたのですから、こちらにはありません。こうして私を解放して下さいました。

それが神様の定められた事であった訳であります。「だれがわれわれの聞いた事を信じ得たか」黙々として主が十字架にかかっておられるのを見て、それが自分の為であるという事を、誰が信じ得たか。誰が熱い心をもってイエス様を信じたのか。これは私の為でございました、私があのイエス様のように十字架に掛けられて、報いを受けるのが当然であったのに、主が私の為に十字架に掛かって下さった。罪の無い方が十字架に掛かって下さった、と信じた者は、誰なのかとおっしゃる訳であります。

今晚私はこの方の前に立って、もう一度自分の姿勢を整えられました。私はずっと前にイエス様を信じたから、今さら十字架を信じなくてもよろしいと思いたいのですが、そうではありません。イエス様は今晚も、「誰が我々の聞いた事を信じ得たか」「あなたはどこにおるのか」とおっしゃ

います。私は今晚、私のすべての罪すべての不義の為に、主が十字架に掛かり、すべての病もすべての弱さも、全部を負うて十字架に掛かって下さった、あの十字架の姿をまざまざと見せて戴いた訳であります。そうするともう何も言う事はないのであります。説明はいりません。

ジンゼンドルフ伯爵がイエス様の十字架の絵を見た時、そこに「私はあなたの為にこの事をした。あなたは私の為に何をしたか」というお言葉が書いてあったそうです。じっとそれを見ているうちに、彼はその前を去る事が出来ない。遂に自分の家に帰らずに、そのまま献身してしまいました。今までは、文字通り――絵そらごと、架空の事と思っていたのでしょうか。しかし主の前に立たされた時に、彼はまさしく自分の為に主が十字架に掛かって下さった。あれは私の姿だ、その私が十字架から許されて、主が十字架に掛かって、私の為に執り成して下さっているという事を知りました時に、彼はもはや自分の道を生きる事が出来なくなってしまいました。そして彼は生涯を神様に捧げたのであります。

【説明は無用】

◆私は今晚十字架の前に立たされまして、おごそかな思いで、先程から胸が熱くて仕方がないのです。何とも言う事が出来ない。説明が無用であります。私は神様の前に、何とかしたいと思います。――私の為に死んで下さった方に対して、私はどうしたらいいだろうかと考えます。

人間は他の事にはなかなか知恵が働きます。私は家の中の事をこつこつやります、「あなたは色々と考えたり作ったりしますね」と言われますが、その時に私は恥じるのです。ちょっとした事を工夫をするならば、神様から生かされている私とその為にどれだけ考えて頭を悩ましているだろうかと、思います。

ですから今晚ルカの十字架の現場を仰がせて戴いて、「本当に申し訳ございません。あなたの前にかつては民衆であり、役人であり、傍観者であり、罵る者でありました。しかし今晚、そのように新しく教えられて、私の為に十字架に掛かって下さった方の為に生きるほかはありません」と告

白するのです。

◆2 コリント5:11/17、「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである」(17)私はかつてここの所を読みまして、これはなかなか難しい事だと思ったのです。人は自分で新しくなる事はなかなか出来ません。しかし、「キリストにあるならば」誰でも難しい事はないのです。「私を仰ぎ望め」とおっしゃる、あの十字架の上に掛かって黙々と私の為に死んで下さった方、「父よ彼等を許し給え、そはその為すところを知らざればなり」と言って死んで下さった方を仰ぎ見ますならば、外から引っぱられたり、叩かれたり、押されたりすることはありません。中から新しくされてしまうのであります。

パウロもそうでしょう、ジゼンドルフ伯爵もそうでしょうし、私もまた、そうであります。誰から言われた訳でもない。しなさいと言われてしたのでもないし、するなと言われてしなかった訳ではない。神様が私の中に熱いものを注いで下さった時、そうしなければおられなかったのであります。そうして気が付いてみたら神様は私を新しくして下さっていました。「古いものは過ぎ去った」と書いてあります。古いものを脱ぎ捨てて深く埋めて、再び出て来ないようにコンクリートで固めてこいと言うのではないのです。「キリストにあるならば、新しく造られて、古いものは過ぎ去ってしまう——過ぎ去ったものは返りません。すべてが新しくなる」真にイエス様の救いは驚いたものであります。

ゼカリヤ書に、「これに恵みあれ、恵みあれと呼ばわりながら頭石を引き出すであらう」と書いてあります。大きな石を動かそうとすれば、穴を掘ったり、斜面を作ったり、コロを敷いて引っぱったり押したりするのが普通です。しかし神様は何の音も無く、何の苦も無く、恵みあれ、これに恵みあれと言いながら、頭石を引き出してしまおう。

人間の内にありました己という頑固な岩、「誰が何と言ったってこれを

……」と言う訳です。うわべはしおらしくして、立派なクリスチャンでございますというような顔をしていても、中はがんとして動かない。新しくなるどころか、「いいえ、私はこれでも……」と言う訳です。

そんな私の為にイエス様は十字架に掛かって黙々と死んで下された。私はその事実を仰ぎ見ました時に、私の内にありました頭石は音も無く消え去ってしまって、新しく造り変えられました。古いものは過ぎ去ってしまって、新しくなりました。いつどこがどうなったのか分かりません。しかし私は最早自分の為に生きる事が出来なくなりました。そして神様がこんにちの生涯に導いて下されたのであります。

◆神様は私達に対して難しい事を求めているのではないと思いました。どうかしてクリスチャンらしくなって、聖書を一生懸命勉強して、教理を良く理解して、集会に励んで、奉仕をして――勿論それらが結果として出て来る事は好ましいに違いありませんが、そうする事によって救われるものではありません。「地の果なるもろもろの人よ、私を仰ぎ望め」と、イエス様は手を開いて下さいました。「見なさい」と言われたら見たらいいのです。私はあとから気が付いたのですが、私は見ていなかった、目が見えなかったと思いました。目が見えなかったらどうにもなりません。

先程テレビがシューツと言ったと思ったら、焦げ臭いにおいがして切れてしまいました。そこでテレビ音声の出るラチオを聞きました。そうするとテレビ放送がどのくらい盲人の事を考えて放送しているか良く分ります。画面が見えないから、「御覧の通りです」と言われたら困ります。

私は神様の前に丁度そんな者でした。耳だけは肥えています。「ああ、成るほどそうか、よく分る」と。しかしそれが現実のものであり、私の為のものである、私は実は血の滴る現場に立たされているのだという事は、見えなかったのです。しかし私は今晚もう一度仰がせて頂きました。イエス様は私のすべての為に十字架に掛かって執り成して下さっています。

「父よ、彼等を許し給え、そはその為すところを知らざればなり」分らな

【見なさいと言われたら】

い者、足らない者です、弱い者ですから、助けてやって下さい。私の血の故にと言って、今晚も執り成して下さっている。

その事実を見て私はもう一度ここで新しくせられました。出来なかった事を悲観する訳ではありません。知り尽くして「父よ、彼等を許し給え」とイエス様が執り成して下さったのですから、私は感謝しました。感謝しますが、「もうこれで御破算だから、明日から勝手な事をしよう」とは言えません。イエス様が私の為に十字架に掛かって死んで下さったのですから、どうして勝手な生き方が出来るでしょうか。主のお声に従って行く、主によって生かされているのですから、生かされているように私は生きて行く、他に道はありません。

神様は誠に驚いた事をなさる方であります。しかしながら私達の内に色々な力が働いて、それを妨げ、あるいは隠して来る。明らかに見せられたのに、もう一度眠らせようとする力が働く訳であります。

◆ガラテヤ3:1/5、パウロは「馬鹿者」と激しい言葉をもってガラテヤの教会を叱っています。何と物わりの悪いガラテヤ人か！「仰ぎ望め」と十字架の事実があなた方の目の前に、明らかに描き出されているのに、一体誰がこの事実を曲げたのか。事実は事実ではないか。どんなに言いくるめられても事実はあくまでも事実、それなのにどうしてあなた方は迷って、律法に傾いて行くか。御霊で始めたのに、今になって肉で仕上げるというのか。単純に信じて、神様がそう定められた事をして下さると、はっきりと受けた筈であったのに、どうして自分の熱心で、自分が律法を行ってと始めたのか。

それは悪い働き人の影響であります——そんなに信仰信仰と言っても、律法の行いも大事だ。神様は昔も今も同じなのだから、神様の命じられた律法を守るのは良い事だ。良い事をするのは、誰が見ても良い事ではないか。信仰によって救われた者が、律法を行ったらなお良いではないかという訳です。

【誰が事実を曲げたか】

「あなた方が御霊を受けたのは、律法を行ったからか、それとも聞いて信じたからか」二つのものの、どちらか一つでなければなりません。「二つのものに兼ね仕える事は出来ない」律法を行って、御霊に仕える事は出来ません。「御霊を受けたのは律法を行ったからか、それとも聞いて信じたからか」どちらなのかと言われるのです。

ここでもう一度警戒されましたのは、私達が「物わがりの悪いガラテヤ人」のようになり易い事です。律法の行いは、人間の常識で納得しやすいのであります。柘植先生の説教を読みますと、当時の教会は人間の頭で納得しやすい理屈を言い、皆が成るほどと良く分るものだから、そちらに傾いて行くと言われていますが、60年前も今も同じであります。

他人事ではない、私自身の中にもやはりそういうものがあるのです。いよいよとなった時にどうするか、単純にイエス様を信じるのか、それとも少しは何かしようと思うのか。「十字架に付けられたままなるイエス・キリスト」（文語訳）——そのものずばり、血のしたたる十字架が、目の前に現されたのに、どうしてあなた方はその事実を事実でないように思うのか、あなた方の為に十字架に掛かって、執り成して下さっている主の声が聞こえないのか、ときびしく言っておられる訳であります。

【この道筋以外に無い】

◆私はイエス・キリストの十字架と、その甦えり、これ以外には何も知るまい——パウロと同じように思います。それはパウロの真似をしている訳ではなくて、自分自身が神様の前にそれ以外は何もなかったからです。神様の保証があります。

消去法というものがあります。沢山の物がある時に、色々試して見る、これでも無い、これでも無かった、これでもない——すると最後に一つが残る。

私は神様からこの通り保証を戴きました。「あなた方が御霊を受けたのは、律法を行ったからか、それとも聞いて信じたからか」間違っはならないのであります。イエス様の十字架の血により、その御名によって神様

は私に道筋を付けて下さった。エリヤ、エリシャの昔からそうであります。もっと昔からそうでしょう。神様の筋道ははっきりしている訳であります。人間の内にはありません。

エリシャはエリヤの霊の二の分を受けたいと願いました。ヨルダン川を渡りながら、彼がそう言った時にエリヤは、「あなたは難しい事を求める」と言いました。何故ならば、神様の霊の二の分とは、自分がポケットに持っていて、「これをあなたに上げよう、いくつか有るのだが、あなたが私に良く従って来たから、他の人は一つづつだが、あなたは特別に二つ上げよう」と言うものとは違います。エリヤの内には無いのです。エリヤは、「あなたは難き事を求めるが、ノーとは言わない。私があなたから離れて取られるのを見るならば、あなたのうちにその事が成就するが、そうでなかったら、そのようにならない」と申しました。

自分がやる訳ではない。自分の内にあるものは、神様からの道筋だけであると申すのです。

◆ペテロとヨハネが美しの門で申しました。「私に金銀は無い。私に有る物——それはイエス・キリストという名、神様からの道筋である」道筋が有るから生かされて、保たれています。「イエス・キリストの名によって立ちて歩め」と言って手を取って起したところ、生れながら足のきかない男が立って歩き出しました。それで皆が不思議がってペテロとヨハネのまわりに集りました。ペテロはその人々に「何故、私達を不思議そうに見ているのか。私達は魔法使いでも何でも無い、あのイエスの名が、この人を生かしたのだ」と説教をしました。

エリヤもそうです。「私があなたに与える事が出来るのは、筋道である。あなたが私を見て私に付いて来るなら、最後まで付いて来ても、神様からの道筋は出来ないだろう。もし私があなたから取られて離れるのを見るならば、（つまり、神様に目が止まるなら）神様の道筋はあなたにも、付けられるに違いない」だから難しい事ではあるが、ノーではない、神様に目が

【神の保証に間違いはない】

止まるならば、可能であると申しました。

しばらく行くと、火の車と火の馬が現れて二人を隔てました。エリヤはつむじ風に携えられて天に昇って行きました。エリヤは、「ああ、先生」と離れて行くのを見ましたから、彼は霊の二つの分を受けて、帰りには落ちて来たエリヤの外套を巻いて、「エリヤの神よ、どこにいますか」と言っ

て水をたたいたところ、ヨルダン川の水が分かれたので渡って帰ったと書いてあります。

神様は私達に向かって筋道を保証して下さいます。どの道筋が確かであるかは実を見ると分ります。これは違う、あれも違う……ここだと、その筋道を見ると、イエス・キリストの名という道以外に何も無い、自分の熱心も、努力も、人の教えも違う。イエス・キリストの名、あくまでこの道筋しかないと知りますと、「この一つをあなたに聞いてみたい」と言われても、「はい、大丈夫。私はその道筋を信じます。これしかありません」となります。私が考えてこれが良かろうと思うのではなくて、神様が保証して下さいますので、間違いはありません。

◆ペテロがコルネリオの所へ行った時もそうでした。神様が保証されました。彼等が聖霊に満たされ、異言を語り、神様を賛美しているのを見て、ペテロは、「異邦人が救いに関係ないなどと言えない。神様が保証して下さいましたのだから、間違いはない」そこでペテロはかれらにバプテスマを受けさせました。おそらくペテロと同行していた他の先生がバプテスマを施したのでしょう。そしてエルサレムに帰ると案の定、皆から、「ペテロさん、あなたは割礼のない人（異邦人）達の所に行って食事を共にしたり、（まして洗礼をほどこしたり）おかしいではないか」と言われました。

そこでペテロは説明しました。――ヨッパの海岸のシモンという皮なめしの家に泊って、屋上で昼の祈りをしていた時に、大きな風呂敷のような物が四隅を吊られて、上がったたり下がったりしたこと――その中には四つ足のものなどが沢山入っている、「ほふって食べなさい」「いや、こ

【先に神様が保証された】

これは汚れた動物ですから、食べられません」三度も上がったり下ったりした。「神の清めた物を清くない等と言ってはいけない」と言われて、何の事かと思っていると、階下で音がして、「ペテロと呼ばれるシモン先生はいらっしゃいますか」と尋ねている。聞いてみると、カイザリヤで幻を見たコルネリオが、「ペテロを招いてお話を聞け」と神様から言われたので、私達は尋ねて来ましたと言いました。ペテロは御霊が、「恐れずに行け」と言われるので、迎えの人達と共にカイザリヤに向かいました。何をお話しようかとは、考えていません。

行って見ますとコルネリオは伏して迎えました。「私達は神様からみ告げを受け、あなたのお話を残らず伺うようにと、皆み前にまかり出ているのです」と言うので、ペテロは語りはじめました。「神様はどの国民でも受入れて下さると知りました」「あのイエス・キリストは十字架につけられ三日目に甦えて万物の支配者と定められ――」と福音を語っていますと彼等はそのお話を聞いているうち、最後まで聞かないうちに、聖霊に満たされました。それによって、その道筋が確かである事を神様が保証された訳であります。人間の保証よりも先でした。

ペテロがそれを見て、「よし、大分信仰が出来たから異邦人だけでも、救ってやろう」とか、「あなたが地上で解く事は天でも解かれる」とおっしゃるから、「これは一つ解いてやろう。神様、お願いします」と言った訳ではないのです。ペテロよりも先に神様が保証してしまいましたので、ペテロは、「その筋道を、人間が止どめる事がどうして出来ようか」と言って、バプテスマを受けさせました。

エルサレムに帰って皆から質問された時も、答えはその事であります。「神様が保証されたものを、どうして私ごとき者が止どめる事が出来ましょう」と言った時に、皆は黙ってしまって、やがて「それでは神様は異邦人にも、我々と同じ救いを与えられたのだ」と一同が感謝しました。そういう事が書いてあります。

◆神様は私達に対して、「一つの事を聞いてみたい。道筋はどうか」「あなた方が御霊を受けたのは、律法を行ったからか、それとも聞いて信じたからか」とおっしゃいます。それはただイエス・キリストの名を信じ、イエス・キリストが死んで甦えって下さった事実を受け入れた事によるのであります。

使徒行伝1章にありますようにイエス様は40日に亙って度々ご自分が生きている事を示されました。十字架に掛かり死んで甦えった者である事を示された。そして「聖霊を受けなさい、父の約束を待ちなさい」とおっしゃった。どこをどう見ても神様の約束と道筋ははっきりしています。それだけはっきりしているのに、私達は物事をぼんやりとしていくというのは、どういう事なのでしょう。それは世の中の力、人間の常識という力が私達の内に働いて来るからであります。

しかし今晚ここでもう一度神様のご警告を受けましたので、私は「はい、あなたの名によって救って下さい」と言う他はありません。「私はこれ以外の事は何も知るまいと心に決めました」と神様に告白したいと思えます。

◆イザヤ45:22 「地の果なるもろもろの人よ、わたしを仰ぎのぞめ、そうすれば救われる。わたしは神であって、ほかに神はないからだ」

53章にもありました、神様はイエス・キリストをこの地上におつかわしになりました。彼を砕く事は主のみ旨であって、神様はイエス様を悩まされたと書いてあります。神様が十字架を立てて下さったのです。イエス様はそれに対して、死に至るまで忠実に従われたのです。「私は神であって、他に神はない」とおっしゃる方は、そういう事をして下さいました。

私に対して今晚、この事を仰ぎ望めと教えて下さいました。「私を仰ぎ望め、そうすれば救われる」主は手を開いて、「父よ彼等を許し給え」と祈って下さいました。この主をもう一度仰ぎ望んで、自らお答えしたいと思えます。私がどうしなさいと言う事は出来ません。それは自分々々の中から出て来るものであります。「人キリストにある時、新たに造られる」

それは自分が新たにされて生きる訳であります。

その歩みはそれぞれ同じではないかも知れません。12使徒一人々々がそれぞれに違った道を行きました。また、使徒行伝に出て来る多くの聖徒もそうでしたが、神様はそれぞれの持場において、使命を果たさせ給いました。あるいは長く、あるいは短く、あるいは石で打たれた人もある、あるいは迫害に会った人もあり、逆さはりつけになったと言われる人もあります。しかし何にしても、自分で好きな道を行った人はありません。他の人が帯を締めて、好まざる所に連れて行かれる、とペテロの殉教の死を予告されました。

◆この所から自分がどういう生涯を送るのか分かりません。イエス様が私の為に死んで甦って下さって、私を新しく造り変えて下さいました。この方の前にどうしてお答えして行ったら良いか、私は耳を傾けてまいります。そして主が私の為に備えられた道に行く以外にはありません。「汝は我に従え」とおっしゃいます。

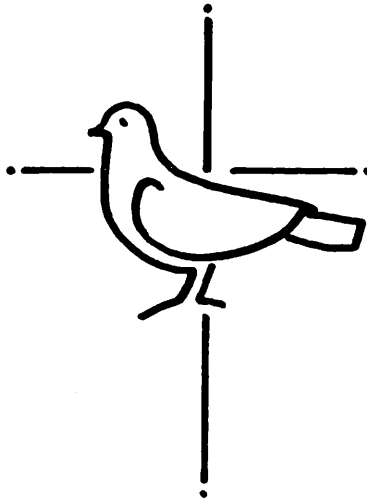
個人々々に対して神様は、「汝は我に従え」とお導き下さいますが、求めなければ、与えられません。従わなければ、無理に引張る方ではありません。いかにもして従わせて戴きたいと進み出ますならば、神様は必ずお答えになります。イザヤが神殿において、神様のも裾を見た時、彼は自分の汚れた事を知りました。祭壇の火をもって清められ、「誰が我々の為に行くべきか」とのお声を聞いて、「主よ我、ここにあり。我をつかわし給え」とお答えすると、神様は即座に、「行って、このように宣べ伝えなさい」と新しい使命に遣わされました。

それまでも既に、青年預言者として主のご用に当たっていたのですが、そこで新しく造り変えられました。私達がそれぞれ神様の使命に生かして戴く、それは決まった形がある訳ではありません。皆それぞれが十字架の前に立たされて、自分が神様の前に新しくせられますならば、それぞれに自分の行く道を教えて下さる。そのように生かして下さいなのが、神様のな

され方であります。

「私を仰ぎ望め、そうすれば救われる」――私達は今晚新しくされました。かつての自分ではない、しかしそこに形がある訳ではありません。どういうふうにならなければいけないというのではない、神様が新しくし、神様のものとし、神様の道を行かせて下さる、これが今晚私達に与えられた救いであります。目を開いて、仰ぎ続けたいと思います。お祈り。

(1987.1.5. 戸畑教会新年聖会.6)



第7章(6日午前10時)

自分を指して贅う

	ページ
1—6回のまとめ	78
何度も贅われる訳	78
それでも贅うと言うことは	79
冷たい態度をとったら	81
謙譲は美徳どころか	82
神様の真実は大盾	83
業に従ってむくいられる	84
パイプが通じると	86
必ず当たる賭	87
神様の公平	88
最初の一步が肝腎	90
すべてのものが始まる	92
主によって勝ち誇る	93

「わたしは自分をさして誓った、わたしの口から出た正しい言葉は帰ることがない、『すべてのひざはわが前にかがみ、すべての舌は誓いをたてる』。人はわたしについて言う、『正義と力とは主にのみある』と。人々は主にきたり、主にむかって怒る者は皆恥を受ける。しかしイスラエルの子孫は皆主によって勝ち誇ることができる」(イザヤ45:23/25)

◆まとめ

☆第1回 主権者を認める。

☆第2回 私を尋ね求めて欲しい。

☆第3回 語り合いたい、祈れば答える。

☆第4回 義なる神、救い主。調和の神。

☆第5回 地の果を顧みる主。

☆第6回 十字架、仰ぎ望め、救われる。

◆ただ今振り返りましたように、これまで6回のご集会において、神様は全くご自分が主人公であるという事を現されました。私はそのように受止めさせて戴きました。

今朝もイザヤ書40章あたりから、ずっと読んでみますと、「私が神であって、他に神はない」という事が沢山書いてあります。黄色の丸印をつけたら、直接の表現で10いくつありますが、その他にも自分が主人公であるという意味の事を繰返して語っておられる訳であります。ですからこれ程確かな事はありません。それだけで十分な訳であります。

あとはその方のお声に従って行きさえすれば責任を持って下さるのですけれど、神様はなおその上に、「自分を指して誓う」とおっしゃるのです。どうして何度も誓われなくてはいけないのだろうか――すると自分が光を受けます。私が神様を信用しない、どんなに叱られても、確かだと言われても、「私は神である、私の他に神はない」と言われても、「いや、どうかなあ？今時そんな神様と言っても、本当に生きていらっしゃるのだろうか？」と人間は考えるのであります。ですから神様は更に、「私は誓う」

――間違いないと言われるのです。

これは一面から言うと、私達にとって安全な事であります。聖書のある所に言われています。「繰返す事は私にとって煩わしい事ではない。あなた方にとっては安全な事である」と。神様のみ心はそういう事であると思いました。神様は何度も何度も言われる――人間の間では、「何回言ったら分るか、もう許さない」「これだけ言ってまだ分らないなら、もう知らない」と言います。しかし神様は、「繰返す事は煩わしい事ではない、これはあなた方にとって安全である」と言って、また今日も誓って下さいました。「私の口から出た正しい言葉は決して空しく帰らない」と誓って下さいました。

◆大体誓うという事は聖書で禁じられているのであります。「あなた方は絶対に誓ってはいけない」と書いてあります。しかし誓ったからには、それを果たさなければならぬ。誓わなくても罪とされないが、誓ったからには、(自発的に言い出した事ですから)果たさなければ罰せられる。「あんなに誓ったのに、どうしてしないのか」と言われる。それは申命記に書いてあります。

マタイ5:33/37、山上の垂訓の中にも、「絶対に誓ってはいけない」と書いてあります。ヤコブ4:13からを見ますと、「来年はどこどこでこう言う商売をして、一儲けしようと言ってはいけない。あなた方は明日の命も分らない者ではないか」とあります。

クリスチャンは借金でも、その他のものでも保証をしません。禁じられています。自分は明日生きているか、死んでいるか分らないのに、「私が引受けた」とどうして言えるでしょうか。「よし、引受けた」と言った後、突然死んでしまったら、その残ったものはどうなるのか。誰かが被らなければならない事になります。ですから禁じられている。もし、それでも「保証します」と言ったら、自分の首を賭ける事になります。借金の保証をするなら、自分が全部被る、全部この人に上げるという気持ちで保証し

【それでも誓うと言うことは】

なければなりません。

もし悪い人が、「いい事を聞いた。クリスチャンは保証したらやったものと思うのだったら、あの人に頼んで払わないでおこう」という事になったら困りますが……神様の前には、そういう事になります。

神様はそれをなお越えて、誓うとおっしゃる、自分よりも上の人がありませんから、自分を指して誓われたのです。これは止むを得ない事です。

例えば組織の中で、下の人が上の人の証明を貰います。「この人はどここの社員である事を証明します」と社長さんの印を貰う。市長さんは自分で自分の証明をする訳にはいきませんから、市議会議長か、県知事か、そういう所へ持って行って、「私が市長である事を証明して下さい」と言うでしょう。だんだん上にいきますと、総理大臣はどうするのでしょうか、総理大臣は証明して貰う所がありませんから、日本国の名を信用してもらう他はありません。

神様は総理大臣でも大統領でもありません。すべてのものの主権者でいらっしゃるから、どこにも持って行く所がありません。そこで自分を指して誓われます。自分の首を賭けて、絶対に間違いない、もし間違ったならば、神が神でなくなってしまうという事があります。

神様は全能者であって、出来ない事の無いお方ですが、たった一つ出来ないのは、偽る事です。2 テモテ2:13に、「私達は不真実であっても、彼は常に真実である。彼は自分を偽る事が出来ないのである」偽る事が出来ないというより、偽ったら自分が自分でなくなってしまう。それ程に神様は私達に対して、重い誓いをして下さったのです。

私が言った事は、決して間違いない。もし間違ったならば、神が神でなくなってしまう、という事は一切が無になってしまうという事です。目に見えるもの、見えないものの、一切をご支配になっていらっしゃる主権者がなくなってしまうなら、私達は全く無くなってしまいます。創世の始のもう一つ前の段階――闇が淵の面にあって何も無かった――という

状態に戻ってしまうに違いない。

私共が今年与えられた、「私は義なる神、救主であって、私の他に神はない」また、「地の果なるもろもろの人よ、私を仰ぎ望め、そうすれば救われる」という神様のお約束は決して間違いがないとおっしゃるのです。

◆『すべてのひざはわが前にかがみ、すべての舌は誓いをたてる』（23後半）神様が誓って下さった、自分の首を賭け、存在を賭けて誓って下さったという事を知りますと、私達もその方に対して、命を賭けます。相手が一生懸命に命を賭けて下さったのに、こちらが冷たい態度で、「そんなに一生懸命やっているが、好きでやっているのだろう。私は知らん」と言ったら人は腹を立てるでしょう。どんな事を考えていても止めてしまいます。

大分前の事ですが、ある人が結核療養所に入っている間に、救いに入れられました。それまでは自分の事ばかり考えていたが嬉しくなって、今から人の為に何か奉仕をしようと考えて、便所の履物を揃える事を始めたそうです。最初は皆感謝して、「本当に有難う。クリスチャンはさすがに違う」と言われる。そうしているうちに、だんだん馴れてきて、やがて陰口が聞こえて来ました。「あの人は好きであんな事をしているのだから、勝手にやらしておけ」と。その人は腹を立てて、止めてしまったそうです。

神様が私にして下さった事は、ご自分の命を賭け、ひとり子を十字架に付けて、義なる方でありながら救いの道を開いて下さった。こうしてすべての事を成し遂げて、ただ仰ぎ望みさえすれば、救うとおっしゃるのに、私はそれを冷ややかな目で見ておりました。「昔はそうかも知れない。他の人はどうか知らないが、自分はそうまで信じられない」と言って、一歩下がっている。

これでは神様はどんなに落胆されるか分からない。人間の世界で、「私はもう結構でございます」と言うと、謙遜な人だと言われるかも知れませんが、神様の前には大違いであります。悪意でなくても、「ちょっとそこま

では信じられませんから、結構です」と言いますと、神様は落胆されるだけでなく、厳しく叱られます。

【謙譲は美徳どころか】

◆イスラエルの民がカナンに入ろうとした時、神様は斥候を出すように命じられました。各部族から一人ずつ選ばれた12人が40日かけて偵察をして来ましたが、その報告の中で、「あそこは大変素晴らしい土地である、乳と蜜が流れている。しかしそこに住む民は我々よりも強く、城は堅固で、我々はまるでいなごを見下すように見下された。あの土地はそこに住む者を滅ぼす地です」と、12人のうち10人までが申しました。

しかし他の2人は立って、「そうではない。人間の目に見るところは、必ずしも真理ではない。住民が強くても、石垣が堅固でも恐れることはない。神様が行けとおっしゃるのだからその地を下さる。私達はここまで自分で計画して来たのではない。神様が引出して、導いて下さったではないか。だから行こう。行ったら大丈夫。今迄荒野の旅で、右に行くのも左に行くのも、止まるも進むも皆神様が責任を持って下さった。私達は毎日知らない新しい道を踏んで来たではないか。それなのにどうしてこれから先、入って行く道だけは、困難と決めてしまうのか。さあ、攻め上りましょう。私達は必ず勝つ事ができます」と言いました。

ところが多数決という訳でしょうか、イスラエルの民は10人の言う事を聞いて、「これは駄目だ、私達はここに入ったら滅ぼされてしまう。荒野で死んでいたらよかった。エジプトに帰る方がむしろよいではないか」と言いました。

その時に神様はご自分の栄光を現されて、「この民はいつまで私を侮めるのか、皆滅ぼしてしまう」とおっしゃったのです。しかしモーセが執り成した事によって神様はそれを許して下さいましたが、一遍に滅ぼす代りに40年間荒野を放浪させ、徐々に滅ぼしてしまわれました。大人であった者は皆死んで、その当時子供であった者、あるいは後に生れた者が育って、40年目にカナンの国に入る事が出来た訳であります。

人間の美德は、必ずしも神様の前に通用しません。神様が自分を指して誓って、間違いがないとおっしゃっているのに、こちらがそれに対して冷やかであるならば、ただ自分が損をする、あるいは信仰が進まないだけでなく、神様の怒りを受ける訳です。「私が上げよう、さあ、来なさい。私が首を賭けて誓う。私を仰ぎ見なさい。」とおっしゃっているのに、その手を払い除けるように、「いいえ、そんな事は私にはいらん事です。私は自分の道を行きます」と言う。先程の霊感賦(24番)に、「私の道ではなく、あなたの道」とあったのとは逆に、神様の道を跳ね除けて、「私の思う通りに行きます。神様、そう無理に引張っても、仕方がないでしょう。信仰が無いのに無理に引張られたら偽善者になります。私はしません」と言う。

しかし神様が命を賭けて誓い、呼びかけて下さる事を知りましたら、私達は「ああ、そうでしたか。あなたは主権者です。あなたがそんなに誓って下さったのでしたら、私もまた、命を賭けてまいります」と言うのが当然ではないでしょうか。「すべての舌は誓いをたてる」というと、何か自分と直接関係が無いように聞こえますが、そうではなくて、「あなたはこのようになりなさい。なるのが当然ではないですか。私に対して答えなさい」という神様のご期待であります。

◆「そのまことは大盾、また小盾である」(詩91:4)とあります。神様のご真実は大盾小盾――私達にとって敵の弓矢を防ぐところの大盾小盾です。色々な盾を連ねて自分を守るように、神様のみ言葉とそこのご真実は、大盾小盾であります。

「神の言葉はみな真実である。神は彼に寄り頼む者の盾である」(箴30:5) 神様のみ言葉はみな真実であって、人が頼っていくならば、必ずその人にとって避け所となり、その人を守って下さると書いてあります。人間の世界でも、「大船に乗った気持」などと言いますが、大船どころではない、神様のお言葉がどんなに頼りになるものであるか、こちらがらせてみ

【神様の真実は大盾】

ると分かります。

神様の誓いに対してこちらが、「ああ、そうでしたか。あなたが誓って下さるのでしたら大丈夫。私もあなたに賭けましょう」と賭けますと、「正義と力が主にのみある」との確信が与えられます。私もそうです。聖書のお言葉に賭けて行きますと、賭けただけで終らない、必ずその結果が出て来ます。賭ければ賭けたように、神様の事が分って来る訳であります。「正義と力とは主にのみある」神様という方は真実な方、正しい方で、強いだけではなくて慈しみも持った方でいらっしゃると分ってまいりました。

【業に従ってむくいられる】

◆詩篇62:1/12、この詩篇はダビデの歌ですが、ダビデは神様の事を知るのに2段階に知った訳であります。「神はひとたび言われた。わたしはふたたびこれを聞いた」(11)、人間が物事を理解をします時に、最初に見て、ああこういう物だという事が分る。それから自分で体験してみて、本当にそうだった、あの方のおっしゃっている事はこういう意味だったのか、間違いはなかったと言って悟る。そういう段階がありますが、ダビデは神様が、「一度言われた事」を再び聞きました――それは、「力は神に属する」神様は力を持っていらっしゃる。また、「主よ、慈しみもあなたに属する」強いばかり、正しいばかりでなくて、慈しみも持っていらっしゃる。すなわち、義なる神であって愛の方であると悟った訳であります。

それはどのようにして悟ったか、一生懸命に研究して悟った訳ではありません。最後にその秘訣が書いてあります。「あなたは人おのおののわざに従って報いられるからである」(12)、神様は一人々々のわざに従って報いられた訳です。

神様はダビデに対して特別にお語りになり、色々な事を教えられました。ダビデは神様から選ばれ召された救主の型であります。それだけに、お取扱いもきびしい点がありました。見逃さない、悪い所はきちっと指摘される。大失敗をした事も有りますが、神様はすぐに使いを送って、これを責

められました。恥ずかしいとかは抜きにして、神様の前で悔い改めてしまいました。部下の前でも裸でした。

神様の方もダビデに対して、カー杯賭けられた訳であります。ダビデの故にその子孫に祝福を絶やさないと、遂にその子孫から救主を生れさせられました。

ダビデの方も神様に対して真実を尽くしました。真実というのは完全無欠で、何もなかったというのではないのです。事なかれ主義という人がありまして、何かして間違いを起すより、じっとしておこうという人がありますが、そうではないのです。ダビデは赤裸で神様の前に、あるいは泣き、あるいは喜び、ある時は踊りました。

妻ミカルが、「あなたは軽はずみな、町のならず者のように、踊り回ってなんですか！」そう言った時も、「私はどんなに辱められても、ならず者と言われてもよろしい。私のような者を選んで、イスラエルの王として下さった神様の前に、どうして踊らずにおられようか。もっと踊ろう、もっと辱められても構わない」と言って踊りました。そういう裸の人生を送りました。

神様に対して彼はカー杯信頼してまいりました。「人おのおののわざ」――ダビデは顔を上げる事も出来ないような苦しい状態の中から裸で神様に信頼しました。

あるいは子供から命をつけ狙われる。自分が蒔いた種（甘やかして子育てを誤った事もあり、バテシバによって姦淫の罪を犯した事も遠因になっている）ですが、アブサロムの反乱が起り、彼は大変心を痛めました。自分も命からがら逃げましたが、アブサロムの死亡を聞いた時に、王様は「ああ、アブサロム、アブサロムお前に代って死ねばよかった」と言って泣いたものですから皆は、「なんだ、この王様は、おれ達が皆死んでアブサロム一人が助かったらよかったのか、もう王様の言う事なんか聞かない」と言って逃げて行ってしまいました。

そういう大事件があった時も、彼はその中で神様によって自らを強くして戴きました。「こんな者ですけれども神様は選んで召して捨てない——こんな大失敗にも拘らず神様は祝福を変えない、知り尽くしてなおそれを清めて下さる」と——時間的に言いましたら十字架はまだあとですけれども、神様のお心の中にあった十字架は彼を引上げ、彼は神様を知らして戴きました。立つ事が出来ないところを立たせて戴いた、顔をあげる事が出来ないところをなお上げさせて戴いた、神様のお言葉なんか捨ててしまっ、どこかに潜り込んでしまいたいと思う時にも、なお恥を忍んで神様の光に従う、その真実なわざに従って神様はご自分を知らして下さいました。

失敗にもかかわらず、ダビデは祝福を失いませんでした。後の代に至るまで、ダビデの故にと言って神様は子孫を捨て給いませんでした。ユダ王朝は北イスラエルよりも百数十年間延命しましたが、それもそのまま永らえると言う形をとらず、遂に一度断ち切れ余所の国に捕え移されてどん底まで落ち、その中から、「それでも仰ぎ望め」「それだから仰ぎ望め」「その為だ仰ぎ望め」という事を経験させて、暗黒の数百年から、新約時代へと導いて下さいました。イスラエルの歴史を考えても、ダビデ個人の生涯を考えても、神様は、「おのおののわざに従って報いられる」方でいらっしゃいます。

私もまた、神様の前にそうでありました。私がした事はと言うと、特別に何も無いのであります。あるのは神様が命を賭け、首を賭けて下さった、それに対して私も実際に生きている人間として答え、賭けて行く。それだけの事なのです。神様が賭けて下さって、私が賭けたところ話が通じました。

◆人間でもそうでしょう、誠意をもっていく、相手も誠意をもって答える、するとすべての事が始まります。話が通じて気が合い、人間関係が出来ますと、ただその時に話合った問題文でなく、あらゆる事が動き出しま

す。

私も色々な方と懇意にして戴きまして、大変嬉しいと思いますのは、何か話をしたとしても、その事だけではすまないのです。次々にあらゆる事が出てまいります。色々な事を教えられます。あるいは物をやりとりする事もあります。神様と通じるという事も、ただ通じただけで止まりません。あらゆる事がやって来る訳であります。

ここの水道の給水パイプは1インチですから、内径2.54センチでしょうが、その中に強い圧力の掛かった水が来ていますから、出そうと思えば頓田貯水池の900万屯の水でも出る訳です。

神様が私と通じて下さるといふのは、目で見ると細いパイプかも知れません。神様が賭けて下さったから私も賭けようと決心しても、目に見える変化は無いかも知れない。しかしその中を通して私の内に流れて来たものは、どれ程沢山のものであったか、どれ程多彩なものであったか。

私の生涯の全部、命の全部、物質的にも金銭的にも、あらゆる面から私に注いで下さいました。これはおそるべき事でありました。

◆人間の賭けは当たるものと当たらないものとあります。当たらない方が多くないとくじが成り立ちません。昨日も宝くじの抽選をやっていました。文字盤がぐるぐる回って止まると番号が出ます。6桁とか8桁ですから、百万分の一、外れが大部分ですが、神様が賭けて下さって私が賭ける、この賭けは、驚くべき事に必ず当たり、必ず報いられる賭けであります。ですから賭けない方が損であります。

一昨年でしたか、ある本を読んでいて、アメリカのある雑誌の事を知りました。大変良い雑誌できれいな写真が沢山ある、値段はたった1ドル——とにかく買わない方が損と書いてある。注文をしてみますと、大変素晴らしい雑誌であります。日本で洋書コーナーに行ってみますと、同じものに1600円と値段が付いていました。最近になって私のルートも2ドルに値上がりしました、それでも320円です。これは買わない方が損と書いて

【必ず当たる賭】

ある通りで、本当に損なのです。そういう本がありました。しかしその本もお金を払わなければならないし、注文書を書かなければならない。あるいは値上がりしたら、またお金を払わねばなりません。

神様の賭けは、「人おのおののわざに従う」もので代価は全部向こう様が払って下さる。「私が決めた事である。私が自分のひとり子を十字架に付けて、支払いをしてしまった。あなたに対して全部を賭けて報いよう」と言って下さる。私の体験から言えますが、神様の賭けは絶対間違いはありません。私を御覧になって下さい。私は何者でもありませんが、神様が賭けて下さって、私も賭けたところ、こうして私を支えて、生かして下さいます。

私の力は尽き衰えますが、神様は三原山の噴火のように、中から次々に火を燃やして下さいから、私は生かされている訳です。少し風邪をひいて弱って、どうかなという事があっても、直ぐに支えて下さいました。寝不足で少し眠いと思っても、また直ぐに神様が支えて下さる。こうして私は次々に支えられています。

聖会に出させて戴いて神様が何を教えて下さるかという事も、やはり神様が賭けて下さって、私が賭ける、そこにパイプが通じ流れて来る。それ以外に何もありません。少々思い付いた事はカードに書いて来ますが、神様はそんな事に囚われません。自由にご自分のわざを行われる。これは素晴らしい事です。

◆「あなたは人おのおののわざに従って報いられるからである」(詩62:12)神様が賭けていらっしゃるので、あとはこちらがどう答えるかに掛かっている訳です。答えれば答えたように報いて下さる。これが神様の公平というものであります。

この世の中の公平はそうではないです。ケーキを切るならば、同じように人数に分けて配るのが公平でしょう。いつでしたか私はあるミッションスクールの卒業式に教会代表で参列しましたが、昔の卒業式と大違いであ

ります。昔は一斉に立上がって、「総代」――成績操行優等なる者、一番勉強が良く出来て、行いが良かった人間という訳です。その人が選ばれて前に出る。「何の誰バえ、他何名」という訳です。そうしてお辞儀をして全員の卒業証書を貰って来る。他の人は総代がお辞儀をする時に合せてお辞儀をして着席する。そういう事でありました。

しかし最近の卒業式はそうではありません。全員が全く同じように、一人一人名前を呼ばれ、校長先生の前に行って、「何の誰がし」という訳で貰って来る。同じように致します。順番にぐるっと一回りしますから大変時間がかかります。それを見ていて成る程、人間の世界の公平は、皆同じようにする、機会均等にすることかと思いました。

神様は人を差別される訳ではありませんが、ご自分が命を賭けたのに対して、人が賭けるならば、賭けたように、相応しい報いを与える、これが神様の公平であります。

賭けないものに神様がどっと答えられたらひっくり返ってしまいます。私達が椅子に腰掛けますと、椅子は体重と同じ力で支えます。上下が釣合っているのです、じっと座っている事が出来ます。もし50キロで座ったのに、椅子が頑張って70キロで押し上げたら、ぼーんと飛び上がってしまうから、安心して座る事が出来ない。

自分が賭けない、神様を期待しない、待ち望まないものに、答えられたらどうでしょうか。びっくりして飛んで逃げてしまうかも知れない。三原山の噴火予知が出来なかったという事ですが、昨年11月の何日でしたか、禱告会のあった夜でした、10時50分頃、今避難警報が出て、島民は全員避難する事に決まりましたとラジオは大騒ぎでした。誰も待っていなかったところへ、俄かに噴火したので大騒ぎになって、逃げた訳です。

私達が神様を期待しない、神様が答えるとおっしゃるのに、知らん顔をしている時にぼーんと来たら、皆びっくりしてしまいます。しかし神様が賭けて下さったのに対して、私達も賭けて、「神様が私に対してこんなに

素晴らしい事をして下さるから、有難うございます。私は賭けました。あなたを待ち望んでいます」と待っている時に、答えて下さると、「うわー、素晴らしい、神様は生きていらっしゃる」と言って感謝します。

「正義と力とは主にのみある」という訳で主を感謝します。だから神様は不公平ではないのです。神様のなさる事は差別のように見えますが、人間の公平のような事をしたらかえって悪い訳です。人は耐えられない。だから神様は人の信頼に応じて、おのこのわざに応じて、信じ方に応じて、恵みをもってお答えになるのです。これが神様の公平であります。

ダビデは神様から賭けられて、神様に賭けて、このようにして神様を知りましたから、更に神様に頼って行きます。物事は循環するという事がありますが、ダビデは縮小均衡でなくて拡大均衡——どんどん自分の信仰が大きくなってまいりました。神様が賭けて下る、こちらが賭けていく。そうすると神様の事を更に悟らせて戴く。一度聞いたものが、二度心に入って来る。そうすると、そんな真実な方ならもう一つと信頼する。そうすると神様は又、色々なことで答えて下さる——そういう循環をしておりました。私も神様の前にそうだったのです。

◆物事が回り始めるのは、最初が肝腎であります。ちょっとした事で回り始めるのです。

明治時代の軍艦で、「八雲」というのがありました。現役を引退して、私共の頃には練習艦になっていました。学校の生徒が実習をする訳です。私達は兵科と言って要するに大砲を撃ったり、魚雷を撃ったり、通信、航海、そういう仕事をするのが主ですが、全体の事を知っていなければいけないと航空機から潜水艦まで実習する訳で、機関室に入って機械を操作する。

そうすると大きな蒸気機関があって、物凄い大きなシリンダーの中にピストンがあって1分間に60回くらい往復する、随分遅いものです。バルブを開けて蒸気を通すと動き始める筈ですが、デッドポイントというのがあ

って、ピストンが一番上にあがっていると、蒸気を入れても動きませんから、最初にテコを利用して、角度をちょっと変える訳です。デッドポイントからちょっとずらしてやりますと、そちらの方向に回り出す。逆転する時はそれを反対の方にずらしておいて、運転する訳です。ピストンそのものは同じ運動をします。大変な馬力のある大きな蒸気機関でありまして、最初はちょっとずらしてやれば廻り始めます。

私達が神様のお言葉に従って恵まれるとか、恵まれないとか言います。あるいは信仰が進んだとか進まなかったとか言いますが、それはさいころを振って、たまたま1が出たり6が出たり、儲けたとか、損をしたとか言うようなものではなくて、こちらが神様の前に小さな決断でもよいから賭けることです。神様が真実をもって賭けて下さっている、私は今、よく分らないのだけれども――分らない所に飛び込むのが賭けです――神様は確かな方だから、私も賭けよう。自分の頭でどんなに考えても、そこまで行けないのだけれども、望み得ないところを、なお望みつつ信じて行こうと決断するのです。

アブラハムの生涯がそうであります。彼は百才になって、「お前に子供を与える」と言われて、信じられない。「空の星を見なさい、あの星よりも沢山、お前の子孫は殖えるであろう」と言われても、彼は信じられない、妻サラは90才、自分は百才ですから。しかしその時に彼は、神様のお言葉に賭けました。他の方ではない、命を賭けて誓うとおっしゃる方、すべてのものの主権者である方が、誓うとおっしゃったら間違いないと。

人は、「あんなことを言っていました、上の人から言われたから出来ません」と言ったり、「あんなに言っていたが、あの人は死んでしまったから、約束は御破算です」と言ったりします。しかし神様は死ぬ方ではありません、衰える方でもありません。最高の権威を持った主権者でいらっしゃるから、その方が誓うと言ったら決して間違いはないのです。

アブラハムは、「望み得ない時に、なおも望んで信じる」――清水の

舞台から飛下りると言いますが――神様の前にどうしても信じられない所をなお自分で飛び込む。「そうです、神様に於いては出来ない事はありません」と。信仰の戦いはこれです、彼は信仰のてこを切替えた訳です。その結果、すべての人の祝福の基となると言う、驚くべき祝福を受けました。百才の人に子供が生れて、それからイスラエル民族が生れた訳であります。アブラハムの子がイサク、イサクの子供がヤコブとエソウ、ヤコブの子供が、ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルン、ダン、ナフタリ、ガド、アセル、ヨセフ、ベニヤミンと12人、そしてその子供たちから更に子孫が増えて、イスラエル民族が出来ました。

終りを見ますと非常に大きなものがありますが、遡ってまいりますと、最初にあったものはアブラハムの小さな小さな決断、信仰の戦い、にじるように一步踏出した歩みです。そのわざに従って彼が報いられ、その子孫が報いられ、また、私達が信仰によってアブラハムの子孫とされ、こんにちこうして豊かに報いられている訳であります。

【すべてのものが始まる】

◆イザヤ45:23/24、私はここを2行づつ読みました。最初の2行――神様が命を賭けて誓って下さる。次の2行は――私達が主権者に対して命を賭け、首を賭ける。そして次の2行24節は――私達の告白であります。「正義と力とは主にのみある」神様は確かに義にして愛なる神である事を私達が告白する。これは神様が私達をこのようにして下さるという事です。また、そう告白せよとのご命令であり期待であります。そしてそのようにして下さるという約束でもあります。ですから今日、私は神様に対して自分を賭けたいと思います。

100分の100の確率について――マタイ13章を見ますと、宝の隠された畑を、自分の全財産を投げ打って買うという話がありますが、事実そこに宝が隠されているのですから、それを買い取ったら自分の物になる、これは確実な事であります。宝くじを買って何百万分の一で当たるのとは、大違いであります。

「すべてのひざはわが前にかがみ、すべての舌は誓いをたてる」とおっしゃった。神様の前に膝を屈めて、主権者が私に賭けて下さったように私も賭けるところに、すべてのものが始まるのではないのでしょうか。事実私は今日までこうして支えられてまいりましたが、ここでもう一度神様の前に新しく立たされております。神様は、私の今後について賭けて下さっています。「大丈夫、私が責任を持つ。あなたの戦いではなく、私の戦いである」と言って下さっています。

この聖会の今後についても大丈夫、その後も更に沢山の集会があるかも知れません。しかし私は神様が賭けて下さったように、私も賭けていく。その時に必ずご自分のみ旨を行って、私に神様を知らせて下さるに違いない。また、私からして、どんな驚いた事をなさって下さるか分かりません。

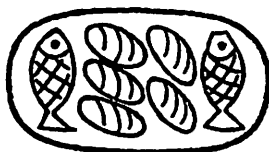
◆「イスラエルの子孫は皆主によって勝ち誇ることができる」(イザヤ45:25)とあります。なかなか今の世の中、手放して喜べるような事はありません。元旦の部厚い新聞の中に、国民意識調査の結果が載っておりました。一言で言うと、現代人は色々な不安を持っているが、人並という事で安心をしようとし、あるいは安心している。人並という言葉はおかしな言葉でどこまでを含む人並か分かりませんが、恐らく小さな日本村の中で回りを見て言っているのでしょう。

しかしまた、色々な不安があつて、焦燥感を持っている。これではいけない、どうしたものか、なんとかひとつここで――と思う、それが今の国民の意識だと言うのです。そういう事を知りました。決して手放しでは喜べない。

しかしここには、「イスラエルの子孫は皆主によって勝ち誇ることができる」とあります。神様の民とされて、神様が賭けて下さった、こちらも賭けて行く生涯は、皆主によって勝ち誇る事が出来る。全く勝利であります。何も不安は無い。ただ野放しの楽道家というのではない、主によるとき勝利であります。

【主によって勝ち誇る】

どんなに困難があっても、なお神様は責任を持って下さる。この勝利は素晴らしいものです。今年一年だけでなく、私が世にある限り、この方によって勝ち誇る生涯を送らせて戴きたい、その為に神様に賭けさせて戴きたい。それは大きなものをどかっと賭けるのではなくてよろしい、小さな小さな一歩でいいのです。1ミリでもいいかも知れない。それを見て神様が助けて下さるのです。この方の前に私もまた膝を屈め、命を賭ける生涯でありたいと思います。お祈り。 (1987.1.6. 戸畑教会新年聖会.7)



第 8 章 (6 日午後 2 時)

主に向かって怒る

	ページ
主に向かって怒るとは	96
そうでなくてもいいでしょう	96
パウロの涙	98
栄光の体と同じ形に	100
神様が決定されたら	100
聖霊に逆らう者	102
今の歩みが永遠の決定に	104
最も危険なもの	106

「主にむかって怒る者は皆恥を受ける」(イザヤ45:24)

◆神様に向かって怒るといのはどういう事でしょうか。人間同士が怒って喧嘩をするのでしたら、あるいは叩いたり突いたりするかも知れません。しかし神様に対してとてもそんな事は出来ません。神様に対して怒るとは、お言葉に対する不従順であります。あるいは自分で良いと思って間違った道を行く、「この方がいいでしょう」と言う。これは主にむかって怒るものであります。

創世記のアベルとカインの記事を見ると良く分りますが、カインは、「神様、これは良いでしょう。こんな物が出来ました、だから神様喜んで下さい」と言って持って行く。しかし神様はそれを喜ばれなかったのです。それで彼は脹れました、弟を妬んで野原で刺したと書いてあります。カインも神様に対して良い願いを持っていた事でしょう。礼拝しようとして来たのですから。しかし神様のみ心に適わないことを押し通そうとしました。ですから恥を受け、神様から顧みられなかった、「出直して来い」と言われました。弟を殺して地面に埋めて、その結果神様から追放されました。

「主にむかって怒る者は皆恥を受ける」神様は今年、ご自分が、「義なる神、救主であって、私の他に神はない」とおっしゃった。その方が私達に対してイエス・キリストという道筋を通して、イエス・キリストの名によって救いを与える、人を新しく生れ変らせて、神様自身を注いで一つとなって下さる事を定められた。決められた事ですから、「はい」と従いさえすれば、そうなると思われ。ところがそれに対して、私達はなかなか素直に従わないのであります。従わないというより、良い願いのような別の道を守る危険がある訳であります。

◆ピリピ3:17/4:1、これはパウロの書翰ですが、パウロは神様が自分に対して、命を賭けて下さった事を悟っていました。そして自分も神様に賭けた人です。神様から燃やされて、自分も神様に対して燃えました。ひたすら走りました。16節より前はその生涯です。かつてパウロが良いと

【主にむかって怒るとは】

【そうでなくてもいいでしょう】

思っていたものを皆かなぐり捨てて、イエス・キリストを知るという絶大な価値を追い求めました。「全き人達はそのように考えるべきである」とは私個人に倣いなさいという意味ではなくて、神様から賭けられたら賭ける、燃やされたら燃えて、そして従っていくのが人間として当然の道であると言っているのです。

17節、自分に倣うとか自分に倣う人に注目するとは、個人的に誰々さんのようにと言う事ではなく、その筋道に目を止めなさいということです。その人達が目指して、神様に向かって賭け、神様がそこに繋いで下さっている恵みの筋道がそれぞれにあります。それに目を止め、それに倣っていく。人に目を止めて人に倣っていくと、その人で止まってしまうし、誤解したり脱線したりします。私達の先輩にも例があります。ですから人間ではなく、神様に目を止めていく。

「わたしがそう言うのは、キリストの十字架に敵対して歩いている者が多いからである。わたしは、彼らのことをしばしばあなたがたに話したが、今また涙を流して語る」(ピリピ3:18)、ここを見ると個人のことはないという事が直ぐわかります。自分とかある人々のことではなくて、キリストの十字架に敵対している人がいると言われています。神様がイエス・キリストの名という道を通して救いを与えると言われるのに、それに敵対する――敵対するというのは、手をあげたり、蹴飛ばしたり、石を投げたりするだけでなく、「そうでなくてもいいでしょう」という事があります。神様が一生懸命になさっていらっしゃるものを、「いや、そうでなくてもいいでしょう、神様はそんな事をされるのですか」と言って傍観者になる――それが神様に対する敵対行為であります。

「敵対している人が多い」とは、私達が周囲を見て、私はいいのだけでも、あの人は間違っている――という訳ではない。同じ自分の中にそういう分子があります。聖書は鑑でありますから、自分の身に当はめて警戒する事が必要です。私は、「歩いている者」の「者」の所に、「自分の

分子」と書き込みました。自分の心の内にそういう分子、そういう傾向がある。ちょっと油断すると、ずっとそちらに落ちて行く、人間の肉性、自然の傾向はそういう事であります。

それでパウロは、「彼等の事をしばしばあなた方に話したが、今また涙を流して語る。彼等の最後は滅びである」と言っています。イエス・キリストの十字架でなくて――というのは、それほど大した事でないように思います。こっちかそっちかどちらにするか、私はこっちにしましょう。そうかそれなら、こっちからこう来なさい。そういうことで行けるならいいのですが、そうではないのです。

「この他、別に救いある事無し」――神様は「私の他に神はない。私がこう決めた、この道しかない」とおっしゃるのに、「いや、こっちに」と行けば、その道は行き止まりか、崖の下に落ちてしまう。これは滅びであります。「彼等の最後は滅びである」「彼等の思いは地上の事だけ」「彼等の神は自分の腹、彼等の栄光は自分の恥」――神様の前に恥づかしいような事を自慢して、私はこんな事をした、と言って誇る。その最後は滅びであります。

【パウロの涙】

◆パウロにとって最も気の重いものは自分の同族ユダヤ人の問題でありました。彼等は、神様に対して大変熱心でした。自分がかつてそうであったように、神様の事を良く知っている。旧約聖書を良く読んでいます。律法を守ります。熱心に働きます。

そこまではいいのですが、その神様が、おきての終りとして――律法はひな形である、人間が守ろうとして守る事が出来ない。神様はイエス・キリストによって、内から人を変えてしまって、律法を越えた生涯を送らせるという、真理の道を与えられた訳であります。

ところがユダヤ人はそれを拒みました。「いや、キリストは救主でない」と言って、これを十字架に付けました。今に至る迄二千年の間、ユダヤ人はイエス・キリストを信じないで、「あれが救主なんてとんでもない――

「真の救主よ、早く来て下さい」と言って待っております。それがユダヤ教であります。

旧約聖書は共通であります。神様も同じであります。しかし神様が第1幕、第2幕――第1幕があって第2幕があるように、律法によって真理のひな形を与えられた後、イエス・キリストによる真の救いを現されたのに、第2幕の方は拒んでしまいました。そして彼等ユダヤ人は世界中で色々な事をやっています。今にユダヤ人が世界を支配する時が来る、その時にメシヤが現れるに違いないと持っている。

これについてローマ11章には、最後にユダヤ人も救われるようになる、と書いてありますが、パウロは自分の同族について非常に悲しんでいます。一番近いもの、同じ根から出て、同じ神様を信じて、熱心である人達が、神様が決められた救い、「これだ」とおっしゃるものを拒み、「いや、違います」と言ったものですから、神様から捨てられました。それによって異邦人である私達が救われる事になりました。パウロは同族の為に非常に重苦しい思いをして祈っています。

私も最初教会に来た頃は、それ程感じなかったのですが、最近神様の救いがはっきりと分ってきますと、パウロと同じように感じられて来ました。ユダヤ人は今に至るまで神様を拒んでいます、世界の中では色々と支配的な事をしていきます。学者とか弁護士が多い。金融関係とか、流通関係とかユダヤ人が皆ポイントを握って、まさに世界支配を遂げようとする情勢にある。そういう事を聞きますと、私は自分の腹の中に鉛が入ったような、非常に重苦しい思いがして来ました。

昨年の秋頃、ユダヤに関する本を読んで、改めて聖書を読んだ時、非常に重苦しい思いがしました。パウロも同じ思いでしょう。一番近い自分の兄弟、同族がイエス・キリストを信じないで滅びに落ちて行く――イエス・キリストを信じるところに救いがある。事実自分はこうして救われた。それを拒んで彼等はまっしぐらに滅びの道を走っている。パウロはそれを

見て涙を流して語り、また祈っています。

◆「彼は、万物をご自身に従わせうる力の働きによって、わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さるであろう」(ピリピ3:21)、私も最初ここを読んだ時、どんな形に変えられるのだろうか、どんな事が起るのだろうか、私の体がぱっと輝いて、どうかなるのだろうか、そういう事を考えました。しかしそれは人間の考えであって、誤りであります。神様のなさる事を人が考え、想像する事は出来ません。

ただ言える事は、神様が私達を造り、「きょう我、汝を生めり」と神様の物にして下さった。「義なる神、救主」という「救い」は、イザヤ43章を見ると、「他のものを捨てても、お前を救う、お前は私の子供である」と言う救いですから、「神の子として召した」ものの終りを必ず全うして下さる。ですから地上の使命を終って眠った者について、神様が必ず終りを全うして、引上げて下さる。

そして神様の栄光の御前に立つ為に、腐った汚い体ではなくて、「ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さる」のです。神様のご真実を信頼しますなら、それは当然の事であります。イエス・キリストの救いに預かった者は、このように神様の真実をもって全うされる。もし、イエス・キリストがなかったら、滅びというよりも、何も無い訳です。救いの道を自分で拒んでしまったら、どうしようもない。

◆ルカ16:19/31、これはある金持と貧しい人の話であります。イエス様が直接にお語りになったものです。ラザロという貧しい人がいて、金持の玄関で残り物を貰って食べていました。体にでき物が出来て犬が嘗めている、そういう人です。二人とも同じ頃に死んで、貧しい人は御使達に連れられてアブラハムのふところに送られ、金持は死んで黄泉に落ちた。これは物質的に豊かな生活をしたら地獄に落ち、貧しかったら天国に行くという意味ではありません。金持は神様から与えられた賜物として感謝を

しないで、自分のものと思っていたのかも知れない。

このラザロは神様を敬っていたのでしょ、先祖アブラハムの所に行つて、そこで安らかにしております。黄泉の中から金持がそれを見て、自分は熱くてたまらないので、「ラザロをつかわして指先にちょっと水をつけて、私に飲ませて下さい」と頼みました。非常に渴いていたのでしょ。

ところがそれに対して、「いや、それは出来ない。あなたは神様を敬わない自由奔放な生活をして、ラザロより良い物を受けていた。しかし今ここで彼は慰められ、あなたはそこでもだえている。しかしこれは神様が決定された事であつて、こことそちらは大きな淵で隔てられて、行く事も来る事も出来ないようになっている。だからそれは出来ない」と言われました。

「それではお願いしたいのですが、自分の家に5人の兄弟がいます。こんな苦しい所に来ることがないようにラザロをやつて警告して戴きたい」と申しますと、「いや、やるには及ばない、モーセと預言者がある（伝道者があり、聖書があるという事）、それに聞いたらよろしい」

「いや、死人の中から誰かが行つたらびっくりして、本当にそんな所があるのですか、そんなに苦しいのだったら、私達はそこに行きたくない、と言って悔い改めるでしょ」と言うと、「いや、教会に聞かない人は、たとえ死人の中から甦えた人があつても聞きはしない。大体黄泉から来たという事を信じない。どこから来たのか、どこかの死に損いだらうと言って聞かないだらうから、行つても駄目です」と、とうとう断られました。即ち神様の前に、決定された事は、これを覆す事が出来なかつたのです。

この世の裁判では、一旦、刑が確定しても新しい証拠が出て来たりすると再審が行われ、古い事ははっきり分らない、疑わしきは罰せずと無罪になつたりします。しかし神様の前で決定された事は、たとえ何がどうあつても変える事が出来ない。これは恐ろしい事であります。

どんなに苦しくても、どんなに熱くても、どんなに焼けただれても、そ

の中から抜け出す事が出来ない。私達の体は火の中に入ると焼けて灰になります。この金持が火の中で苦しみもだえているのは、灰にならないのです。燃えても燃えても尽きてしまわない。いつまでも熱くて苦しいと書いてあります。それは架空の事ではなくて、神様を否定して生きる生涯はその通りであります。

私も神様を信じない時にはそうでありました。それは救う道がないのです。神様が与えて下さる救いの道を自分で拒む――穴に落ちた人が、登ってきなさいと縄を下ろしてもらっても、「いやです」と言えば、上がる道はありません。そのまま滅びてしまいます――そのようにイエス・キリストを否定する事は、神様の救いを拒んで滅びを決定される事でありま

◆「また人の子に対して言い逆らう者は、ゆるされるであろう。しかし、聖霊に対して言い逆らう者は、この世でも、きたる世でも、ゆるされることはない」（マタイ12:32）、神様の前に他の事は全部許されるというのです。たとえ人の子に対して言い逆らう、「イエス様なんかなんだ」と言っても、あとから御免なさいと悔い改めれば許される。

しかし神様がイエス・キリストという名を通して救って下さる、「私を仰ぎ望め、そうすれば救われる」とおっしゃるお言葉を、「いや、そんな事はない。そうでなくてもいい。自分が一生懸命に真面目な生活をしたら、行き付く所は同じ」（よく言います、「分け登る麓の道は多けれど、同じ高峯の月を見るかな」と）「どんな信仰でもいいではないか。たとえ信仰しなくても自分が真面目に修養したら、立派な人間になるではないか」と言う。

するとそれは、「聖霊に逆らう者は、この世でもきたるべき世でも、許される事はない」とある通り、決して救われる道がないと言うのです。昔の潜水夫はホースを持って潜りました。身内の人が舟の上でポンプをつくだそうです。命に拘っていますから、一生懸命につきます。

しかし下の人が自分でホースを切ったら忽ち窒息死してしまう、当り前です。それは自分の責任であって、上の人は一生懸命にポンプをついていても途中でぶくぶくともれてしまう。神様を否定し、神様の救いを、「そんなものはいりません。そうでなくてもいいでしょう」と言うのは丁度そのようなものではないかと思えます。

また、きこりが枝にぶら下って、その綱に腰掛けて幹を切る――切れた時には自分も落ちて死んでしまう。丁度それと同じように、神様が救うとおっしゃる事を拒絶して、「そうでなくても」とやりますならば、どうしようもないのです。

昨日ですか、エレベーターの中で急に産気付いた婦人がいました。悪いことにエレベーターが故障して、ドアが開かないで途中で止まってしまった。救急隊が行って、緊急にエレベーターを動かして扉を開けようと思ったが、どうしても開かない。仕方がないので、緊急電話で外から産科のお医者さんが指示して無事にお産が済んだという話を聞きました。これは電話線一本でお母さんも赤ちゃんも助かった訳です。

神様の前の一本の筋、この道によって救うとおっしゃる。他の事はどんなに譲っても、許されるべき道を自分で千切ってしまったら、これはどうする事も出来ません。「この世でも、きたるべき世でも許される事がない」とおっしゃるのです。

私は今、神様の前に非常におごそかな裁きを受けるような気持ちが致します。「地の果なるもろもろの人よ、私を仰ぎ望め、そうすれば救われる」と神様は今日も手を伸べて下さいました。私の内には敵対して歩く分子が沢山あります。「いや、そんなに十字架十字架言わなくても、昨日、1昨日ずっと教会に来て恵まれていますから、私はこれで今日も救われている。これでいいでしょう」とちょっと思えます。「じゃあ今、どうするのか」「昨日の恵みで今日も行きましょう」しかしそれは切られてしまいます。それでは神様と命が通じません。

私は今日この1回の集会に出させて戴くについても、イエス・キリストの十字架に敵対して歩いている事はないかと警戒されます。「お前はどうか、私はこの道筋に従って働く。私の他に神はない。地の果なるもろもろの人とは、お前だ。私を仰ぎ望め、そうすれば救われる。集会の主は私である。私がイエス・キリストという道筋に従って恵むと言っているのだ、お前はどうか。十字架に敵対していないか」と探られます。

ちよっとでも、昨日の続きで行ける、あるいはあの時に恵まれてカードに書いてある。あれでもうよろしいと思っていると、神様は「駄目だ」と御破算にされますから、私はもう一度、「はい、申し訳ありません」と悔い改めます。私の内には何もありません。もし今迄に積み蓄えたものがあったら、それはそれで、感謝して受けますが、神様が救うとおっしゃる時には、時々刻々この道に立つしかない。イエス・キリストの十字架の血によって、罪が許され神様に繋がれ、恵みを注がれる。私はこうしてもう一度新しく、み前に近付けて戴いた訳であります。

◆「人はわたしについて言う、『正義と力とは主にのみある』と。人々は主にきたり、主にむかって怒る者は皆恥を受ける」(イザヤ45:24)、ここを読んでいて、ちょっと恐ろしいように思いました。「人々は主にきたり」と、皆神様の所にまいります。すると神様は選び分けられる訳です。「主にむかって怒る者は皆恥を受ける」「はい、あなたはこちら」と分けられる。

「イスラエルの子孫は皆主によって勝ち誇ることができる」マタイ24章を見ると、神様が裁きの日にすべての人を見前に集められて、そこで羊飼が群の中から、羊と山羊を分ける。狭い通路の先に二つの道があってダンパーのようなものがあって、どちらかに開いて道を作る訳です。羊、羊、山羊、山羊、羊、と開く訳です。するときれいに選別されてしまう。そのように神様が分けられる。「人々は主にきたり、主に向かって怒る者は皆恥を受ける」私達はどちらに行くのでしょうか。

「主に向かって怒る者は皆恥を受ける」これは永遠の滅びであります。しかし神様は、「私を仰ぎ望め、そうすれば救われる」とおっしゃる。ですから、「イエス・キリストの十字架の道を通して私を救って下さる。有難うございます」と従ってまいりますならば、勝ち誇る事が出来る。これは大変な違いであります。

しかもそれが永遠に決定してしまう。今、私は毎日に、こうして立たして戴く、確かにそうなのですが、やがてそれが永遠の決定に繋がってまいります。最後の幕が下りて、「はい、これまで」と言われたその時に、そこで決定です。「神様、御免なさい、ちょっと悔い改めてから」と言っても間に合ないかも知れない。

ある人は、「神様、私は教会の隣に住んで、いつもあなたの所へ行っていたではありませんか」と言っても、「はっきり言うが、私はあなたを知らない」と言って戸が閉められると書いてあります。

ですから私は神様の前に非常におごそかな気がします。その時にはちゃんと用意して行こうと言っている、いつ閉ざされるかわからない。いつ「これ迄」となるかわからない。そういう時に置かれている事を思いますと、「主に向かって怒る者は皆恥を受ける」――一刻々々が神様の前におごそかな裁きの時であると思いました。

十字架でなくてもと言う傾向、あるいは十字架に敵する傾向、私達の内にそういう分子がありますから、今日神様は警戒して、決してそういう事にならないようにとおっしゃる。いつでも新しく、主を仰ぎ望み、救われ、やがてそれが永遠の決定に繋がって行く。どんなにもがいても、叫んでも変えられない決定が下されるのであります。

集会の度におごそかな思いがしますし、人の為に祈る時にもそう思います。「神様どうぞ憐れんで下さい」と祈ります。ぱっと神様がどこかで切られたら間に合わないかも知れない。ですから、「どうぞ神様、もう少し待って下さい、もう少し」と、あのぶどう園の農夫が執り成すような気持

になる時があります。

ひとごとでなくて私自身がそうして、保たれて、多くの聖徒によって祈られて来た者であります。決して人の事を、「あの人は駄目です。あの人を裁いて下さい」とは言えません。あくまでも忍耐をもって執り成していく事が私に与えられた使命であると思います。今日は逆の面から教えられました。そういう事にならないで、常に神様の前に喜ばれる者となり、神様によって勝ち誇る者とならして戴きたいと思います。

◆初詣客が8300万人だったと言うニュースがありました。明治神宮に四百万人近く、次は川崎大師に何百万、以下成田不動尊、住吉大社、伏見稲荷、熱田神宮、鶴ヶ丘八幡宮でも二百万人――それを聞いて何か寒々とした気持がしたのですが、皆違うのです。昔の人を祭ったり、狐を祭ったり、そういう所へ大挙して行っている。

その人達は具体的に十字架に敵している、その果は滅びしかありません。しかしまた、一面で言うと、知らない人ですから今から、神様が心を変えて下さる事があるかも知れない。しかしパウロが最も痛んだのは同族の中から、神様に熱心な者の中からイエス・キリストでなくてもいいと、否定する人達です。これが一番危険であります。

ですから私は自分自身の心を絶えず神様の前に披歴して、「私を仰ぎ望め、そうすれば救われる」とおっしゃる神様の前にいつでも御破算にして戴いて、神様の救いを生き生きと繋いで戴く者でありたいと思います。

聖会もだんだんと残り少なくなってまいります。が、「地の果なるもろもろの人よ、私を仰ぎ望め、そうすれば救われる」このお方をいつでも仰いで行きたいと思ひます。あの素晴らしい聖徒パウロでさえも、自分自身に言い聞かせるように、「ダビデの子孫として生れ、死人の中から甦ったイエス・キリストをいつも思っていなさい」そう言っています。今日も、「私を仰ぎ望め」と手を開いていらっしゃる方を仰いでいきたいと思ひます。お祈り。

(1987.1.6. 戸畑教会新年聖会.8)

第9章(6日午後7時)

幸いな告白

	ページ
私を誰と言うか	108
ものの見方は人の生き方	109
義と愛の神	111
自分が答えなければ	111
無責任は出来ない	112
世の事は調べれば分かるが	113
聖霊もまた証人	114
従うと分かる	115
受け入れた者と同じ待遇を	116
イエス様の受けた万物を	117
弟子の足を洗われたイエス	118
人の為に何が出来るか	119
ああ心豊か!	120

「イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、『人々は人の子をだれと言っているか』彼らは言った、『ある人々はパプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言ひ、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります』」(マタイ16:13/14)

【私を誰と言うか】

◆これはイエス様が弟子達と共に各地をお回りになっている中で、ピリポ・カイザリヤの地方（パレスチナの北部、ヘルモン山の近く）に行かれた時のことです。弟子達に向かって、「私の事を人がどう見ているだろうか」とお尋ねになりました。

日本人は外国人の評判を気にして、自分がどう見られているかと、いつも考えるそうです。イエス様は人の評判を気にして、どうだろうと言われた訳ではありません。それが信仰の根幹に拘る事でしたから問われた訳です。

そこで弟子達は、「先生、私はどこどこを回ってみたところが、ある人は先生の事をパプテスマのヨハネの再来ではないかと言っています」――これはしばらく前に殺された預言者であります。すぐあとにイエス様が現れたものですから――ヨハネが甦ったのではないだろうか、と言っている訳です。

「エリヤだと言っている人もあります」エリヤは旧約聖書に登場する大預言者であります。大変めざましい働きをしました(列王上17/19章)。「また、他の人は、エレミヤではないだろうかと言っています」エレミヤもユダ王国の末期に活躍した預言者であります。「その他の預言者ではないだろうかと言っている人もあります」いわゆる小預言書(旧約聖書の終りに割合い短い書物が並んでいます)の著者ではないかと言っている訳です。イエス様は黙って聞いていらっしやいました。

「そうか、それではあなた方は、私を一体誰と思っているのか」と問掛けられました。それで皆はぐっと詰まったのではないかと思います。すっ

と書いてありますが、私は暫く沈黙しただろうと思います。

彼等は困りました。他人の事は気安く言っていたが、自分が真直ぐに問掛けられると、さて、そう簡単には答えられません。口で言うだけならやさしい事ですが、そうではない。告白するという事は自分がそういう信仰を持って、そういう生き方をしますと言う事です。ペテロはずっと考えたに違いない。そして今の自分はどうか、今後自分はどうして行こうか、決断が出来ましたから、「はい、先生、あなたこそ、生ける神の子キリストです」と告白をしました。

するとイエス様はお喜びになりまして、「あなたはさいわいである。あなたにこの事が分ったのは自分で考え、あるいは人に聞いて分ったのではなく、天にいます私の父があらわして下さったのである」とおっしゃいました。そして、「その信仰は岩である」ペテロは岩という意味ですが、ペテロ個人ではなくて、「その信仰こそは教会の土台である」と言われました。「この岩の上に私の教会を建てよう。そしてあなたに天国の鍵を授けよう」とおっしゃいました。

◆今晚私達がこの記事を第3者として冷やかに見ている事は許されません。と言うのは私達に向っても、同じように問掛けられているからであります。物の見方は、ある物をこちらから見たら丸く見える、こちらから見ると三角形に見えるという観察もありますが、しかし何か物事を見るという事は、その人の生き方を現すことになる訳です。どのように生きて行こうかが決まります。

今年の年賀状の中に変ったものがありました。ある友達からのものですが、小さな活字がぎっしり詰まっているのです。何かと思って見ると、「今年私が読んだ本」と書いてあるのです。それを見ると、なる程、この人はこんな事を考えている、こんな人だったのかという事が分ります。

私もある方に、私が持っている本、あるいは関心を持っている本はこんなものと、150冊位リストしたものを上げた事があります。少し古い

ものですが、「私はこういう事に関心を持って、こういう事をして来ました。こういう人達と色々繋がりを持っています」という事です。

私は、新聞は穴だらけにしよう、本は大いに汚そうという主義です。と言うのは最初に本を読んで、ある部分で感動したとします。その次に読む時にまた、同じ事を考えるのは損ですから――効率ばかりが良い訳ではありませんが――そこに目立つように印をつける。特に重要なものは表紙の次の白い所に、最低限ページだけは書くのです。概要なり感想なりを書き添えれば一番いいのですが、少なくともページだけは書いておく。

そうすると同じ本を次の機会に読む時は印の付いている所だけ読む。あるいは表紙に書いた手掛りの部分を見直す。暫くたって見ると、あれもこれもたいした事はない、一冊の本に、一つか二つしか残らないという事もあります。しかしそれでも情報の値打ちは貴重なものであると思います。

更に大事な事はB6版の画用紙にカード化して、誰々のこういう本を見たら、こういう事と、こういう事が書いてあったと記入にておく。そんなカードが沢山あります。時々は繰って、没になったものは別の束にします。そういうものによって、取材をしたり、整理をしたりする訳であります。

私が新聞を切り抜く時には、一定の視点がある訳です。たとえば、物の見方とか、聖書と科学の関係とか、それからOA関係（オフィスオートメーション）あるいは将来の通信とか、種々の新製品情報。あるいは社説や天声人語、文化欄、書評欄で目立つようなものがあると切り抜きます。新聞・雑誌を見る時は常に赤鉛筆を持っています。家内は私がどういう目で見ているかが大体分るようです。そういうものに注目しているという事は私がどういう生き方をして来たか、またしようとしているのかを現していると思います。

人の子とはイエス・キリストですが、その方をどう見るかというのは、背が高いと思う、低いと思うという意味ではないのです。その人がイエス・キリストをどういう方と見ていたのか、あるいはその方に対して自分が

どう生きるかを、問われる訳です。ペテロは決断をして、「そうです。あなたは生ける神の子キリストです」と告白しました。

◆右側の標語に、「私は義なる神、救主」とありますが、途中で読点があるのは意味が深いのです。私は正しい神様で、間違っただけは絶対に許さない、間違っただけを「えいっ」と殺してしまう――これは、「義なる神」。ところが「救主」は、あくまでも私達を愛して、捨てる事が出来ない。罪は皆許してしまいたい――どうしても両立出来ません。

人間は頭が一つ、体が一つですから二つの事を同時には出来ません。片手で丸を描いて、片手で三角を描くと、大抵は変な事になってしまいます。そのように神様はお一人の方でいらっしゃる、「義なる神」が同時に「救主」である事は出来ません。全く相反する事ですから。ところがそれをどうしても両立させなければならないというので、神様はご自分のひとり子、イエス・キリストをこの地上におつかわしになって、私達の代りに十字架に掛けて、罪の無いものに罪を負わせて、私達の罪を許す事を定められました。それがイザヤ書45章に書いてある訳であります。

「地の果なるもろもろの人よ、私を仰ぎ望め、そうすれば救われる」イエス・キリストが十字架に掛かって黙々として死んで下された。ただ黙ってではなくて、「父よ彼らを許し給え、彼らはその為すところを知らざればなり」と、私達の為に執り成して下された。イエス・キリストなんか信じるものかと言って、十字架に付ける者の為に、執り成しをして下されたのであります。

◆シモン・ペテロはその事を告白しました。「あなたこそ、神様からつかわされた神の子でいらっしゃいます。私達の為に十字架に掛かって死んで下さる方でありました」と告白致しました。預言者の一人とは決して言わなかったのです。神様から来られた生ける神の子であります。義なる神、救主の呻くような知恵によって定められ、つかわされた方でいらっしゃいますと告白しました。

弟子達が取材したように、当時もイエス・キリストについて、色々な見方がありましたが、こんにちユダヤ教ではイエス様を田舎者のラビ（教師）の一人に過ぎないと見ます。あんな者は救主でも神の子でもない、人間であると言います。また、マホメット教ではマホメットより先に来た預言者であると見ます。そのあとマホメットが最後の預言者として来て、コーランを皆に与えマホメット教が始まったと言います。

イエス・キリストはお一人で、同じ方なのですが、見方が違うと全く違った宗教になってしまう。ですから私達に、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と告白するかどうか、今晚問掛けられています。これは自分で告白しなければならない事です。

何かのアンケートの答の中に、「分りません」というのが不思議でなりません。分らなければ分らないなりに、何か言い分があるだろうと思いますが、「分りません」と言うのは、自分の口で告白する事を放棄する事になります。

私達が聖書を読んで問掛けられても、「それはちょっと分りません。私はそんなに聖書を読んでいないし、お話を聞いた事もないから……」と答えるのでしょうか。聞いた事がなかったら無いように告白する、「聞いた事がないけれども私はそう信じたいです」「いや、それは違うと思います」とか、何か告白がある筈です。それを、自分の口で告白する事を求められている訳です。

聖書はすべて私達に向かってそうなのです。ここでも、「あなた方は何と言うか」と言われています。「あなたがた」と言う自分一人でない、皆と一緒にだから、そう責任をもって答えなくてもいいだろうと思うのですが、聖書に対しては、自分が責任をもって答えなければならない。

◆「すなわち、自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと思ふなら、あなたは救われる。なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからであ

【世の事は調べれば分かるが】

る」(ローマ10:9/10)、ここを読みますと無責任な態度は出来ません。「ことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、心にある」(8)だから私達が自分の口で、「イエスは主である」と告白する。イエス様は神の子でいらっしゃる、私達の為に十字架に掛けて下さった、「信じます」と告白する。人が言ったからではない、あの人がそれらしい事を言っているから、私も信じた事にしておこう、そうではないのです。自分の事は自分で決め、自分の心で信じる——「イエスは十字架に掛けられたけれども、聖書に書いてある通り甦えられた」そう信じるならば、私達は救われると書いてあります。

今晚私は神様から問われていますから、自分の口で告白したいと思えます。自分は今までそう信じられなかったかも知れない。しかし、「今晚お前はどうするのか、今迄はともかく、今からどうしたいのか」と問掛けられておりますから、私は、「はい、私はあなたこそ生ける神の子キリストです」と告白して、そのように生きたいと思えます。

◆マタイ16:17、イエス様は大変お喜びになりました。そして、「あなたはさいわいな人である。あなたにこの事が分ったのは、自分で熱心に勉強したから、色々調べて考えてみたからではなくて、天にいます私の父が現されたからである」と言われました。

人間の事なら人間が調べれば分ります。色々な参考書がありますから調べると大抵の事は出て来ます。私も物を引く為の本を色々持っています。情報源という厚い本があります。何かを調べたい時、まずどこへ尋ねたら手掛りがつかめるかという本があります。あるいは科学の本の本とか、何とか辞典、文献探索の手掛りを掴む本とか、そういうものを調べていくと大抵の事が分ります。

誰々はどういう分野の人でどういう本を書いているか、ずらりと書いてある、それを調べていくとその次、その次と出て来ます。百科辞典に出ている人もいれば、そうでない人もいますが、とにかく何か手掛りがつかめ

ます。

人間の事ならそうして調べられますが、「私の他に神はない」「私は義なる神、救主である」とおっしゃる神様の事ですから、人間の知恵と力をもって、分る訳がありません。この事をあらわしたのは、天にいます私の父である神様が奥義をあなたに開かれたのですとおっしゃいました。

私も神様の事を開いて戴きたい。何とかしてこういう告白をしたいと思いますが、開いて戴くにはどうしたらよいか、何か秘密の方法があるのかと言うと、それが他には無い訳です。

【聖霊もまた証人】

◆使徒行伝5:29/32、「神がご自身に従う者に賜った聖霊もまた、その証人である」(32)、神様は私達にはっきり証言を下さる。どういう事をして下さるのかというと、ご自身に従う者に対して聖霊を与えられた。聖霊というところある人は火の玉のような、幽霊のようなものと思いますが、そうではありません。神様ご自身であり、その非常に熱いお心と言いますか、お気持ちの働きと言いますか、それをもって教えて下さるのです。

人間同士でも気の合う間柄で、何とかしてこれを伝えたいと思えば、言葉は必ずしも必要でない。合図でもしぐさでも、何かの声でもいい、あるいは野球の監督さんのようなサインをするか、何か方法があります。

動物と動物が意思を通じているのを見ていますと、お互同士で、キャンキャンと言ったり、キキと言ったりしながら、色々なしぐさをしている。それで相当複雑な意思表示をし、多彩な行動をします。そのものずばり、ぱっと行動する、本能的と言えば本能的ですが、そういうのを見ると、よく意思が通じているのが分ります。気持ちがあるから通じている訳です。

神様は、私達が従ってまいりますと、喜んでご自分を開いて下さるのですが、どんな方法をもってでもご自分の熱い心を、私達に注がれる。受取る方も一生懸命に受け取ろうと思うから分るのです。聖霊の働きを口で説明することは出来ません。

ご機嫌のいい人と悪い人は直ぐに分るでしょう。この人は私にあまり良

い気持を持っていない人だ、この人は好意を持ってきている人だ、と良く分ります。説明はいりませんし、しようと思っても出来ません。それと同じです。神様が私達を喜んで、教えて下さるならば、どんな方法をもつても私達に悟りを与えて下さる。

昔の技術者、名人・師匠と言われる人は弟子を教育するのに、言葉は用いない、言っても分らないのです。「こうなさい」「はい」と言ったのでは駄目なのです。自分が悟らなければならぬ。作品がまずいと思ったら、ぱちんと手を叩いたり、ぼんと突返したりする。仕事はさせないで水汲みや掃除や子守りばかりさせる。いつになったら教えてくれるかと思っているうちに、兄弟子の仕事をちょっと見ては真似をする訳です。叩かれたり、叱られたり、そんな事ばかりをしているうちに、言葉で言う事の出来ない悟りが出来る。「ああ、ここだな」という訳です。師匠も教えたいが、教えられない。弟子の方も貰いたい、貰えない。しかし互の気持が通じますと、ある時「分った」という事になる。すると師匠もびっくりするような事をやり出すのです。「じゃあ、お前ひとつこの仕事をやって見る」という事になります。

神様は人間とは違いますが、ご自分の深い御心を、何とかして教えようとして、私達と通じて下さる時に、ぴかっと悟りがやって来ます。それが、「従う者に賜った聖霊もその証人である」と聖霊が働いて下さるので分ったという事がやって来る訳です。

◆ペテロが血肉によらず、神様から開いて戴いたのは、ペテロのうちにそういう従う態度——問われてぐとつまつたけれども、いや、従いますと決断を付けましたから、神様が喜ばれ、彼のうちに奥義を開かれた訳であります。

「従うと分る」これが信仰であります。「分ったら従おう」こんにちの教育は皆そうでありまして、分ったら従おうとするが、分らない事は無理だと思ふ。しかし、誰も最初から分っている人はありません。皆分らない

【従うと分かる】

ところから分ってくる訳であります。神様は私達に対して、「ただ、従いなさい」「恐れるな、ただ信じなさい」と求められます。「キリスト教は少しはハイカラな事を言うかと思ったら、ただ、信じなさいなんて馬鹿みたいではないか」ある方はそう考えるでしょう。昔もそういう態度の人がありました。

しかし神様は人間の知恵によらない——人間が馬鹿げていると思うような方法をもって、信じる者を救って下さる。信ずる者に助けを与え、証明をして、その人に正しい事を教えられました。信仰は分ったら従おうでは、いつまでも分らない。従ったら分る。従おうとしたら、従えるのです。そうしたら分るのであります。それが奥義であります。

◆マタイ10:40/42、ここには受入れた人と同じような待遇を受けるということが書いてあります。私は時々、OA展示会の招待状を貰います。「先生、私が行きますきから一緒に行きましょう」と車に乗せて行ってくれるのです。

受付けに招待状を出しますと、「いらっしゃいませ。G店のお客様ですか、どうぞ、どうぞ」という訳です。「これは食券です、どうぞお食事を」と言う。食事を頂いた上に、「ありがとうございます」とお礼を言われる。更に紹介してくれた店主が来て、色々と御馳走をしてくれて、帰りには車で送ってくれる。

私が紹介なしに行っても、「あなた、誰ですか」と言われるのでしょが、ちゃんと招待状を持って、G店様という名札を付けて行くと、「よくいらっしゃいました」と迎えられる。紹介者と同じ扱いを受ける訳であります。

だからここに書いてあります。「この人は預言者だから」と言って、その人を受け入れますと、預言者が受ける報いを自分が受ける。また、義人の名の故に、神様に従う方を受入れますと、神様がその義人に報いられるところを私も受けるという事であります。

【受け入れた者と同じ待遇を】

それでイエス・キリストの弟子であるからというので、小さな小さな一人の弟子に、水一杯でも与えたならば、その報いは必ずあると言われるのです。ほんのちょっと、受入れたとも言えないようなことであっても、決して報いに漏れないとおっしゃる。

ペテロは誰を受け入れたのでしょうか。それはイエス・キリストを神の子として受け入れました。告白したという事は、発言しただけでなくて、決断して受け入れた訳です。イエス・キリストを自分の救主として今後生活しますという事を告白して受入れたのですから、神の子の報い——神様がご自分の子供になさった事——を、ペテロにもなさいました。どういう事がおこなわれたのでしょうか。

◆ヨハネ3:34/36、父なる神様はご自分の子供に何を与えられたか、ここにはっきり書いてあります。「父は御子を愛して、万物をその手にお与えになった」これが子供の受けた報いであります。ペテロは神の子イエス・キリストを受け入れましたから、父なる神様から愛されて、万物をその手に与えられた。確かにその通りになりました。

ペテロが偉くなって、どこかの皇帝になった訳ではない。彼は信仰によって神様の愛を受け、力を受け、信任を受けて、多くの魂を神様から託せられました。具体的に言うと、初代教会において、彼は立派な霊的指導者となり、大きな働きをしました。また、外国人にも伝道をしました。ある時どこかに行ったというだけでなく、その働きの実はずっと尾を引いて、私達の内にも流れて来ています。私達もペテロが受けた信仰の報いに預かっているとと言えるでしょう。

今度は私達が神の子を受け、「あなたは救主イエス・キリストです」と受け入れてまいりますと、同じ報いを受ける訳であります。受け入れたものの報いを受けるという約束ですから、「愛して万物をその手にお与えになる」——何と驚いた事でしょうか。万物の創造者である方が、愛して下さって、私達にすべての物を与えて下さる。与えるとは、勝手に殺したり

切ったりする意味ではなく、万物にその所を得させ、それぞれが生きて行く事が出来るように、神様の前に手を挙げて祈ります。

創世記1章を見ますと、人間が造られた目的はそうだったのです。神様に代ってこの地上を治めさせる為に、神様の形に尊く造ったとおっしゃる。その通りに、神様はここで約束をしていらっしゃる。事実、使徒行伝に登場する聖徒達は皆そういう生涯を送りました。

【弟子の足を洗われたイエス】

◆イエス様はご自分が神様から愛されて、万物をその手に与えられたとき、どういう事をなされたか。ヨハネ13:1から、これは最後の晩餐であります。この後にすぐイエス様は捕えられ十字架につけられるのですが、その晩に弟子達と一緒に食事をなさいました。その時にはイエス様は自分の身分を知っておられました。「イエスは、父がすべてのものを自分の手にお与えになったこと、また、自分は神から出てきて、神にかえろうとしていることを思い」(3)、自分は神様からつかわされてこの地上に来た、そして神に帰ろうとしている。明日は殺される、しかしそれは自分の使命を果たして父のもとに帰るのである、そう自覚されました。世の人は地から出て地獄に落ちていく、イエス様は反対であります。神から出て来て神に帰ろうとしている自分の身分をはっきり知っておられました。

それで立ち上がって、上着を脱がれると、手拭を腰に付けて、たらいに水を入れて、弟子達の足を順番に洗い、手拭で拭き始められた。びっくりしてシモン・ペテロが、「先生何故私の足を洗うのですか」と聞きました。イエス様は、「今は分らないが、あとで分るようになる」「私の足を洗うなんて、勿体ないから洗わないで下さい」「洗わなかったらお前と関係が無くなる」「それでは足だけでなく手も頭も洗って下さい」「すでに体を洗った者は足だけで宜しい」と言われました。こうして次々に洗われて、言われました。「お前達の先生と言われる私が、あなた方の足を洗ったからには、あなた方も互いに足を洗い合うべきである」とお命じになりました。

イエス様が、父がすべての物を自分の手にお与えになった事を悟った時に、先生である事を忘れて弟子達の足を洗われました。私達がお互いの足を洗う事はなかなか出来ない事であります。自分が儲けになれば、少し何かしてやって、見返りに何かをして貰おうという事は出来るかも知れません。あるいは自分が人から誉められたい、おれはこんな事をしたと言って自慢する為には、何かするかも知れませんが、全く人に仕えて、人の足を洗う事はなかなか出来ません。

しかしイエス様は父なる神様から愛されて、万物を自分の手に与えられた事を自覚された時に、人に出来ない事をなさいました。私達が、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と告白する事によって、神の子の報いを受け、神様から愛を満たされ、すべてのものを自分の手に託せられた事を知りますと、最早人を押し退けて偉くなろうとする必要はありません。イエス様は、「偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、かしらになりたいと思う者は、僕となりなさい。私は多くの人に仕える為、命を与える為に来たのだ」とおっしゃいました。人間が努力してそうなろうと思ったら大変な事ですが、神様の愛に満たされ、神様からすべてのものを託せられますと、イエス様が為さったように出来る訳であります。

◆マタイ16:15/16、今晚私は、問掛けられましたから、神様の前で避けたり、答えられませんとは言いたくないのです。言わせて戴きたい。今迄、そうでなかったにしても、今ここからそうしたい。「私の他に神は無い」とおっしゃる方が、イエス・キリストを与えて私達を救うとおっしゃる、これ以外に道はないのですから、私は信じなければなりません。信じたいと思います。その為に、「従う者に賜う聖霊」が証人となって下さる。私は、「はい」と従いたいと思います。そして助けて戴いて、イエス様と同じように神様の愛を受け、万物をその手に与えられる、驚くべき身分にして戴くならば、私の生涯は変わるなどと言っても、変わってしまいます。自分の事を考えるよりも、人の為にどうする事が出来るだろうかと考えるように

【人の為に何が出来るか】

なりました。

ある教会で、新しい牧師先生が来られて、現状を見ると大変萎んでいる。そこで一つ提案されたそうです。「皆さん、ひとつ提案しますが、今からは自分の事だけを考えるのではなくて、相手の人の為に何が出来るだろうかという事を考えて行きましょう」と。それから皆が自分の事でなくて、この人の為に何が出来るだろうか、この人の為に……と始めたところ、大変活気のある教会になったという話を聞いた事があります。

私はかつては自分の事ばかりしか考えませんでした。先ず自分の事——自分が食べるのに精一杯で、人の事なんか考えておられますかと、そう言っていました。世の中は皆そうであります。ふたこと目には、お金がありませんからと言う。本当にそうかと思うとそれほどでもない、それはご挨拶らしい。

私もかつてはそんな人間でしたが、今は逆であります。この方の為に何が出来るだろうか、私はこの方に何をして上げられるだろうかと言うようになりました。この方が私に対して、驚くべきご愛を注いで、生かして下さい、神様の大事なものを託して下さい。そんなにされてどうして、自分のエゴばかりする事が出来るでしょうか。私は変えられてしまいました。人の為に生きることは、自分で努力しても決して出来ません。ただ、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と告白し、この方が救って下さる時に、始めて出来ます。

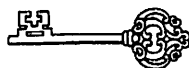
◆人の為に生きる人生は本当に強い豊かなものであります。

ある救われた方が、「ああ、わしは心豊かじゃ」と言われました。その言葉を今でも忘れません。神様から満たされますと心豊かです。寂しい寂しい、さもない事の多いこんな時代に、心豊かで、「受けるよりは与える方が幸である」という人生に変わってしまいます。本当に素晴らしい事です。

今晚もそういう生涯に入れようとして、問掛けていらっしゃる。「考えなおして御覧、これは本当に幸なのだよ」とイエス様は呼掛けていらっし

やいます。「あなたがたはわたしをだれと言うか」シモン・ペテロの所に自分の名前を入れたと思います。そして「あなたこそ生ける神の子キリストです」と告白して、神様から愛され、生かされ、溢れていく生涯に入らせて戴きたいと願っている者であります。お祈り。

(1987.1.6. 戸畑教会新年聖会.9)





第 10 章 (7 日午前 10 時)

この岩の上に

	ページ
自分が答えねばならない	124
教会とは何か?	125
黄泉の力も勝てない	126
小さな教会	128
それぞれの材料で建てる	128
土台は一つだが	130
天国の鍵を預かる	131
死にさえ勝つ	133
活ける神の完璧	134
自覚すれば迷わない	136
答えられる祈りをせよ	138
質問の重さ!	138

「イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、『人々は人の子をだれと言っているか』。彼らは言った、『ある人々はバプテスマのヨハネだ、と言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります』。そこでイエスは彼らに言われた、『それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか』。シモン・ペテロが答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです』」(マタイ16:13/16)

【自分が答えねばならない】

◆これは有名な弟子達の信仰告白であります。私達は自分で物を言う事がなかなか少ないと思います。何となく流されて人並にと言います。人がやっているようにやっていたら、別にそう肩を張って物を言う事もないと考える訳です。

元旦の分厚い新聞をぱらっと見たのですが、国民意識調査という特集がありました。それを見ますと、人並という意識が非常に強い。一方で人並にしていれば安心という事もあるし、足らないと思えば人並になりたいと要望する。そうしながらも、どうかしなければいけないが、どうにもならないと言う不安焦燥感を持っている。それが国民の平均的な意識でありました。

「赤信号、みんなで渡れば怖くない」と言うものがあります。国会議員が多勢で靖国神社に参拝に行く、そうすれば個人的に、「あの人はあんな事をした」と言われなくて済むからと、皆でぞろぞろと行く。他の事についても大なり小なりそういう考えを持っています。「私はこう思う。私は反対です」と言う事はなかなか言いません。

弟子達もそうだったのです。昔もそういう傾向があったのでしょう。イエス様が、「私の事を皆は何と言っているか」「この預言者、あの預言者の一人だと言っている人もあります」「それではお前達はと言うのか」と聞かれた時に、彼等は始めて自分で答えなければならぬと気付いた訳であります。

ですからペテロが、「あなたこそ生ける神の子キリストです」あなたは預言者ではない。神様のお言葉を聞いて、お取次をしたり、特別な働きをした預言者——それも尊いご用だったに違いありませんが——ではなく、「義なる神、救主」がご自分のひとり子をつかわして罪の為のいけにえとして、私達の為にほふって下さった、それによって私達を救うとお決めになった。その神の子、救主でいらっしやる。預言者ではなく、神様から出て来られた神の子であると彼は告白しました。

◆イエス様は大変お喜びになり、「シモン、あなたにこの事を現したのは、血肉ではない。神様の奥義を人間が知る事は出来ない。天にいます私の父の助けがなければ、これは決して分らない事である。あなたは幸である」とおっしゃいました。私達が同様の告白をしますと、神様は喜んで、信仰の土台を築いて下さるのであります。

ペテロ個人が岩であると言うのではない。カトリック教会ではペテロを土台とし、その権威を代々受け継ぐのがローマ法王であります。法王は短時間で変わりますから何百人の法王が出来ている訳です。しかしイエス様は個人の事をおっしゃっていないという事は、他の方を見ると分かります。その信仰の上に教会を建てるとおっしゃいました。

「そこで、私もあなたに言う。あなたはペテロ（岩）である。そして、私はこの岩の上に私の教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない」（マタイ16:18）、世間の人に教会と言えば、とんがり屋根に十字架が付いているようなものを考えるかも知れない——テレホン聖書の広告を頼みましたら、ああいうものをデザインして来ました。教会の建物があって、上に十字架が付いて、鐘が鳴りそうな櫓がある。ここの建物を見た事はないのですが、ある若い女性デザイナーの頭にそういうイメージが浮かんだらしい。

ここに書いてありますのは、「私はこの岩の上に私の教会を建てよう」目に見えない事ばかりです。大きな岩と言っても、別にかちっと叩いて割

れるような岩がある訳ではない。「あなたこそは生ける神の子キリストです」と言う、その岩――信仰の岩の上に神様がご自分の教会をお建てになる。「私の教会」とおっしゃる。神様の教会ですから人間が作る訳にはいきません。また、この文章の主語は、「わたし」です。「わたし」はこの岩の上に、「わたし」の教会を建てようとする。教会は土台も神様が据えて下さるし、教会自体も神様の教会ですし、お建てになるのも、神様です。ですから人間が全く手を出さず余地はありません。

この教会が建てられましたのも、やはりそうでありまして、神様が私達の岩となり、また、私達を体として、私達の主人公となって下さる。毎週礼拝をもち、そのほかに沢山の集会を持ちます。あるいは祈ります。そしてここで神様にお仕えする、それが教会であって、これは神様がお建てになったものであります。

【黄泉の力も勝てない】

◆「黄泉の力もそれに打ち勝つことはない」黄泉の力と言うと、この世の奥深くにあってすべての物を操っている力、ある時にはどっと噴出して来る。三原山の溶岩のように地の中にどろどろと熱いものがたぎっています。熱い物は次第に冷えてくるのが当然ですが、中では新しい熱が発生していると言われます。太平洋の海底は北西にずると動いて、日本列島に押し寄せて来ては、そこで沈み込む訳です。すると日本列島の縁は次第に引込まれて沈みますが、ある所まで行くと、ぼんと跳ね上がる、それが大地震です。また、ずずずと入って来る時に生ずる大きな摩擦熱が新しいエネルギー源になって、溶岩が出来、溜ってはぼんと噴火する。直接中からどろっと出て来るのではなくて、そういうエネルギーもあるそうです。

黄泉の力もそんなものでしょう。どういう構造でどういう所から出て来るか分かりませんが、この世の中の全ての物の一番底にあって、どろどろと溶けて噴出して来る。色々な所へぎしぎしと新しい火元が出来ては、ぼんと噴出して来る。そうすると大島の1万の住人が、さあ、大変だという訳で逃げなければなりません。人間生活の一切がっさいがストップしてしま

います。

私達の下にある黄泉の力は、形が見えるものではありませんが、実は人類の歴史を陰で動かし、神様に逆らう色々な物が出て来ています。今でもそうですが、エペソ2章に、「すべてのものを押し流している」と書いてあります。

エペソ1:15/23、神様はイエス・キリストをあらゆる名の上に置かれました。ご自分の右に引上げてすべての物の支配者としてお立てになりました。しかもその方を教会のかしらとしてお与えになった。かしらはイエス・キリストであり、教会はその体であるということです。目に見える建物という意味ではありません。私達が神様にお仕えしているその全体が、キリストの体であって、その中にすべての物をすべての物の中に満たしている方が満ち満ちている、と言うのですから何重になっているか分かりません。全ての物の内にすべての物を満たす、その根源である方が満ち満ちておられる。これは非常にはっきりしている。

会堂の入口に今透明カーテンをしています、外から風が吹き込みますと、下の方から冷たい風が入ってくるので、これはいかんという訳で、何かで押えたりします。こっちも負けないように暖房をきかせなければと言う訳です。神様はやっと満ちているのではなくて、溢れて満ち満ちている方です。すべての物のうちにすべての物を満たす方が、満ち満ちているのですから、これは少々の事ではありません。少し何かが入り込んで来たら負けそうになるようなものではありません。神様が満ち満ちていらっしゃるとは、あらゆる物が排除されてしまうということです。

天幕構造という建物があります。博覧会などに行くと、柱も無ければ梁も無い建物があります。要するに天幕で作った袋のような物です。かなり丈夫な材料で出来ていて、それほど大きくない送風機が回って、絶えず空気を吹き込んでいる。隙間や出入口からは外へ風が出ている訳です。中の圧力がほんの少し外より高くなっている。ところがこれがかなり丈夫なの

です。少々のものが落ちかかっても平気なのです。そういう建物があります。

それと同じように、教会には神様が満ち満ちて、黄泉の力を排除してしまう、黄泉の力はこれに勝つ事は出来ません。こんにち私達の内には色々な力が働いて来ます。エペソ6章を見ると、悪魔の策略が書いてあります。エペソ2章には空中の権を持つ君、私達を引きずって罪を犯させ、それによって死なせる力が働いてきますが、イエス様は私達をやっと守るのではなくて、私達の内には溢れて、黄泉の力の侵入を許されないのです。

【小さな教会】

◆マタイ16:18/19、私達一同の教会、あるいは世界中の教会（世界中の教会は一つであると言いますが）そういう教会もあるでしょう。しかし小さい方では、神様が私達個人を一つ一つの教会として建てあげて下さるのです。家庭における私達の立場、それはこの世における教会の立場と同じかも知れません。色々なご家庭がありますが、その中で個人々々を教会として、神様のものとして、神様が建てて下さるのです。

【それぞれの材料で建てる】

◆1 コリント3:10/15、ここには土台と建築の例えがあります。神様はご自分の教会をお建てになる。あるいは私達個人をお建てになるのですが、神様が建てて下さるなら、私は寝ていればよろしいか、そうではありません。神様は土台を据えて下さって、あとはそれぞれに建てさせて下さるのです。

しかもそれぞれの材料は、あるいは金、銀、宝石、木、草、藁と同じではないのです。私達を人形のようにして下さる訳ではない。それぞれ事情も違います。その中で私達は色々な材料で建てて行くのです。神様は差別されて、「お前は少し良さそうだから、金で建ててやろう」「お前は駄目だから藁で建てよう」と、そういう事をされる訳ではない。それは自分々々の責任です。

自分の口で、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と告白をします。「あなたこそ義なる神、救主であって、あなたのほかに神はない」「私は

あなたの前に、今こうして生かされています。今日もあなたが私を支えて、私を建てて下さいますから、有難うございます」と言って、聖書のお言葉に対して、純粹に堅く信頼してまいりますならば、その人は金かも知れません。しかし自分の口で物を言う事をしない、人並でよかろう、そう極端な過ぎた事はできない。そうしているうちに人間の考えが混じる――大部分が人間の考えで、ところどころに神様の御旨が入っているような事でしたら、これは薬かも知れない。

ダニエルの解いたネブカデネザルの夢の中の像は、頭は金、胸が銀、腹が銅、鉄――下の方には、粘土と鉄が混じっている所がある。そうすると山から大石が転がって来て、下の方からばらばらに崩れてしまったと書いてありました。

私達の材料が混じり物であると、どんなに土台がしっかりしていても、崩れてしまいます。崩れてしまうだけでなく、焼けてしまう。人間は皆神様の前に出て、人生の総括をされます。色々な企業活動をしたら、必ず年度末に、決算をするでしょう。

神様は人間以上にきちんとした方です。ご愛の方でいらっしゃいますが、また、義なる神ですから、曖昧な事はなさいません。必ず人は一度神様の前に立って裁きを受けなければならない。その時には、ある人は火で焼けてしまって恥を被る、「ああ、しまった」と言う訳です。しかしある人はそのまま残って、神様の前に誉を受けます。私達が土台を据えて戴いて、建てて行くのはこの時の為です。

教会の信仰というものがあるそうです。教会にも色々な行き方があると言うことは、やはり建築材料の選び方の問題でしょう。「私が私の教会を建てる」と言われるのに、人間が作って、誰かを招く。嫌な事を言う先生はお引き取り願う。そういう所があるそうです。神様がお建てになった神の教会（土台はイエス・キリスト）ではなくて、人間が土台となり人間が相談して万事を決めていく。これは神の教会とは言えません。土台がはっ

きりしなければ、たちまち崩れてしまうに違いない。

【土台は一つだが】

◆神様はあくまでも神様で、この土台以外のものを据える事は出来ません。「あなたこそ生ける神の子キリストです」と言う告白をしますと、神様がその上に建てさせて下さる。主人公はあちら様です。私を生かして私を支えて、建てさせて下さる――ベザレルは神様から選ばれて、神の幕屋を造りました。大変な働きです。出エジプト記25～40章にあります、実に細かい細工を致します。あるいは刺繍のような事をする、木工、金工、あらゆる事をします。神様が詳細な設計図をお与えになって、きちっとした工事を致しました。神様のご指示は詳細なものですが、ベザレルはただの職人ではありませんでした。自分の創意工夫アイデアを生かす余地が大きかった訳です。神様は、「あなたの知恵に従って、造りなさい」とおっしゃいました。だからベザレルは与えられた材料に従い、神様のご命令に従い、自分の創意工夫を凝らして、美しいものを造り上げました。それは彼でなければ出来ないものでした。

私達が神様の前に建てさせて戴く時、同じ教会の同じ信仰、同じ年限と言っても、皆それぞれが違うものを建てます。それが神様の御心であります。皆顔の形が違いますように、神様はその人でなければならぬものを建てさせて下さる。ですから私達は神様の前に、ただ気を付けてつまづかないよう、失敗しないようにと言う事ではなく、神様がどう呼び掛けていらっしゃるかに、気を付けねばなりません。

「あなたは私を誰と言うか」と呼び掛けていらっしゃる。「はい、あなたこそ生ける神の子キリストです。私の救主でいらっしゃる」と告白すると、神様は、「この道を通してお前を救う、これ以外にない。私の他に神はない」とおっしゃる。だから、「有難うございます。私もこの道に従って行かせて下さい。土台を据えて、建てさせて下さるから、有難うございます」そうすると、大丈夫であります。黄泉の力も勝つ事は出来ません。神様は権威を与えて、神の家を建てさせて下さる。誰もそれを止める事は

出来ません。

ノアの洪水の前、ノアと3人の息子とその奥さんの8人が選ばれて、箱船を造りました。これを誰も止める事は出来ませんでした。随分あざけられたに違いない。ノアのじいさんは気が違ったと言われたでしょう。しかしノアはその人達に対して余計な事は言わない。伝道はしたでしょう、しかしむきになって言い争いをしたとは、書いてありません。彼は黙々として建て上げて、神様によって箱船に入れられて、後の戸を閉められました。かんぬきを外から掛けられた訳です。こうして彼等は滅びから救われました。

私達が神様の前に建てさせて戴くのも、権威があります。誰もそれを止どめる事は出来ません。人に対しても私達は神様の権威を与えられると書いてあります。

◆マタイ16:19、天国の鍵を預かると言うのは大変な事です。鍵を預かるとは、保管しておくだけではない。それを開ける事も出来れば、閉める事も出来る。その中の全部を自由にする事が出来る、そういう権威です。

すべてのものの内にすべてのものを満たし、満ち満ちる方が、その全部を(丁度ご自分の御子にすべての物をお与えになったように)私達に預けて下さる。

私達がそれを閉めますと、誰も入れない。マタイ24章には、天国の最後の門が閉まりそうなところに、ある人がやって来て、「私達は一生懸命にあなたの所に行った事があるではないですか。教会の隣に住んでいて、いつもあなたの事を聞いていました。私達も入れて下さい」と言っても中から、「はっきり言うが、私はあなた方を知らない」と言われて、そのまま閉め出されてしまう。だからそういう事がないようにと書いてあります。あの鍵は、私達が閉める訳です。恐ろしい事です。するとその後に来た人は皆閉め出されてしまう。

ノアの時も神様がかんぬきを掛けられました。そのあとは大雨が降って

【天国の鍵を預かる】

水が増して、皆あぶあぶとやって、「ノアさん悔って御免なさい。やはりあなたが正解でした。私達も入れて下さい」と言ったでしょうが、一旦閉まったものは開けられませんでした。ことごとく滅びてしまったと書いてあります。

私達が天国の鍵を閉めるという事は、ある人々にとっては大変恐ろしいことであります。その権威を与えて下さる。あるいは開く事もそうでしょう。「あなたがイエス・キリストを信ずるなら、罪が許され天国に入れます」と言って、開けてあげると、その人は神様から受け入れられる。逆に、「あなたはそんな事をしていたら罪人だ。駄目です滅ぼされます」と言って、閉めてしまえば、神様の前に捨てられる。ですからこれは大変な権威であります。

ほかに何も理由はありません。立派なクリスチャンだから、何年信仰していたから、天国の鍵を預けようと言うのではないのです。どこかの宗教では色々な位があって、だんだん上がって行く。一生懸命に働んで勤めると、位が上がって小隊長、中隊長あるいは重役のようになって行くそうです。

神様はそんな事ではなくて、土台はたった一つ、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と告白して、そのように生きる者に対して神様が土台を据え、建て上げて、この権威を与えて下さる。全部委ねてしまう。実に驚いた事で、身が引き締まるようです。誰かの事で、私達がもう待てない、「神様やむを得ません」と言ったら、その人は死んでしまうかも知れない。そう言う権威を与えられている。ですからそう簡単に権威を振り回す事は出来ません。

私は罪を許す権威、地上で解く権威を用いさせて下さると思いました。あくまでも忍耐をして、解く事をします。「神様どうぞ待って戴きたい」あのぶどう園のいちぢくの為に執り成しをした農夫のように、「神様、今年肥料をやってみます。来年まで待って戴きたい」それは単なる例話ではなくて、私がそうすべきだと教えられました。人の事を裁いて、繋ぐので

はなく、解く権威を用いさせて下さる。大変な権威であります。そうして私を土台の上に建てて下さって、黄泉の力が打ち寄せる事の無いように守って下さる。怒濤のような中で、きちっと建てて下さる。

◆東京の江戸川の土木工事で何人かが死んだ事がありました。それは川の中に橋脚を立てる為にシートパイルを丸く打ち込んで、中の水を抜いて入り、その底で穴を掘っていた訳です――その時にシートパイルの壁が潰れたため、中にいた数人が死にました。

その話を聞いた時、私は黄泉の力を思いました。シートパイルの筒（と言っても直径が何メートルかあったでしょうが）の中で仕事をするのは、随分不安なものだと思います。ひょっと事故で壁が崩れたら、あっという間に潰れて沈んでしまう。

世に満ちている黄泉の力は、そのように押し寄せ、呑み尽くそうとして来る、私達の周囲だけが壁で囲まれているようなものではないだろうかと思えます。そんな中にあっても神様は私達が黄泉の力に決して呑み込まれないように守って下さる――「黄泉の力もそれに打ち勝つ事はない」黄泉の力を防ぐ事が出来るし、どんなに降り被って来ても、それを静める事がお出来になります。

嵐の湖上で弟子達が波に悩まされていた時、イエス様は一言で波風を静められました。弟子達は、「本当にあなたは神の子です」と驚いたことが書いてあります。神様はそれ以上の事をして、私達を守って下さる。船に波が打ち込んで来るよりも、シートパイルが倒れ掛って来るよりも、もっと困難な状況の中でも、神様は守る事がお出来になります。

ダニエルの時に3人の青年が異邦の王様の命令に従わず、金の像を拜まなかったのが、火の中に投げ込まれた事がありました。王様は大変怒って、「炉を7倍熱くせよ」と言って、白くなる程に炉を焼いて、彼等を投げ込ませたのですが、彼等は全く火の害を受けないどころか、火の匂いも付かなかったと書いてあります。担いで投げ込みに行った兵士達が却って火で

焼かれて死にました。神様はどんな事でもして、私達を黄泉の力から守ることがお出来になります。

水や火だけでなく、靈的にもそうだと思います。非常に恐ろしい状況に落ち込んでしまって、再び立つ事が出来ないような中からでも、なお神様は救って下さる。「イエス・キリストの血、すべての罪より、我等を清む」と生ける神の子キリストの血は、どんな汚れをも清めて余りがあるのです。私もしばしば体験して来ました。パウロもそうでした。自分は罪人のかしらである。しかしこんな者を救って下さった神様は、どんな人であっても、どんな中からでも救わずにはおかないと言っています。確かにその通りです。

黄泉の力——最大のものは死の恐れかも知れません。しかしそれにも神様は勝たせて下さいます。「あなたこそ生ける神の子キリストです」という告白をしまいますならば、私のすべての罪を彼の上に乗せて、私を完全に許して下さい。

死はどうして恐ろしいか、罪があるから人は死を恐れるのですが、罪が取り除かれると決して不安ではありません。私は死に急ぐ訳ではありませんが、この地上の生涯が終って、永遠の御国に帰り、休ませて戴くのは一番良い事です。ですから私がこの地上の生涯を終る時は悲しまないで、喜んで戴きたい、「ご苦労様でした、帰ってゆっくりお休みなさい。」そういう事で結構です。私にとって痛みでも、苦しみでも恐れでもありません。

◆今自分の生涯を振り返ってみる時に、何と神様は素晴らしい事をして下さっているかと思えます。完璧とはこういう事でしょう。土台を据えて、建てさせ、守って、権威を与えて、神様が満ち満ちて下さる、もう何も言う事はありません。

人間の生き方は人が考え出すものではなく、自分の身分を自覚する所から自然に出て来ると思ったのです。私は戸畑教会でご用をさせて戴くに当

たって、別に細かい事をとやかく言われなくても、神様の前に自分はどうしよう、どうさせて戴きたい、余所に無い新しい事でもかまわない。私はこうしてああしてと言うものが次々に出てきます。「先生は色々な事をされるから」と言われますが、別に人間が頭を捻って、考えている訳ではない。ひとりでに出て来る訳です。こうさせて下さい、というものが出てきます。それは人間の計画ではないので、やっている事がだんだんと変わって来るのです。

例えば、集会の概要集は今ああいう形になっていますが、最初からそうではなかったのです。最初はテレホンサービスのメッセージの原稿を作る時、どういう形に印刷をしようかと試みた訳です。すると福岡のある方が、「先生、こういう形にして、こうしてオフセット印刷に出すと、こういうものが出来ます。印刷をさせて下さい」と言われるので、「そうですか、ではお願いします」とやって見たところ、小さな本が出来ました。それではもう少し形を整えて、行数も揃えて、1行の字数ももう一字ぐらい増やしてと、色々工夫をしました。では同じ形式で、出席出来ない人の為に、集会の概要を作ったらどうか、最初は1ページに収まっていましたが、そのうちに2ページ3ページのもので出来て来ました。本もだんだん厚くなります。そこで聖句の索引を付けたり、目次を工夫したり、あいた所にはカットを入れたり、見出しを付けたり、色々な事をしているうちに、今のようになって来ました。

聖会は回数も多いし、流れがありますので、きちっとした本の形にしたらいいのではないかと思う。するとまた、福岡の方に相談します。A3判に4丁掛けと言ってA5のものを4枚貼るのですが、A3の台紙2枚に、1,4,5,8 / 2,3,6,7 と向かい合せに貼って行く。それを一枚の紙の両面に印刷して、4つに折って、縁を切るとページが1,2,3,4,5,6,7,8 ときれいに揃う訳です。それではそのベースになるA5判はどうして作るか。何字詰めにしたらいいのか。どのワープロのどの活字にしようか、小見出しは

縦書きでこうしたらよかろう、ああしたらよかろう——だんだんとそうして変ってまいります。

これは1例ですが、最初にあったものは、神様の「あなたこそ生ける神の子キリスト」「主はこの地をあなた方に賜った」とおっしゃるお言葉でした。そこからぐっと踏み出して、ちょっとやりかけますと、ではこうしなさい、ああしなさいと、色々の知恵や導きで、だんだん変っていきます全く神様の導きです。

出来上がった本を送りますと、もっと下さいと言う人もあります。そんなに喜んで下さるなら、今度はこれをあげましようと言う訳です。そうしますともう一段、きちっとした本の形にしたらどうだろうかと言う話が出て来て、では遺稿集のつもりで作ろう。私はいつでも皆さんとお別れするつもりですから、遺稿集も自分で作ったらよろしい——これが遺稿の第1、これが第2と言う訳です。ある日、ある時、そこまでおしまいとなるでしょう。これも次々に発展して、今のような形になりました。決して私が知恵を絞って考えた訳ではありません。

【自覚すれば迷わない】

◆神様はすべての事を完成して下さる方であって、私の中から自然にそれが出て来ました。ヘブル13章には、「恵みに感じ慎み敬い、神の御旨に適うところをもって仕えよ」と書いてあります。自分に神様が何をして下さったかが分りますと、どうしましようかと言わなくても、生き方がひとりで出て来るのです。一步出て行くと、次が開けて来る。本当に素晴らしい事です。その最初にあったものは神様の呼び掛けであります。

神様は素晴らしい教育者だと思います。また、質問とは重大なものだと思います。質問は質問だけではないのです。ただ答えたらいいでしょうと言うものではない。自分の決断を促され、それによって神様は喜んで助けて土台を築き、建て上げて、守って、權威を与えて下さる。全く完璧であります。

今朝もラジオで、宮崎県のある定時制高校の話をしていました。声の良

く似た二人の女の人が自己紹介をしている。それは親子で定時制高校のバレエ部の選手をしていると言うのです。かつてその女の子は都城でも大変有名な突っ張りだったとか、とうとう家出をして、名古屋で暴力団の運送会社に入って、トラックにのっていた。そうしているうちに自分が怖くなって、帰って来たそうです。その母は娘が出て行った時に、非常に悩んで、何とかして捨ててしまいたいと思うが、自分の子だから捨てる事は出来ない。私が見捨てたら、誰もこの子を見る人はいないと思うと、どうしても捨てられない。娘は抗争事件に巻込まれて、逃げ出して来る。その頃お母さんは捜索願いを出して迎えに行く、警察に行つて会うのですが、会ったら、ぶん殴つてやろう、がんがん言つてやろうと思うが、結局何も言えない。家に帰ってから二人で頑張ろうと、親子で定時制高校に行き、勉強しながら、スポーツクラブに入って、今は楽しくやっているという話でした。

お母さんは自分が親であるという自覚、事実ですから――親とはこうしなければ誰も教えた人はいないだろうと思います――そのお母さんは自分はこの子のたった一人の母親である、この子はかけがいのない私の子供、他の人は誰も責任を持ってくれないと分つた時に、その子供に対する様々な知恵がひとりでも出て来たのです。

神様は私をこんな身分に立てて下さる。別に私が偉いと言う事ではなくて、神様が私の土台となって、私を建てて下さる。個人である小さな教会を建てて下さる。また、神様の宮であるこの教会を建てて、満ち満ちて下さる。そして黄泉の力を防いで、神様の權威を与えて下さる。天国の鍵を開き、あるいは閉じる、世界中の人々に対して天国の門を開く事も閉じる事も出来る、そういう權威を与えて下さる。また、そういう使命を与えていらっしゃる。そんな身分である事を知りますと、神様の前にどうしなければならぬと考える事はいらなくなりました。最後に行きついた所は、「答えられる祈りをしなさい」と言うことでした。

◆私は昨年未、沢山のカードを縫めて大きな図を作りました。現在、壁

に貼っています。それを見ると、最後の結論は、「答えられる祈りをしなさい」です。

①イエス様と大恋愛をしながら、自発の信仰をもって従いなさい。

②答えられる祈りをしなさい。

と言うのが結論です。神様の前に祈るとき、「どうぞ、答えて下さい」と言うのではなくて、必ず答えられる祈りをする。私がそういう使命に立たされ、鍵を預けられたのですから、神様は私の祈りに答えて、鍵を開いて下さる。「神様、この時代が、あなたに帰る事が出来ますように。王の心も主の手の内とおっしゃるから、どうぞ心を変えて下さい。あなたは甚だ枯れた骨を、神様を敬う大群衆と変える事がお出来るようになる。心を全うする者があれば、その一人の為に働くとおっしゃるのですから、どうぞ答えて下さい。あなたは必ず答えて下さるから、有難うございます」と、ラザロを甦えさせた時に、イエス様が感謝をなされたように、私も感謝をして祈らせて戴く。これは私の中から、自然に溢れて出て来たものであります。

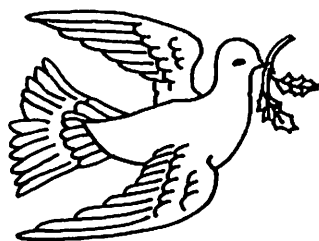
◆すべては偉大な教育者である神様の質問、「あなたは私を誰と言うか」から始まるのです。私は今日、「はい、あなたこそ生ける神の子キリストです」とお答えしたい。「だいぶ前に私はそう信じましたから、もうよろしいでしょう」とは言えません。神様はいつも呼び掛けていらっしゃいます。

今朝も神様の前に、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と告白しますと、神様はこの道に従って私を生かし、私の土台を据え、私を建てて下さる、丁度天幕構造の家が、風で満たされて、外に溢れて行くように、私を保って下さる。十字架の血の泉がいつも私を清めて下さるので、黄泉の力は押し寄せる事が出来ない。神様の前に権威をもって祈らせて戴く。こんな事をしてはいけない、あんな事をしてはいけないと、考える間も無いぐらい、神様の前には慎しみの生涯であります。

「『それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか』シモン・ペテロが

答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです』」(マタイ16 :15/16) 、今日この質問の重さを、もう一度かみしめたいと思いました。そしてこの方に喜ばれるような告白をしたい。実に素晴らしい教育者であり、導き手であり、完成者である方に委ねて、常に保って戴く者でありたいと思います。お祈り。 (1987.1.7. 戸畑教会新年聖会.10)





第 1 1 章 (7 日午後 2 時)

私について来たいと思うなら

	ページ
誉められたペテロ	1 4 2
サタンよ引き下がれ	1 4 2
自分の十字架を負う	1 4 3
御言葉に対する驚き	1 4 5
動き出せば楽	1 4 7
パラドックス	1 4 7
望みつつ信ずる	1 4 8
タバコをやめたい	1 5 1
生ける者の願いを飽かす	1 5 1
本心は分かる	1 5 2
放蕩息子の本心	1 5 3
足が浸ると同時に	1 5 3
実行が問題	1 5 5
命を見いだす	1 5 5

「それからイエスは弟子たちに言われた、『だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう……』」(マタイ16:24/25)

【誉められたペテロ】

◆今朝10時からのご集会では、「生ける神の子キリストです」と信仰告白する者の生き方、決断を喜び助けて、その上に自分の教会を建てるとおっしゃいました。それは私達自身の信仰を建て上げるという意味でもあります。私達がこの世にあって、世に溺れるのではなく、流されるのではなく、世にありながら勝つ――そのように守って下さる、そして天国の鍵を預かるという大変な権威を与えられる事を知りました。

主は最初の質問、「あなたは私を誰と言うか」によって、私達の決断を引出され、これを育て助け、土台を据え、建て上げ守って、権威を与えるところまで、実に完全な事をして下さいました。神様ほど素晴らしい教育者は無いと思います。たった一つの質問からこんな事をして下さったのです。

ペテロはその信仰を大変誉められました。これはペテロだけではありません。私達のモデルですから、神様は私達の告白を「よし」として、このように約束をして下さいました。

【サタンよ引き下がれ】

◆私達が出来上った人間だから、神様がされた訳ではありません。この午後はその事を学ぶ訳です。

ペテロはイエス様から叱られました。イエス様が、「私はエルサレムに行って、多くの人々から苦しみを受け、殺され、3日目に甦える」とお話になった時に、ペテロは、「先生、ちょっと、そんな事、とんでもないことでございます。そんな事はある筈がない、あつては困ります」と言って引き止めました。

人間同士ならそう言うのは当然かも知れませんが、イエス様は振り向いてペテロに向かい、「サタンよ引き下がれ」とおっしゃいました。叱るの

に、「サタンよ」とおっしゃったのは、他に例を知りません。少し前に誉められたと思ったら、極端にまで叱られました。「お前は私の邪魔をする者だ。神様の事を思わないで、人間の事を思っている」と言われました。ペテロはイエス様がそんな事になったらお気の毒だ。また、私達の先生が負けてほしくない、負けたら困ります。自分達が慕っている先生がいなくなったら、寂しいし困ります。どうして生きて行ったらいいのか分らない。そこでペテロは、「先生、とんでもない事です」と言って引止めたのです。しかしそれは人間から出た事でした。お気の毒、負けたくない、寂しい、困る――皆人間の事です。

すぐ前では神様が、ご自分の教会を建てるとおっしゃったのに、ペテロはたちまち人間中心な事を申しました。「黄泉の力もこれに勝つことはない」と言われましたが、黄泉は外からでなく中から出て来たのです。ペテロの気持の中から黄泉の力がマグマのように、どろどろとやって来ました。ですからイエス様はそれを激しく叱られて、そのあとで、「あなた方が、私について来たいと思うなら、これこれこういう事が大事なのだ」と教えられました。

イエス様について来るといふのは、どういう事か。マラソンで先頭の走者を、次の人が追い掛けるようなものではない、土台を据えて建てて、守って、権威を与えて下さるといふ神様の約束を成し遂げて戴くには、金、銀、宝石、木、草、薬と、各自が材料を選んでいく。つまりイエス様のお言葉の受け方、そして毎日の生活の仕方によく注意しなければならないのです。

◆マタイ16:24、「私について来たいなら、私が建てさせて上げよう。さあ、建てなさい」「はい、建てましょう、有難うございます」と行くのですが、それには

- ①自分を捨てる、
- ②十字架を負う、

③私に従う、
ことです。

自分という事を考えてはいけません。「私はこう思います。私はそんな事はないと思います。私はこうしたいです」というものを捨てなさいと言われるます。

自分を捨てて十字架を負う――これは誤解されやすい言葉です――例えば自分の子供が障害を持っていると、お母さんは、「これは私に負わされた十字架だと思って、一生この子の為に出来るだけの事をします」そういう事を言われますが自分の十字架とは、そういう意味ではないのです。

今年繰返し教えられましたように、神様は、「私は義なる神、救い主である」と宣言されました。その方がご自分の義と愛を両立させる為に、神の子イエス様をこの地上に送って、私達の為に救いの道を立てて下さった。ですからあの十字架は、私が一生懸命に苦勞して、どうかしなければならないものではない。神様の方が立てて、イエス様を十字架につけて、私達の罪を負わせて下さった。全部神様の方がして下さった事です。自分の十字架を負うと言っても、私が十字架にかかるのではない、たしかに私が掛かるところであったのに、私は降ろされて許され、そこへイエス様が掛けて下さったのですから、私の十字架は、3本のうち真中のものです。

極悪罪人の筆頭であったバラバが許されて、イエス様が掛けられたように、私の代りにイエス様が十字架に掛けて下さった事を、自分の肩に負うように、はっきりしておきなさい。そして私に従ってきなさいと言われるのです。

自分を捨てる、十字架を負う、イエス様に従う――は循環していると思います。

①自分を捨てる――神様が掲げて下さったのだから、自分の考えや自分の思いでなくて、神様のおっしゃる事に先ず従います。

②「私は義なる神、救主であって、私の他に神はない」私が、あなたを

救う為にイエス・キリストを十字架につけて、救いの道を開いた、だからこの事を容認しなさい。そうしたらあなたを、救いましょう——はい、と従うと私の十字架になります。

③この道に従って、このように完成して、こう守って、こんなふうには権威を与えて、各々の道を歩かせる——歩かせて下さるのですから、はいと従います。

◆私は神様の前に大いに驚きたいと思います。小さな子供は、何にでも驚きます。Kちゃんは大きな目を開いて、一生懸命に回りの人を見つめます。「この人は初めて見るが、どんな人だろうか」と見ます。生き生きとして、大人の顔とは大分違います。わっ—と気持が飛出して来るような感じがします。

ここに掲げられている御言葉は、ワープロで書いた変った字ですが、神様の御言葉は形でなく、紙でない、このお言葉を語られている神様ご自身ですから、その方を仰ぎ見て私は驚きたいと思いました。「はっと」驚くと、自分は何も無くなります。自分を捨ててしまう。自分の言い分は引込んでしまう。

今年1日から3日まで八幡で伝道隊の聖会がある事になっていました。私はその全部の司会を命じられていて、色々な備えをしていました。靈感賦の難しい歌詞は、解説をしなければならない。そこで国語辞典ばかりでなく、古語辞典も持って行こう、賛美歌指導の本——「指揮法」と「楽譜の読み方」「歌い方」と3つありますのでそれを持って行く。

発声の所を読んでいましたら、歌の準備に一番よい状態は、びっくりして、「はっと」思った状態だと書いてありました。

丁度そのように、神様の前に歩き出すのに一番良い状態は、「はっと」驚く——神様が、「見よ。私は義なる神、救主であって、私の他に神はない。私が言っているのは、お前を救うと言う事なのだ。この名により、この道筋によって、あなたの罪を許して私の物としよう、従うならばこう

なる」と約束して下さったのですから、私は、「はっと」驚き、息を飲んで、先ず従う。

「自分を捨て」と言うのは、そういうこと。「捨てなければ」「捨てなければ」といくら言っても、捨てられません、外からぱっと何か来ますと驚く。石が飛んで来ますと、人間は本能的に、ぱっと避けます。これは理屈ではありません。私は神様の前に今年、この御言葉によって驚きたい。

昔バラムという預言者は、「倒れ伏して目が開かれた」と言っています。パウロもそうでしょう。天からの光に打ち倒されて、「あなたはどなたですか」「お前が責めているイエスだ。とげのある鞭を蹴れば傷を負うだけである」目が見えない、何も分らない、手を引かれてダマスコに行きましたところ、アナニヤが来てお祈りをしてくれました。すると忽ち彼の目から鱗のような物が落ちて、目が見えるようになりました。

その時のパウロは、はっと驚いた状態ですから、何も言う事は出来ません。アナニヤに祈って貰って、立ってイエスの名を唱えてバプテスマを受けなさいと言われましたから――否定する事は出来ません。「イエス・キリストは真に救主でいらっしゃる。あなたこそ、生ける神の子キリストです」と告白して、バプテスマを受けました。やがて神様はその確信の上に彼を建て上げて、素晴らしい聖徒とされました。使命を受けて、多くの書簡を記しました。具体的には西アジアからヨーロッパに亘って広く伝道をし、大きな働きをしました。

最初にあったものは、この驚きです。神様の御言葉に対する驚き――パウロは頑固な人だったので、少々見せたぐらいでは、変わりませんから、神様はぱんっと光で打ち倒してしまって、彼を召されました。

今年神様は私達に新しい事をして下さいましたが、先ず自分を捨てるには、神様の御言葉に対して驚く事だと思いました。驚き仰ぐと自分の十字架を負う事が出来るのです。「神様がこんな者の為に、十字架を立てて下さいました。有難うございます」そうすると従えます。私がつべこべ言う

事はない。イエス様の十字架がなかったら、私は当然殺されてしまう筈だったのに、生かされているのですから、絶対従います。従うと今度はまた、自分を捨てる事が出来る。

◆従っていきますと、イエス様のお言葉が絶えず響いてきます。すると今度は前よりも従いやすくなります。戦時中、小樽港の岸壁で、貨車を動かした事があります。車輪の下にバールを入れて捏ねる。そうすると少しづつ動き出す、すると次は楽になります。神様が私達を動かして下さるのも、最初はなかなか動かない。よほどが一んとやらないと、パウロのように目が覚めないかも知れませんが、しかし少しでも動いてくると、その次は楽なのです。

そのように、驚いて、十字架を負うて、従っていきますと、また、捨てる事が出来る。そうするとまた、十字架を負う事が出来る。パウロは、最初はそういう事でしたが、のちには、自分から走っています。一切のものを糞土の如く投げ捨てて、自分の身を伸ばしつつ、彼は走りました。「全き人はこのように走るべきである——私個人が手本というのではない、私をこのようにして下さった神様は、あなた方も同じように期待していらっしゃる。さあ、走ろうではないか」と言って走りました。

「自分を捨て自分の十字架を負うて、私に従って来なさい」今年、この神様の素晴らしい約束、建て上げて下さるという約束を頂きましたが、具体的な歩みに於いては、絶えず自分を捨て、自分の十字架を負うて神様に従って行く。きちっとした純粋な材料を用いて、金の材料で建てて戴くように、神様にお従いさせて戴きたいと思いました。

◆「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう」(25)、自分を捨てないで、自分の命を救おうと思う——神様が何をおっしゃっても、聖会で何があっても、私には私の生き方がある。口ではそう言わないでしょうが、自分の心の中に、そう言うものががちっとある。「俺は俺の道を生きていかなければな

らない」すると、その俺のためにかえって生きられなくなるのです。窮屈になります。八方塞がりになって、行き詰まってしまう。

私が何十年かやって来た事であります。自分中心で一生懸命に頑張る、国の為とか言って、やりますが、結局は自分が生きられない。自分の体一つがどうにもならないところまで追い詰められてしまいました。こんにちには物質的に豊かで、金あまりの時代ですから、極限の生活をしようと思っても出来ませんが、神様が生きられないようにされたらどういう事になるか分かりません。

それとは逆に、「私の為に自分の命を失う者は」――自分を捨てて、「はい、私がどうこうと言う前に、神様のお言葉には従います。私はイエス様の血によって生かされている者であります。あなたに従うのが、人間の本分です」と従ってまいりますと、命を見出す。自分の事は考えない、私の事はもういい、と思っているとかえって溢れて来る。これはパラドックスです。逆になる。一生懸命に求めていると、どこかに逃げてしまう。いらないと思っていると、かえって溢れて来るものです。

この世の中でもよくあると思います。人間は目先の欲張りをして、結局大損をします。追掛け追掛けて、がっかりする。しかしかえって開き直って、もういらないと思っていますと、かえって沢山のものが溢れて来ることがよくありますが、神様はそういう方でいらっしゃる。

「誰でも私について来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、私に従ってきなさい」これはデリケートなものだと思いました。どかっとなら、どかっとなら十字架を負う――そうではないのです。最初は個人の心の中の非常にデリケートなものであります。

◆ローマ4:17/22、これはアブラハムの信仰ですが、アブラハムが99才の時、神様が子供を与えたとおっしゃいました。それより12～3年前ですが、妻サラは子供が生れないので、ご主人が女奴隷ハガルを第2婦人とする事を認めました。その子を自分の子供にしようという訳です。こうして

イシマエルが生まれました。

それから十何年かたって、神様が、「それはあなたの子供には違いないが、約束の子供ではない」とおっしゃったのです。それから空の星を見せて、「この星のように、あなたの子孫を多くしよう」と約束されました。お天気の良い時は目で見ても、2千とか3千とか見えるそうですが、望遠鏡で見るともっと沢山見えます。実際には何千億という星がある訳です。

神様はそう約束をされたのですが、自分を見ると、年はおよそ百才、妻は90才、子供が生まれて、空の星のようになるとは、到底信じられませんから、彼は自分の考えを捨てられないで、そんな事は無いと思ったのです。

自分の妻は産まずめで子供を生んだ事が無い――ところが神様のお言葉は上からやってまいります。「私はあなたを立てて、多くの国民の父とした。あなたの子孫はこうなるであろう」と言われます。すると彼はうーんと詰まってしまう。しかし神様だからどんな事でも出来るに違いないと思うのですが、また、自分の考えが出てきまして、そんな事がある筈はない。その間で苦しんだ訳であります。神様がおっしゃるのだから大丈夫、いや、そんな事はある筈はないと言う繰り返しです。

ですが、とうとう最後に彼は、「彼は望み得ないのに、なおも望みつつ信じた」(18)のです。相反する事を両立させるのは、大変な知的作業だと言われましたが、確かに彼は望み得ない。しかし神様は明らかに事実だとおっしゃる。どうしても両立出来ませんが、そこで彼は、「なおも望みつつ信じた」のです。これは表現が微妙です。望み得ないのですから、出来ないものは出来ない。しかし望みつつですから、望もうとして、そして望みながら、ぐっと信じる。

私は最近は車の運転をしませんが一すえぎりと言いまして、車が完全に止まったまま車輪の方向を変える事はむづかしい。ごく僅かにじりっつとでも、車輪が回転しながらですと、ハンドルを容易に切る事が出来ます。丁度それと同じように、アブラハムは望み得ない、動けないのですが、じ

りっと動きながら、ぐいっと舵を回すように、彼は、「望み得ないのに、望みつつ信じた」のです。

マルコ9章にも例があります。てんかんの子供を持ったお父さんが、イエス様の所に来て、「先生、出来ましたらこの子を癒してやって戴きたい」と申しました。その時にイエス様が、「出来ればと言うのか。信じる者には、どんな事でもして戴けるのだ」と言われたので、その父親は信じられないのですが、なんとしても自分の可愛い子供を癒して戴かなくてはならない。

それで彼は、「主よ、信じます」と飛込めないところを飛込む。「信仰無き私を憐れんで下さい」と言って、飛込んだのです。するとイエス様はたちまちその子を癒されました。

しかしその経過は人の常識とは違っていました。イエス様が悪霊を叱られると激しく引きつけて、倒れてしまいました。いつもなら、しばらくすると息を吹き返すのに、全く死んだ状態になってしまった。人々は、「これは駄目だ。イエス様でも救う事が出来なかった」と思っていました、イエス様が手を取って起されると、全く癒えて、再び病気になるとは書いてないのです。

そのお父さんが、信じられないのだが、「信じたい。主よ信じます、助けて下さい」と飛込んでしまう。アブラハムも信じられない、望み得ないのですが、望みつつ、なんとかして望みたい、望みたいと、望みつつ信じます。信じられない所をとうとう彼は信じたのです。

その時に神様は、てんかんの子供を癒されました。百才のアブラハムに子供が生まれました。それがイサクです。そのイサクが40才で結婚して60才で双生児が生まれました。それが、ヤコブとエソウです。

ヤコブは13人の子供がいました。その子供達がどんどん増え広がり、ききんを避けて、エジプトに移住した時には、70数人だったのですが、たちまちのうちに何百万にもなりました。出エジプトの頃には数百万の民にな

りました。荒野で数えた時には、戦争に行ける盛りの男だけで、60万3千何百人と言いますから、人口ピラミッドを考えると、その5倍とか6倍の人口があったに違いない。それ程、増えたのです。

一番始めはアブラハムの心の中の決断、信仰の戦いであります。どうする事も出来ない、信じたいが信じられない、どうしよう。そして望みつつ、信じたのです。それを神様は助けて下さったのです。

◆神様が助けて、少し動かして下さいれば、動くのだが……と言っていると動きません。柘植先生の所にある方が、「タバコをどうしても止めたいが、先生タバコを止められるでしょうか」と言って来たそうです。「あなたは止められないでしょう」「祈っても答えられないとは、聖書の約束と違うではないですか」――しかし聖書はそう言っているのではなくて、望み得ないのに、望んで信じるのです。「神様、あなたは力を与えて下さると信じますから、私は止めます」と、ちょっとでも踏み出すならば、神様は助けて下さるのですが、どかっと座って、本当は少しタバコをのみたい、止めたくないのだけれど、神様が力を与えて止めさせる事が出来るなら、止めようと言う気持でしたら絶対に駄目です。そのように言われたという事です。

信仰の歩みは3段階、3つが循環するとおっしゃいますが、その最初の一足は、非常にデリケートなものです。神様は、それを助けられるのです。

◆動物の世界について関心を持っていますと、色々な話を聞く機会があります。動物学者の本を読む事もあります。すると神様の知恵の豊かさ、創造の素晴らしさを知ります。

ある種の蛾は木に止まって生活しているうちに、木の肌と同じ色に変って行く。段だら模様の所にとまるある種の蛾は、最初は鮮明な黄色をしていますから、目立って鳥に食べられてしまう。そのうちにその種がだんだん変色して、保護色になり、今はちょっと見ても、蛾がいることが分からなくなりました、というようなテレビがありました。動物が環境に適応

【タバコをやめたい】

【生ける者の願いを飽かず】

していく事は、不思議としか言いようがない。

神様は生ける者の願いを飽かせられるという事が書いてあります(詩14 5:16)。その蛾は何とかして隠れたい、この木肌の模様の中に隠れたい。どんどん鳥に食べられる中で、隅に隠れて、何とか隠れたい、という必死の願望を、神様が助けて下さって、肌の色が変化する、そういう事ではないかと思えます。

だからただ不思議というのではなくて、もう一步踏み込んで考えると、何としても、二つの相反する事を、両立させなければならない。この木にこのままの自分が止っていたら食べられてしまう。しかしそれを何とかならないか、何とか、何とか、その為には木の色に変わりたい、その色に変わりたい、そしてここに隠れたいという気持、それがとうとう蛾の色を変えてしまった。

カメレオンも茶色の枝にいと、茶色ですが、緑の上に来ますと緑色になります。ぱっと変わる訳ではないでしょうが、やはりそれも彼等の何としても変りたいという願望が許されているのではないかと思えました。カメレオンの場合は自分を護る事もあるし、捕食の為にカムフラージュが必要でしょう。

◆私達が信じられない時になおも望みつつ信じる、アブラハムのように何とかしてと願いますと、神様はその本心を見て下さいます。

明8日の夕方結婚式のリハーサルがありまして、10日の午後3時30分から結婚式があります。私が最初にその依頼を受けました時に、「結婚式場のような事は出来ません」と言いましたので、困られたと思うのです。

(途中の話は省略して)どんなに譲っても今後神様を求めると言う姿勢だけははっきりして戴きたい。あなた方のお気持次第ですと申し上げました。すると、すぐにお二人とお父さんが見えて、「おっしゃる通りにいたします。毎週と言う訳にはいかないかも知れませんが、必ず求めます」と言われました。

【本心は分かる】

そこで、それではと受け入れて、準備をした訳です。

人間同士でも本心は分ります。言葉ではありません。私達は神様に対してどういう思いでいるか。本当に信じたいです、信じたいが、信じられない。どうぞ神様助けて下さいと、じりっじりっと進んで、神様、信じさせて下さい、飛込みますと言う熱意があれば、神様はよくお分りになります。

◆放蕩息子が本心に返って、「私は雇い人の一人で構いません」と言って帰った時に、お父さんは走り寄って、首を抱いてせつぶんしました。これは神様の型であります。私達が本心で帰りますならば、神様は飛出して来て、首を抱いて、「良く帰って来た」と迎えて下さる。「御免なさい、お父さん……」と言うのには答えもしないで、「さあ、皆、御馳走を持って来て、きれいな着物を持ってきなさい、宴会の用意をきなさい」と言うばかり。「今日は許すが、今度からしっかりしなければ駄目だぞ」とは言わない。何も言わないで、迎えてくれる。

ですから私達が神様の前に歩むのも同じです。こちらがもし、本気で己れを捨てると、十字架を示して下さい。「はい」と従っていきますと、「義なる神、救主であって私の他に神はない」とおっしゃる方が、嘘を言う事はない。人をがっかりさせるような事はなさいません。必ずこちらが期待した以上の事をして、喜んで飛出して来て迎えて下さる。神様の方が手を出して下さいの訳であります。実際に行動しますと驚いた事が起るので

◆ヨシュア3:12/17、エジプトから出たイスラエルの民が一旦はカナンの地に入ろうとしたのですが、神様のお言葉に従いませんでした。「おのれを捨て、おのが十字架を負って我に従え」ではなくて、己を突っ張って、「神様、こんな所へ行けるものですか。強い民がいて、堅固な城があって、私達は負けてしまいます」と言ったのです。神様は、「私をどうして侮るのか」ときつく叱られました。40日かかって斥候が帰って来たので、1日を1年として40年間、お前達は荒野をさまよってきなさい。その間に、現

【放蕩息子の本心】

【足が浸ると同時に】

在大人である者は皆死んでしまうとおっしゃった。

そして40年後、今度は入った訳で、これはその時の記事です。今度は己を捨てました。ヨシュアに対して、神様が指導されました。明日ヨルダンに行って、祭司達が契約の箱を担いで、ヨルダン川（雨期ですから岸一杯に水が溢れています）の中に踏み止まりなさい、そうしたら水が止まるとおっしゃいました。

それで彼等は己を捨てたのです。水が少ない時、浅瀬を探して渡るならともかく、こんな状態の時に、どう行っていいかわからない。しかし神様は、「行け、足が水の中に踏み止まる時に、水が切れ止まる」とおっしゃったのですから、彼等は命がけであります。深みに足をとられたら、ひっくり返って流されてしまうに違いない。神様の契約の箱が流されてしまったらどうなるのだろうか、人間はそういう事を心配します。

しかし彼等は、「望むべくもあらぬ時に、なお望みて」信じました。ヨルダンの岸に行って、祭司達の足が（微妙な表現ですが）水ぎわにひたると同時に――ひたると同時に水は止まったのですから、足は水にひたらない――彼等はそこまで踏込んだのです。水は切れ止まって、遙か遠くのアダム町のあたりでうず高くなりました。その間に、民は急いで向こう岸に渡りました。これが神様の報いでありました。

「私の為に自分の命を失う者は、それを見いだすであろう」とありますが、何を見出したか、神様が新しい事をして下さって、彼等を向こう岸の乳と蜜の流れる土地に植えて完成して下さいました。それは告白に伴う土台の上に、建てあげて下さったのでした。周囲にはカナンの7族がうごめいていましたが、神様は黄泉の力を防がれました。

また、権威を与えられました。他の民は恐れました。「神様があなた方と共におられる」と決して侮る事は出来ません。そのようにして神様が彼等を守られました。実際の行為に応じて報いるとありますが、事実そのように、神様は彼等に報いを与えられました。

◆伝道12:13/14、考えた事に報いを与えるとは書いてない。「わざ」ですから、自分が実際に実行した事に対して報われる。アブラハムは信ずればいいのだ、と言わず、実際ににじり寄って信じました。

てんかんの子供のお父さんは信じたいと思います、と言わず、「主よ信じます。信仰のない者を助けて下さい」と飛込みました。

また、祭司達はヨルダン川の中に本気で踏込んだのです。足先を水につけて見て止まるかどうか、やってみようと言わない。実際に体重をかけてずぶっと入ろうと思ったら、水の方が引いたのです。そして彼等は川の底に立ちました。

そのように神様は、「すべてのわざ、ならびにすべての隠れた事」現れた行為ですが、心の中の決断に対しても、神様はこれを、「よし」として助けられます。心の中の問題と思いますが、目に見える結果が出てくる訳であります。

◆マタイ16:24/25、どんなにお金を儲けても、自分が健康であったとしても、神様が命の土台を据えて、神様が建てて、生かして、守って、人間としての尊厳を与えて下さらなかつたら、どんなに雲の上に登っても虫けらと同じであります。動物と変わりません。どんなに人がお金を積んでも、永遠の命を貰う事は出来ません。

しかし、「人の子は父の栄光のうちに、御使たちを従えて来るが、その時には、実際の行ないに応じて、それぞれに報いるであろう」(27)、伝道の書の最後にもありました。実際の行ないに応じてですから、考えたら実際にそうする、したいですと、一步でも半歩でも1ミリでも、本心で踏出すならば、神様はそれを決して放置なさらない。必ず報いて助けて下さる。遙か先まで完成して下さる方でいらっしやいます。

先ず神様の前に自分を捨て、驚きをもって御言葉を仰ぎたい。そうすれば何も言う事は出来ないのです。神様の方が、「私は義なる神、救主」であって、この生ける神の子キリストを通して、完成するとおっしゃる、

「有難うございます」とこの方に従って行きたいと思います。毎日々々の生涯であります。1年間、ただ時間が経過するのではなく、いつもこの御言葉を仰いで、自分を捨て、自分の十字架を負って従って行く、すると神様は建てて下さるから、また、従って行く、するとまた、建てて下さる、また、従って行く。それが私達の建て方であります。

誰でも、と言われます、信仰年限が長くても、短くても、関係が有りません。男も女も関係がありません。誰でも付いて来たいと思うなら、自分を捨てなさいです。一番のポイントは、「自分を捨て」です。捨てますと、十字架を負わせて下さる。そして従わせて下さる。また、捨てさせて下さる。「私はこう思う」「いいえ、そんな事は」と言わない。「はっ」と驚いて、御言葉を仰ぐ。私はいつでもそんな新鮮な渴きを与えて頂きたいと思ひます。

ペテロは驚きを持って生きた人です。私もこの一年、神様の前に新鮮な目を持って、驚き続ける者でありたいと願っています。お祈り。

(1987.1.7. 戸畑教会新年聖会.11)



第 1 2 章 (7 日午後 7 時)

約束のものを受けるには

	ページ
時間は約束されていない	158
失望せずに祈り続けよ	159
鏡の前で姿勢を正して	160
確信を最後まで	160
祈りつつ歩む	161
感謝あかし会	161

「だから、あなたがたは自分の持っている確信を放棄してはいけない。その確信には大きな報いが伴っているのである」(ヘブル10:35)

◆今年の聖会では、神様が私達に賭けて下さいました。「義なる神、救主」決して間違いはない。この道を通して、私共の上にあくまでも救いを完成して下さい、と約束して下さいました。それには必ず大きな報いがあります。私達は神様の前に整えて戴いて、歩み出してまいりました。絶えず己を捨てて、十字架を負うて従うのです。

しかし、神様は時間的な約束をしておられません。「あなたは特別に信仰がいいから、1年で答えて上げよう――あなたは3年だ」そういう時間的な約束はされませんが、「神の御旨を行って約束のものを受けるため、あなたがたに必要なのは、忍耐である」(36)とありますから必ず約束を遂げられるのです。

「いつか分らないなんて、そんなうまい事を言って、適当にごまかしてしまうのではないか」そんな事は決してありません。人間はそういう事をします。「そのうちに」とか「検討します」と言うのは拒否の回答かも知れません。――日本人が、「検討しておきましょう」と言ったら、お断りの意味だと外国人も知っているそうです。

神様が大きな報いを与えるとおっしゃるのは、決して消えてなくなるような言葉ではありません。必ず報いを与えて下さる。それは「もうしばらくすれば、きたるべきかたがお見えになる。遅くなることはない」(37)とありますから、もうしばらくしたら、必ずお見えになる。

使徒行伝1章、「あなた方は日ならずして、聖霊にてバプテスマをほどこされる」と約束をされました。これも時間の約束はありませんでした。しかし彼等が実際に祈って待った日は、僅か10日間だったのです。10日で彼等は聖霊に満たされました。もし彼等が待ち望まないで、不真実であって、どうかなと言っていたら、もっと伸びたかも知れません。しかし、「父の約束を待ちなさい」とかねてから言われていたから、必ず遂げられ

ると、待ち望んでいた時、10日間で、神様は恵みを施して下さいました。

私達に対する神様の約束は真実なものでありますが、私達の方が離れやすいのです。それはヘブル3章に、「生ける神を離れ去る者があるかも知れない」と警告してあります。神様は、「生ける神の子キリスト、私の他に神はない」とおっしゃっておられるのですが、その方の真実を、博物館に葬って、次第に心が離れて行きますと、「いつの事か分らん、もう御旨でないに違いない。止めておこう」と放棄します。ですから神様がいざとなつて、与えようとしますと、受け取る人がいないと書いてあります。

◆ルカ18:1/8、不義な裁判官は、「面倒だから、彼女の為になる裁判をしてやろう」と言いました。イエス様はそれをたとえでお引きになって、こんな裁判官でも、面倒だからと答える。それならば、「私は義なる神、救主。お前の救主である、他のものを捨てても、あなたを我がものとする」とおっしゃる方が、日夜叫び求める選民を、どうして長い間放置される事があろうか。決して遅くなる事はない、もう暫くと言ったら、本当にもう暫く、もう直ぐなのだとおっしゃっておられる。

ところが人間はそれさえも、待つ事が出来ません。神が速やかに裁いて、救いの手を伸ばして下さいた時に、地上に信仰が見られないと言うのです。祈っていた人は全部いなくなって、荷物が届いた時には、受取人がいない事になるのではないか。だから失望せずに、常に祈り続けなさいとおっしゃいました。

ある会社でエレベーターの運行について、苦情が多かったそうです。大体遅いと言う人が多い。そこでエレベーターホールの壁に鏡を取付けたところ、ぴたっと苦情が無くなったそうです。皆待っている間に、鏡に向かってネクタイを直したり、髪を扱ったり、自分の顔を見て楽しむのか、苦情が無くなってしまったそうです。人を待たせるには、鏡が一番良いと言う事になったようです。

◆「わが義人は、信仰によって生きる。もし信仰を捨てるなら、わたし

のたまはこれを喜ばない」(ヘブル10:38)、神様は私達人間が僅かでも待てないという事をご承知で、私達の前に鏡を置いておられるように思いました。

信仰によって生き、日々に己を捨てて従うのですが、それは祈り求めるという事であります。神様との交わりを求めていらっしゃる。「ことごとくに祈りと願いとを捧げ、感謝して汝らの求めを神に告げよ」とありますから、神様、あなたは約束をして下さって、必ずこれを遂げて下さる。もう暫く、もうすぐとおっしゃったから、有難うございます」と神様の前に感謝して、祈ります。祈ってまいりますと、鏡に写ります。

自分は何とせっかちな者か、神様は答えるとおっしゃるのに、いらいらしてみたり、不信仰に陥ってみたり、何という事だろうか、これはいけないという訳です。ですからまた、神様の前に待ち望みます。「我が義人は信仰によって生くべし」と、神様は私達を整えて下さるのです。いつでも交わりを持たせて下さる。

◆ピリピ4:6/7、何事も思い煩わない、「いつになったら神様は答えて下さるのだろうか」そんな事を思い煩う間には、感謝をもって祈りなさいと言われるのです。神様は真実ですから、答えるとおっしゃったら答えられる、有難うございます。どうぞあなたの御旨を成して戴きたい。物事はこんなふう動いて来ました。反対のようでもあるが、神様は人間の方法与違うから、どういう事をやって下さるだろうか。

あるいは前向きに動いたら、「手程の雲を見せて戴いて、有難うございました。いよいよ近くなって来ました」と、神様の前に祈りと願いを捧げ、神様の前にいつでも立ってまいりますと、私達は時間を気にしなくなるのではないのでしょうか。神様との生きた交わりを持ってまいります時、私達は決して不足もなければ、退く事もない。「私達は信仰に立って命を得る者である」と書いてある通り、信仰に立って遂に命を得る。「最初の確信を、最後までしっかりと持ち続けるならば、私達はキリストにあずかる者

となる」(ヘブル3:14)、必ずキリストを実験体得させて下さるのです。

◆ヘブル10:38/39、神様が私達を導いて完成して下さるとするのは、一つには、「信仰に立って命を得る者」として下さる事です。私達が弱い事をご存知でいらっしゃるから、あまり長くなると疲れて、泣き寝入りしてしまうかも知れない。そこでそういう事がないように、絶えず私達をして神様の前に呼び求めさせ、神様の鏡に照らされて、姿勢を正す事によって、遂に命を得る者として下さるのです。

今年の一つ新しい事を教えられて、大変感謝しています。神様は鏡のようであると(詩18) ありましたが、本当に鏡のような方でいらっしゃる。神様と交わりながら、自分を写して戴いて、遂に約束の命に至らせて下さる、この事を思い今年是非常に感謝であります。

特別に祈り深くして行きたい。今までもそうですが、祈って行きたいと思いました。「わたしたちは、信仰を捨てて滅びる者ではなく、信仰に立って、いのちを得る者である」(ヘブル10:39)、「さあ、信仰に立って命を得る者になろうではないか。すでにそうされているのだから」と言って、ここから踏出させて下さる、これは大変感謝なことでもあります。この御言葉に従って、ここから踏出して行きたいと思えます。その第1歩が、感謝のお証かも知れません。お祈り。

=====◆感謝、証会(要約)=====

AAA 凄く恵まれ、新しい御霊の感動と喜びを与えられました。力を感じています。

BBB イザヤ45:22 が大きな力となり命となりました。神様が私に賭けて下さった事、仰ぎ望めば一切が勝利となる――大きな希望です。一年の勝利を感謝します。

CCC 求める者に真実に報いて下さいました。神様の救いの目的がはっきりしました。心の中に十字架に敵対するものがあった。神様に賭けたいと思えます。

DDD 仰ぎ望めば清めて下さるので勝利です。神様に対して賭けたいと思います。

EEE 主の臨在を鮮かに示されました。愛に迫られ魂を揺すられる思いがしました。呼び求める時、常に近くおられるとは何と幸いな事でしょう。

FFF 私が集会に励んでいるのではなく、憐れみで生かされ強められ、励まされているのだと感謝しています。

GGG 私が最近教えられて来た事と余りにも似ていたので、驚いています。神様が働いておられると信じます。

HHH 御言葉をはっきりして頂き、目を開かれ感謝です。「地の果なる諸々の人よ、私を仰ぎ望め、そうすれば救われる」との御言葉は、いつも聞いていたものですが、主の十字架を仰ぎ望む事を教えて頂きました。今年は忍耐をもって待ち望む者になりたいと思います。

III 今まで自分が信仰をもっているようなつもりでしたが、今回の聖会で自分がどんなにほんやりしていたか気付きました。「私は自分を指して誓った、私の口から出た正しい言葉は帰る事がない」――私に賭けて下さったのに、これでよいだろうかと感じました。もう一つ真剣に行かなくてはならないと、迫られました。

JJJ 元旦から三日間の聖会が取り止めになって、一瞬、戸畑の聖会はどうなるのだろうかと思いました。4日が新年のような感じ――しかし聖会には流れがありました。義と愛の調和と言うこと――人間は御言葉を聞きながら色々な思いが心に――その時に十字架に立ち帰って、私の聖会だったと――理屈じゃなくてただ従う――主だけを見つめて従うのが私の使命と分りました。

KKK 神様に対して凄く楽になりました。それは神様が義なる神、また憐れみ深い方――私達の為に全て整えて、ただ「はい」と十字架を仰ぎ望みさえすればよい――その神様が対話したいと言われる――本当に素晴らしいと思います。私に賭けて下さっている、私も賭けて行こうと――

一つの事実、一つの約束、御目的が私の内に投げこまれて、この一年の為に磐石の土台を築いて頂きました。始め4 日間は長いのではないかと感じていましたが、あっという間に終わりました。昨年から疲れますと回転性の目眩がするのです。昨朝またそれが起りました。今日はお弁当二食分持って出掛けようと思っていた時にそういう事でした。――その時のお話が、「賭けて下さる」と言うもので、賭けてよかったと思いました。そうしているうちに、すっかりしました。平常より元気になりました。賭ければ答えて下さる事を知りました。主人の仕事も急に無くなって出席出来ました。感謝です。

LLL 結婚以来30年間、新年聖会は毎年一度しか出られませんでした。戸畑教会になって多くの集会に出られて感謝です。私は皆さんの中で一番信仰が弱い、いよいよ駄目です。しかし今年はこの御言葉をしっかり頂いて、いつも前に置いて行きます。商売も非常に難しい年ですが、ヨルダン河に足を入れたら水が切れ止まって、山になったと言う――だから踏み入れたら出来ると信仰を与えられました。

MMM (伊規須) 昨年末に神様の恵みを纏めました。それと聖会の為に与えられた御言葉によって、集会毎に導かれた訳ですが、人間の計画でなく、全く神様の手によるものでした。おぼろげに見えている所をぐっと進むと、ずっと開けて来る。ダニエルが王の夢を解いた時そうであったらうように、私もそのような体験をさせて頂きました。こうして皆さんが恵まれていらっしゃるのを見ますと、「恵みをもって年の冠とする」と言われた方は真実であられると思います。

(1987.1.7.19° 00 戸畑教会新年聖会.12)

===== * * =====

1954年12月15日，在蘇聯駐華大使館，與蘇聯駐華大使謝爾蓋·米哈伊洛維奇·洛馬金會談。會談中，蘇聯大使對中國政府提出的關於蘇聯在遠東的軍事問題表示理解，並表示蘇聯政府將採取一切必要措施，以維護遠東地區的和平與穩定。會談在友好氣氛中進行，雙方就共同關心的國際問題交換了意見。

（蘇聯駐華大使館）

1954年12月16日，在蘇聯駐華大使館，與蘇聯駐華大使謝爾蓋·米哈伊洛維奇·洛馬金會談。會談中，蘇聯大使對中國政府提出的關於蘇聯在遠東的軍事問題表示理解，並表示蘇聯政府將採取一切必要措施，以維護遠東地區的和平與穩定。會談在友好氣氛中進行，雙方就共同關心的國際問題交換了意見。

（蘇聯駐華大使館）

1954年12月17日，在蘇聯駐華大使館，與蘇聯駐華大使謝爾蓋·米哈伊洛維奇·洛馬金會談。會談中，蘇聯大使對中國政府提出的關於蘇聯在遠東的軍事問題表示理解，並表示蘇聯政府將採取一切必要措施，以維護遠東地區的和平與穩定。會談在友好氣氛中進行，雙方就共同關心的國際問題交換了意見。

（蘇聯駐華大使館）

1954年12月18日，在蘇聯駐華大使館，與蘇聯駐華大使謝爾蓋·米哈伊洛維奇·洛馬金會談。會談中，蘇聯大使對中國政府提出的關於蘇聯在遠東的軍事問題表示理解，並表示蘇聯政府將採取一切必要措施，以維護遠東地區的和平與穩定。會談在友好氣氛中進行，雙方就共同關心的國際問題交換了意見。

基督伝道隊戸畑教会 1987年新年聖会記録

1987年2月25日発行

著者 伊規須 太郎
発行所 基督伝道隊戸畑教会出版部
〒804 北九州市戸畑区小芝2-1-13
TEL 093(882)9266

テレホン聖書 TEL 093(881)1059テンゴク